



# 高めよう！ 自己有用感

～ 栃木の子どもの現状と指導の在り方～



平成 25 年 3 月  
栃木県総合教育センター

はじめに

今日、いじめや不登校の増加、規範意識の低下、さらには、学力や学習意欲の低下などが教育の大きな課題となっています。それらの課題は、他者との関わりが希薄になっていることや、子どもの自信のなさという心の状況も要因の一つとなっていると言われてしています。

栃木県では、昭和 62 年度から本県独自の教育運動として「いきいき栃木っ子 3 あい運動」を展開してきました。「学びあい 喜びあい はげましあおう」を合い言葉とする本運動は、学校が児童生徒にとって、学ぶことに喜びを感じ、生き生きと生活することのできる場となるよう、学校教育の一層の活性化を図ることをねらいとして、現在も受け継がれています。その成果として、県内の学校では、概ね互いに認めあい、励ましあえる好ましい集団が形成されています。しかし、個々の児童生徒に目を向けると、好ましい人間関係を築くことや自分の考えを伝えることが苦手な児童生徒、また、自分に自信がもてずにいる児童生徒がいるのが現状です。

そこで、栃木県総合教育センターでは、「とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）」における「とちぎの教育が目指す子ども像」の「自他の存在を尊重し協同する子ども」を踏まえ、「他者や集団との関わり」の中で育まれると考えられる「自己有用感」に着目し、平成 23・24 年度「栃木の子どもの自己有用感調査」として調査研究を実施しました。

本報告書では、小学 4 年生から高校 3 年生までの約 3,000 人の質問紙調査の結果分析とともに、学校現場での聴き取り調査をもとにして、「自己有用感とは何か」「自己有用感はどのようにすれば伸ばせるか」などについてまとめています。

本県が「とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）」において目指す理念「とちぎの子どもたちを 自らの力で 自分の未来を 力強く切り拓いていける人間に育てます」を実現するための一つの方策として、自己有用感を高める指導に、本書を御活用いただければ幸いです。

最後になりましたが、本調査研究を進めるにあたり、御指導、御助言を賜りました筑波大学人間系教授 櫻井茂男先生、並びに御協力いただいた調査協力校の先生方に対しまして、厚く御礼を申し上げます。

平成 25 年 3 月

栃木県総合教育センター所長

金井 正

# 目 次

はじめに

研究に寄せて

「自己有用感」に関する調査・研究の重要性について  
—心理学の立場から—

1

## 第 I 章 自己有用感とは

1	研究の背景	3
2	本研究における「自己有用感」とは	5
3	研究の目的及び方法	
	(1) 研究の目的	7
	(2) 研究の方法と内容	7
	(3) 質問紙の作成について	7
4	自己有用感を構成する要素	9
5	「栃木の子どもの自己有用感」の状況	
	(1) 学年別推移から分かる自己有用感の状況	11
	(2) 各要素の平均から分かる自己有用感の状況	12
	(3) 栃木の子どもの意識や行動の特性	14
	(4) 自己有用感が高い子どもの意識や行動の特性	15
	(5) 自己有用感が高まる環境	17
	(6) クラスでの自己有用感と教育的環境や関わり方	18
	コラム 「自己有用感」と「自尊感情」	21

## 第 II 章 自己有用感を高めるには

1	小学生の自己有用感を高めるには	
	(1) クラスでの自己有用感を高める手がかり	23
	(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例	24
2	中学生の自己有用感を高めるには	
	(1) クラスでの自己有用感を高める手がかり	28
	(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例	28
3	高校生の自己有用感を高めるには	
	(1) クラスでの自己有用感を高める手がかり	31
	(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例	31

### 第Ⅲ章 「自己有用感尺度」と分析ツール

1	自己有用感尺度	3 5
	「ふだん思っていることに関するアンケート」	3 6
2	分析ツールの使い方	3 8
3	グラフから考えられる子どもの傾向	
	(1) 自己有用感と関係性のバランスに注目して	4 1
	(2) 「クラスでの自己有用感」に注目して	4 3
	(3) 「先生との関係における自己有用感・家庭での自己有用感」に注目して	4 4
	資料・データ集	4 6
	参考文献・参考資料	6 7

## 研究に寄せて

「自己有用感」に関する調査・研究の重要性について ー心理学の立場からー

これまで心理学では「自尊感情 (self-esteem : 自尊心、自己尊重、セルフ・エスティームともいう)」が重要視されてきました。それは、この変数が精神的健康や適応と強く関連するため、自尊感情を高めれば精神的健康や適応もよくなる、と考えられるからです。ただ、自尊感情の定義は多様で、ある心理学辞典による「自分自身を基本的に価値あるものとする感覚」という定義は、もっとも包括的なものといえるでしょう。一方「自己有用感」は、最近注目されるようになった概念で、本研究では「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」と定義しています。

自尊感情と自己有用感を比べると、自尊感情が、領域を定めずに (一般的に) 「自己の価値 (self-worth)」を認めることであるとすれば、自己有用感も、社会的な関係のなかで (社会的領域において) 自己の価値を認めることである、といえるように思われます。そうした意味では、自己有用感も自尊感情の一部にとらえられます。その証拠に、例えば自尊感情研究の第一人者であるローゼンバーグ (Rosenberg, M.) が作成した著名な尺度を調べてみると、「私は自分が役立たずだと感じる (反転項目)」というような項目が含まれており、これを「他者の役に立つことができないと感じる」と解すれば、自己有用感も自尊感情の一要素と考えることができるのではないのでしょうか。

これまで自尊感情を高める方法がいろいろと考案されてきましたが、どれも大きな成果はあげられなかったようです。それは、領域や要素をうまく絞った研究がなされなかったからではないのでしょうか。本研究には、社会的な関係に領域を絞って自己有用感 (社会的関係における自己価値感) を取り上げ、それを高めることによって自尊感情 (一般的な自己価値感) も高める、という発想が込められています。具体的に言えば、子どもたちが他者 (おもに周囲の人たち : 家族、級友、先生) に役立つような行動をし (本研究における「貢献」)、それが他者に認められること (「承認」) によって自己有用感 (「存在感」) が育ち、その結果生じると考えられる他者との関係性 (「関係性」) の改善とともに自尊感情も高まる、という流れが想定できます。

本研究では、自己有用感を測定する尺度を開発し、つぎにそれを用いて多様な変数との関連を検討し、さらに自己有用感を育てる具体的な方法まで提案しています。研究としては素晴らしいスタートを切りました。今後の研究によって自己有用感を高める効果的な方法が明らかになれば、それを用いて自尊感情を高めること、さらに精神的健康や適応を高めることも夢ではないでしょう。今後の研究に大いに期待しています。

平成 25 年 3 月

筑波大学人間系教授 櫻井 茂男

# 第Ⅰ章

## 自己有用感とは

本調査研究における自己有用感の捉え方や自己有用感を構成する要素、栃木の子どもの自己有用感の状況についてまとめました。

## 1 研究の背景

私達は、自然や文化、社会などとの関わりの中で生活を営んでいます。心身ともに成長期にある児童生徒は、家庭や学校はもちろんのこと、地域の中での人々との関わりによって、人間関係や集団のルールなど様々なことを学びながら、社会性や規範意識などが育まれ成長していきます。

しかし、都市化や少子化、情報化などの進展により、社会全体には様々な問題が生じており、子どもを取り巻く状況は急速に変化しつつあります。中でも、核家族化・少子化の進行は、地域のつながりの希薄化や地域行事の衰退を生み、仲間との遊びや大人との触れ合いなど、「人との関わり」の機会や社会体験及び自然体験を減少させているのが現状です。文部科学省は、「暴力行為のない学校づくりについて(報告書)」(平成23年7月)において、「最近の児童生徒の傾向として、感情を抑えられず、考えや気持ちを言葉でうまく伝えたり人の話を聞いたりする能力が低下していることなどが挙げられ・・・<中略>・・・。その背景には・・・<中略>・・・人間関係の希薄化、家庭の養育に関わる問題・・・<中略>・・・など、児童生徒を取り巻く家庭、学校、社会環境の変化に伴う多様な問題があるものと考えられる。」と報告しています。

本センター研究調査部では、平成15年度より、子どもたちのよりよい成長に資する指導資料作成のため、本県児童生徒の生活状況や規範意識、豊かな心を育む読書活動、キャリア教育、人間関係づくりなどに関する調査研究を行ってきました。このうち、平成20・21年度に実施した「栃木の子どもの生活状況調査(小・中・高)」では、高校生のおよそ4人に一人が「みんな私を嫌っている」と回答しています。自分自身を否定的に捉えている生徒が少なくないという実態が明らかになりました(図1.1)。

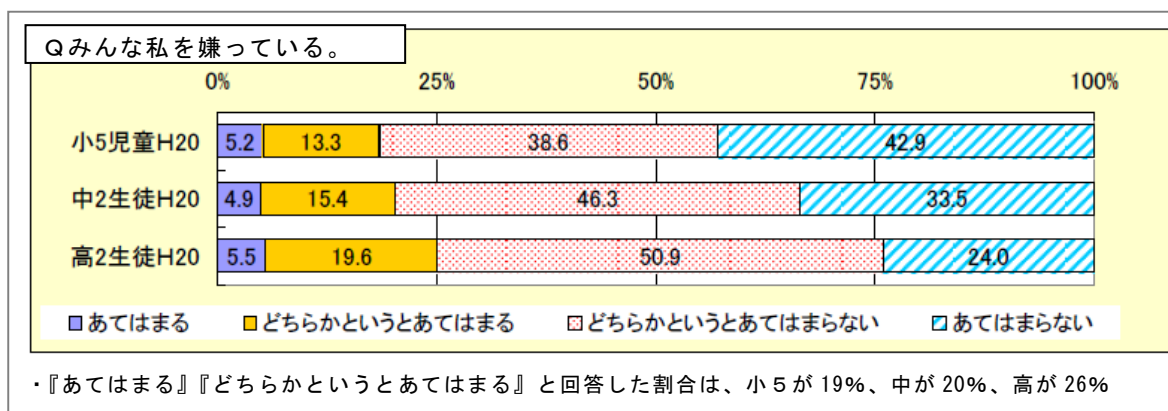


図 1.1「栃木の子どもの生活状況調査(小・中・高)」より

また、平成21・22年度に実施した「栃木の子どもの学ぶ意欲の向上（小・中）－学ぶ意欲を育てるための指導の在り方－」調査結果からは、「自分は、勉強がよくできると思う」「勉強面では友達からたよられていると思う。」の質問項目で調べた「有能感」の低さが特に目立っており、本県の児童生徒は、自分に自信がもてないという実態が見えてきました(図1.2)。

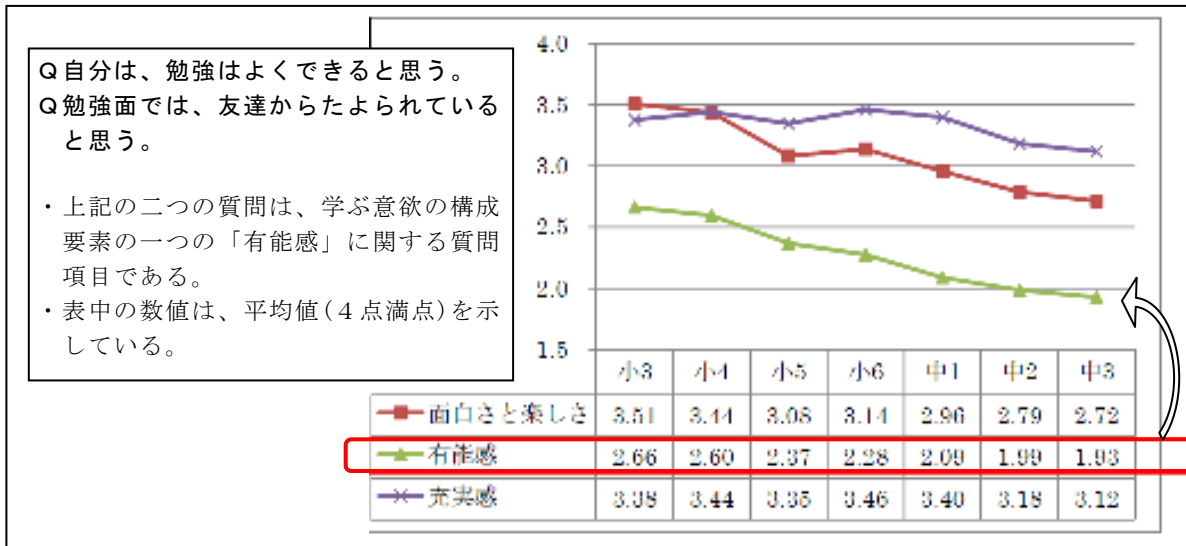


図 1.2「栃木の子どもの学ぶ意欲の向上（小・中）－学ぶ意欲を育てるための指導の在り方－」より

「自分自身を肯定的に捉える意識や自信」をもつことは、心身ともに明るく健康に、よりよく生きていくための心理的な基盤となるものです。また、学習への主体的な取組や向社会的な行動は、確かな学力、豊かな心、健やかな体の調和を重視する「生きる力」にも通ずるものと言われています。

本センターでは、これまでに行ってきた調査研究\*の結果から、他者や集団との関わりに着目し、その中で育まれると考えられる「自己有用感」について研究を進めることにしました。

- \* ・ 『栃木の子どもの学ぶ意欲の向上（小・中）－学ぶ意欲を育てるための指導の在り方－』（平成23年3月）
- ・ 『栃木の子どもの規範意識調査（小・中・高）－本県児童生徒の規範意識の把握と望ましい指導の在り方－』（平成23年3月）
- ・ 『栃木の子どもの生活状況調査（小・中・高）－本県児童生徒の生活状況の把握と望ましい指導の在り方－』（平成22年3月）
- ・ 『集団における望ましい人間関係づくりに関する調査研究』（平成19年3月）



## 2 本研究における「自己有用感」とは

本調査研究では、他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚を「自己有用感」と捉えました。「自己有用感」は、児童生徒の望ましい意識や行動（学習への意欲や思いやりのある実践力、規範意識など）につながると仮定し、学校においてどのような指導が効果的であるのかを研究していくことにしました。

この「自己有用感」について、生徒指導提要の「教科における生徒指導の意義」においては、次の下線部のように「自己存在感」と並べて示されています。

（生徒指導提要 第2章 第1節 1 「教科における生徒指導の意義」より抜粋）

毎日の教科指導において生徒指導の機能を発揮させることは、児童生徒一人一人が生き生きと学習に取り組み、学校や学級・ホームルームの中での居場所をつくることにほかなりません。このことには、児童生徒一人一人に自己存在感や自己有用感を味わわせるとともに、自尊感情を育て、自己実現を図るという重要な意義があります。（下線は稿者が付した）

「自己有用感」や「自己存在感」を味わわせることと「自尊感情を育て、自己実現を図る」ことは、生徒指導において重要な意義があることが分かります。

また、国立教育政策研究所生徒指導進路指導研究センター総括研究官の滝充氏（平成25年3月現在現職）は、「自己有用感」について、「『異学年交流』『地域交流』こそ育成の要諦—徹したい教師の『学習支援』—」（『CS研レポート』Vol.58 2006年）の中で自身の考えを以下のように示しています。

（「『異学年交流』『地域交流』こそ育成の要諦—徹したい教師の『学習支援』—」（『CS研レポート』Vol.58 2006年）より抜粋）

様々な他者と関わる実体験から獲得される、人と触れあうことの楽しさや集団の一員として役割を果たすことの充実感。中でも、「お世話をする—される」という異年齢の関係から年長者が獲得する「認めてもらえて嬉しかった」「役に立ててよかった」「必要とされていると感じた」等の感覚。私はそうした自信や誇りの感覚を「自己有用感」と呼んで重視している。それがあれば、少々面倒だったり大変だったりしても、子どもは自ら進んで他者と交わろう、社会と関わろうとするからである。

他者なしでも成立する自尊感情や自己存在感と異なり、「自己有用感」は他者の存在や他者との交流を前提にして生まれる。だからこそ、「社会性の基礎」となって、他者に対する配慮や集団に対する責任感、きまりを守って行動しようとする自覚等にも結びついていく。今、学校に求められているのは、「自己有用感」を獲得できるような体験活動の機会を増やすことだと言える。

そこで必要になるのが、学級や学年を超えた異年齢間や地域との活動を意図的・計画的に組むこと、そして教師の関わり方を見直すことである。自尊感情や自己存在感なら、積極的に子どもを褒めることで、教師が直接に与えることもできる。だが、「自己有用感」は、他者との関わりから子どもが自ら感じとるものだから、教師が直接に与えることはできない。

教師に求められるのは、私が「教育（学習支援）的」と呼んでいる回りくどい関わり方、すなわち、

- ①子どもが「活動の中心＝主体」となって課題や問題に取り組み、それらを達成・克服していける交流活動等の機会を準備すること。
- ②その後は子どもに任せ、「支える」「見守る」裏方に徹することなのである。

（下線は稿者が付した）

本調査研究においては、「自己有用感」を捉えるに当たり、これらの記述を参考に、次のように考えました。

- ・児童生徒の「自己有用感」は、生徒指導の上で「自己存在感」や「自尊感情」を高めることと同様に重要なものであり、他者に対する配慮や集団に対する責任感、きまりを守って行動しようとする自覚等にも結びついていく。
- ・「自己有用感」は、「個人内での感覚であること。かつ、自分自身を肯定的に捉える感覚であること。」という点においては、前掲の生徒指導提要にある「自己存在感」や「自尊感情」と重なる部分がある。しかし「自己有用感」は、あくまでも他者の存在や他者との関わりを前提にして生まれる。

なお、「自己有用感」という語の中にある「有用」という表現は、言葉の使い方によっては個人の尊厳にも関わるような表現となることもあります。本調査研究における「自己有用感」の「有用」とは、他者や集団から見て「役に立つ」「役に立たない」などというように、機能的な「有用度」を表すものではなく、本人が他者や集団との関わりの中で自分自身の価値についてどう感じているかという実感を示す感覚として用いています。

#### 本調査研究における「自己有用感」の定義

「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」

### 3 研究の目的及び方法

#### (1) 研究の目的

「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」である自己有用感が高まれば、児童生徒の自分自身を肯定的に捉える意識や自信をはじめ、望ましい意識や行動につながります。このことを検証するために、まず、「他者や集団との関わり」に着目し、自己有用感を測ることができる尺度を作成して、栃木の児童生徒の自己有用感の現状を把握します。次に、学校においてどのような教育的環境や関わり方が自己有用感を高めるのに効果的であるのかについて、研究します。

#### (2) 研究の方法と内容

「ふだんの生活や思っていることに関するアンケート」（以降「質問紙」と記す）を作成し、県内の小学校4年生から高校3年生までの児童生徒約3,000人を対象に、平成23年度に予備調査、24年度は本調査を実施しました。

##### 本調査 ○調査対象

- ・小中学校：小学4、5、6年、中学1、2、3年（各330名程度）  
学校規模、市町、地域の学校数を考慮して26校を抽出
- ・高等学校：高校1、2、3年（各学年340名程度）  
学区、学科等を考慮して10校を抽出

##### ○調査期日

- ・平成24年7月の第1週～第2週の学校が定めた日

#### (3) 質問紙の作成について

質問紙は、**質問1**「自己有用感」、**質問2**「望ましい意識・行動」、**質問3**子どもを取り巻く「教育的環境・関わり方」で構成しました。

**質問1**では、児童生徒にとって身近な他者や集団の中から「クラス」と「家庭」、身近な大人の代表として「先生」の三つの関係を取り上げ、自己有用感を測ることができる尺度の作成を目指して設定しました。**質問1**で得られた結果の分析により、自己有用感の構成する要素を明らかにします。

なお、本調査研究ではそれぞれの関係における自己有用感を次のように記します。

- クラスの人との関係の中で児童生徒が感じている自己有用感  
……………「クラスでの自己有用感」
- 先生との関係の中で児童生徒が感じている自己有用感  
……………「先生との関係における自己有用感」
- 家の人との関係の中で児童生徒が感じている自己有用感  
……………「家庭での自己有用感」

質問2では、子どもたちの「望ましい意識・行動」として、「生活」「学習」「自尊感情」「規範意識」「将来展望」「他者への思いやりのある行動（向社会的行動）」等の状況について調査し、「自己有用感」との関連を分析しました。質問項目の作成にあたっては、『栃木県教育振興基本計画とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）』を参考にしています。

質問3では、子どもを取り巻く「教育的環境・関わり方」として、友達、先生、家族、地域の人などの様子や関わりなどについて、他者を評価する形式の質問項目で調査し、「自己有用感」との関連を分析しました。子どもの自己有用感を高めるためには、どのような教育的環境や関わり方が求められるのかを明らかにします。

本調査研究のために作成した質問紙の構成は、表 1.1 のとおりです。

表 1.1 質問紙の構成

	名 称 (質問項目数)	方 法
質問1	「自己有用感」 (33問)	三つの関係（クラス、先生、家庭） 5件法：肯定5 ←→ 1 否定
質問2	「望ましい意識・行動」 (36問)	4件法：肯定4 ←→ 1 否定
質問3	「教育的環境・関わり方」 (30問)	4件法：肯定4 ←→ 1 否定

本調査研究では、質問紙調査における結果の分析を通して、以下のことについて明らかにするとともに、尺度及び分析ツールを開発していくこととしました。

#### 本調査研究で明らかにするもの

- ・ 自己有用感を構成する要素など
- ・ 栃木の子どもの自己有用感の状況
- ・ 自己有用感を高めることにつながる具体的な指導の手立て

#### 本調査研究で開発するもの

- ・ 自己有用感を測ることができる「自己有用感尺度」
- ・ データの入力や集計に便利な分析ツール

## 4 自己有用感を構成する要素

【質問1】の調査結果を因子分析することにより、自己有用感は、主に「存在感」「承認」「貢献」の要素で構成されることが分かりました。特に、「存在感」が「自己有用感」の中心的な構成要素であることも分かりました。なお、結果の詳細については、巻末「資料・データ集」を参照してください。

## 自己有用感を構成する要素

- ・「存在感」：他者や集団の中で、自分は価値のある存在であるという実感
- ・「承認」：他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況
- ・「貢献」：他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況

また、分析の結果から、どの学校段階においても「関係性」と名付けられる要素も分類されました。この「関係性」を構成した質問項目は、次の表1.2に示すとおり、他者や集団に対して「〇〇と一緒にいると安心する」「〇〇を信頼している」「〇〇に支えられている」でした。この結果から、「関係性」については、次のように捉えました。

- ・「自己有用感」の定義として示した「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」の中の「他者や集団との関係の中で、」までに示される他者や集団との関係の状況を示すものであり、「自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」ではない。
- ・「自己有用感」の獲得のために前提条件となるなどの重要なものである。

表 1.2 要素として分類された質問項目

要素	分類された質問項目
存在感	「〇〇の役に立っている」「〇〇から頼りにされている」 「〇〇の重要な一員だ」「〇〇から信頼されている」
承認	「〇〇からほめられる」「〇〇からありがとうと言われる」
貢献	「〇〇の手伝いをする」「〇〇が納得するような意見を言う」
関係性	「〇〇と一緒にいると安心」「〇〇を信頼している」 「〇〇に支えられている」

※ 表中の〇〇には、「クラスの人」「先生」「家の人」が入る。

これらのことを踏まえ、本調査研究では、この「関係性」は自己有用感を構成する要素ではないが、自己有用感の獲得につながる重要なものであり、子どもの状況を把握する上で注目すべきものであると考え、分析の際にも着目することにしました。

図1.3は、「自己有用感」を構成する三つの要素と「関係性」との関連の強さを、分析結果に基づいて、矢印の大きさを模式的に示したものです。

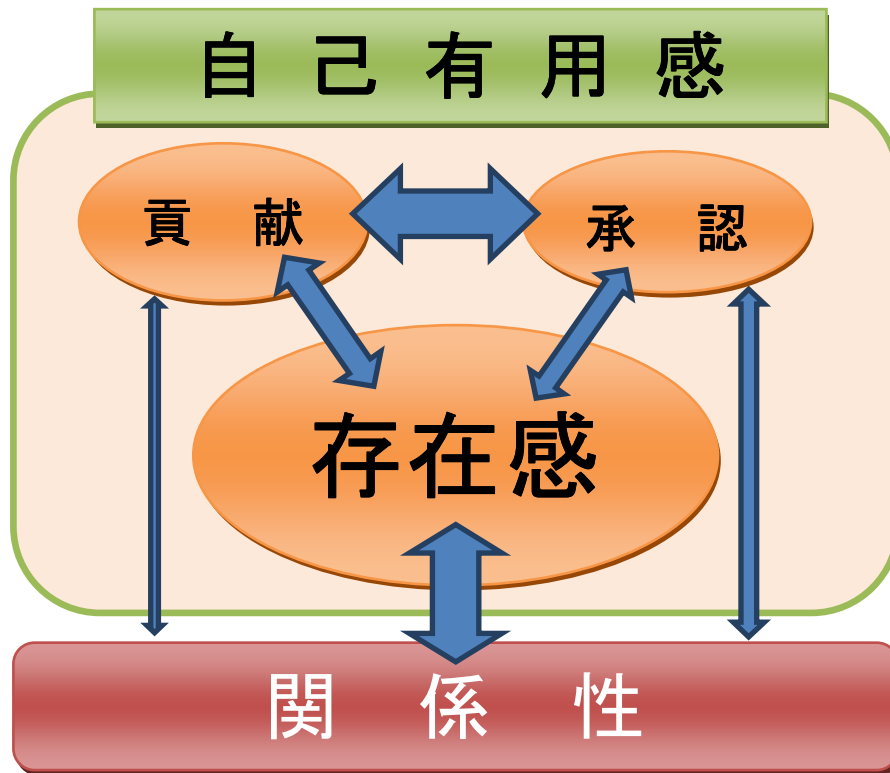


図1.3 自己有用感を構成する三つの要素と「関係性」

図は、良好な人間関係のもとで他者や集団に「貢献」し、「承認」されることで、他者や集団における「存在感」が高まる様子を示しています。同時に、「自己有用感」は「関係性」と共に高まっていくことが分かります。

他者との関係や所属する集団の中においては、本人が実感している「存在感」が、他者や集団に「貢献」したいという意欲につながり、「貢献」できたことで満足感を得たり、「承認」されたりするということとなります。

このように、「自己有用感」は、構成する主要要素の「存在感」「承認」「貢献」が相互に関連し合って高まっていくものと考えられます。

また、自己有用感の構成要素ではないものの、自己有用感の獲得において重要と考えられる「関係性」については、上図のように、自己有用感を支える土台のようなイメージで捉えることにしました。

## 5 「栃木の子どもの自己有用感」の状況

「栃木の子どもの自己有用感」の状況を調べるために、**質問1**は5件法で、**質問2**と**質問3**は4件法で調査しました。5件法では、最も肯定的な回答を5点、最も否定的な回答を1点として算出しています。なお、結果の詳細については、巻末「資料・データ集」を参照してください。

## (1) 学年別推移から分かる自己有用感の状況

図1.4は、**質問1**（計24問）の平均の学年別推移です。なお、**質問1**のうち、「関係性」の質問項目（計9問）は、ここから除いてあります。

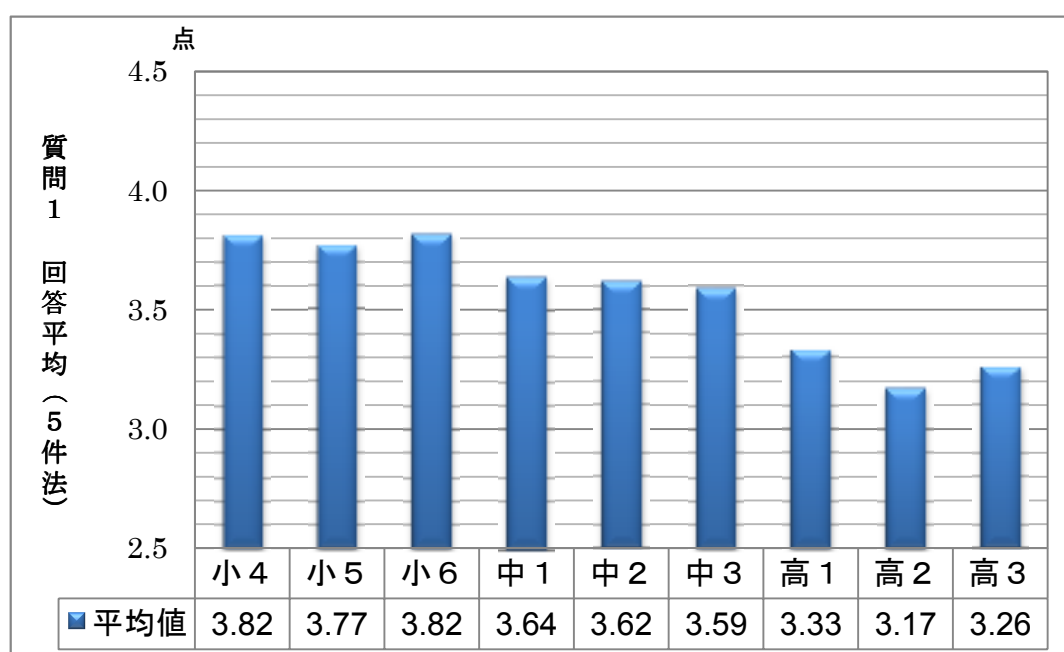


図1.4 自己有用感の状況（学年別集計）

小学校4年生から高校3年生まで同じ質問紙で調査したため、発達段階により文言の捉え方に差が生じていることは避けられませんが、学年が上がるに従って、自己有用感はある傾向にありました。

小学校6年生と高校3年生で自己有用感がわずかに上昇しています。小学校6年生は、校内での最高学年として日々の学校生活や行事などで下級生から頼りにされたり、責任のある役目を与えられたりすることなど、他者や集団に貢献する場面が多くなるなど、自己有用感が高まる状況にあるためではないかと考えられます。高校3年生は、最高学年としての活躍の他に、卒業や進路の実現を目指して、実際に努力をしていることを承認されることなど、自己有用感が高まる状況にあるためではないかと考えられます。



図 1.5 は、自己有用感を三つの関係別に集計した結果です。

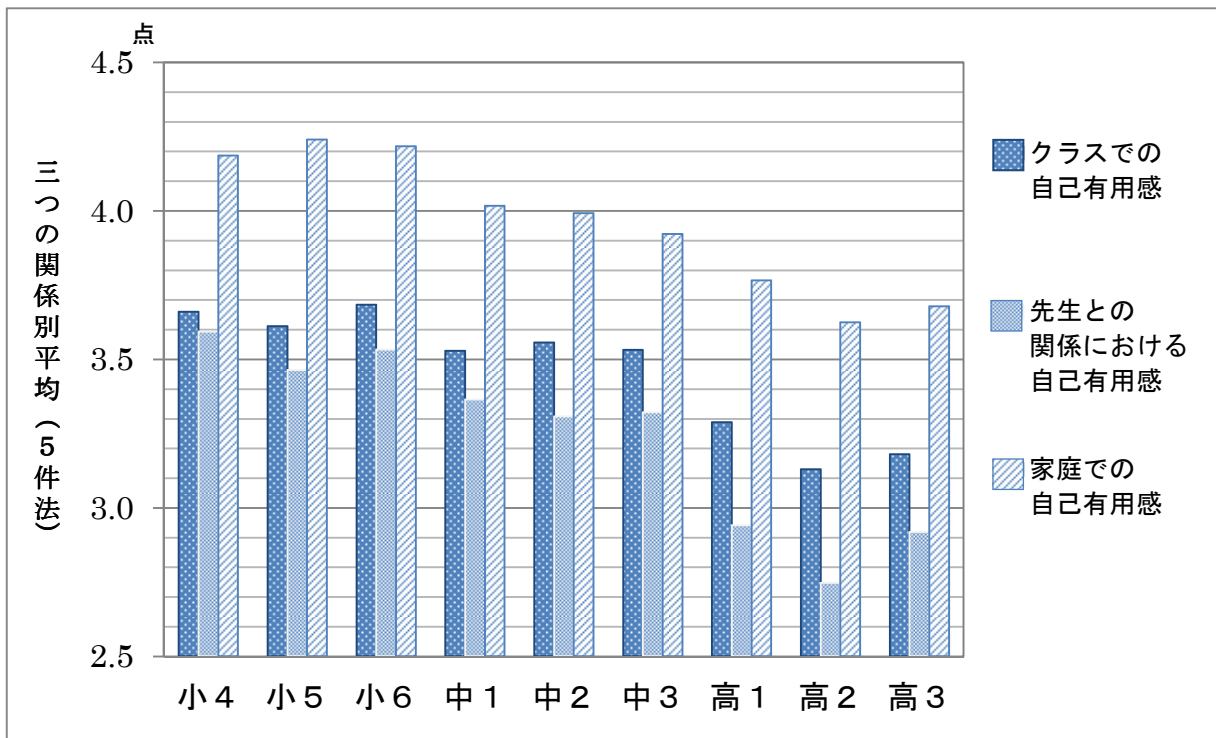


図 1.5 関係別の自己有用感の状況（学年別集計）

「家庭での自己有用感」が最も高く、続いて「クラスでの自己有用感」、「先生との関係における自己有用感」の順となっています。自立に向かっている高校生においても、家庭での自己有用感が高いことが分かります。

#### 栃木の子どもの自己有用感の状況①

- 学校段階が上がるにつれ、児童生徒が感じる自己有用感はある傾向がある。
- 「クラスでの自己有用感」や「先生との関係における自己有用感」よりも、「家庭での自己有用感」が高い。

#### （2）各要素の平均から分かる自己有用感の状況

家庭、クラス、先生のそれぞれの自己有用感の状況を調べるために、要素別の平均値を求めました。また、本調査研究における「自己有用感」が他者や集団との関わりを前提としているため、「関係性」の平均値も求めました。特に、家庭とクラスにおいては、結果に差異が見られたので次に示します。



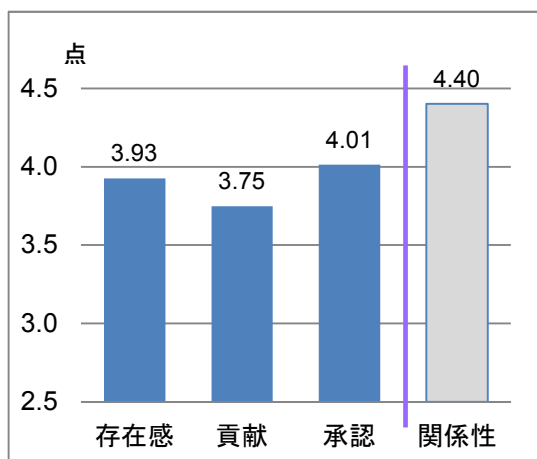


図 1.6 要素別平均点（家庭）

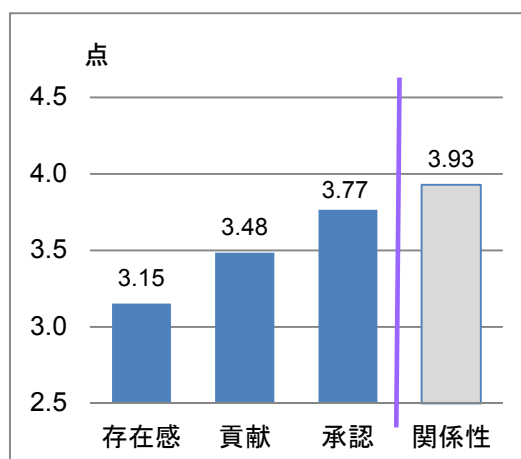


図 1.7 要素別平均点（クラス）

「家庭」においては、図 1.6 に示されているように「関係性」が 5 点満点中 4.40 点と高く、本県の児童生徒にとって家庭は居心地のよい空間であることが分かります。また、「存在感」が 3.93 点という比較的高いポイントであることから、児童生徒が良好な家族関係の中で、「承認」を得たり「貢献」をしたりすることを通して「存在感」を実感している様子が見えてきます。

一方、図 1.7 に示された「クラス」においては、「関係性」が 5 点満点中 3.93 点で「家庭」と同様に高く、「承認」「貢献」の得点も比較的高いことから、本県の児童生徒は、互いに認め合う雰囲気があるクラスの中で、良好な人間関係を築いていることが分かります。しかし、「存在感」は 3.15 点で相対的に低く、児童生徒が、互いを認め合う雰囲気のあるクラスの中で「貢献」していても、クラスでの「存在感」は実感しにくいことが分かりました。

「存在感」は自己有用感の中心的な要素であり、クラスで自分は価値ある存在であると実感する「存在感」を高めることが、課題であると考えられます。

### 栃木の子どもの自己有用感の状況②

- 「家庭」での要素別の平均点は、「承認」「存在感」「貢献」の順に高い。
- 「クラス」での要素別の平均点は、「承認」「貢献」に比べて「存在感」が低い。

クラスにおける「存在感」を高めるためには、一人一人に活躍の場を与えたり、その行動がどのように集団に役に立ったかを価値付けして褒めたりすることなどが有効です。そして、自分はクラスの重要な一員であることを本人が自覚できるように、教師が支援していくことが大切です。



(3) 栃木の子どもの意識や行動の特性

【質問2】では、栃木の子どもの意識・行動の状況を調べるため、36 問の質問項目を設定し、4 件法で調査しました。次の図 1.8 は、全学校段階の質問項目別の平均点です。

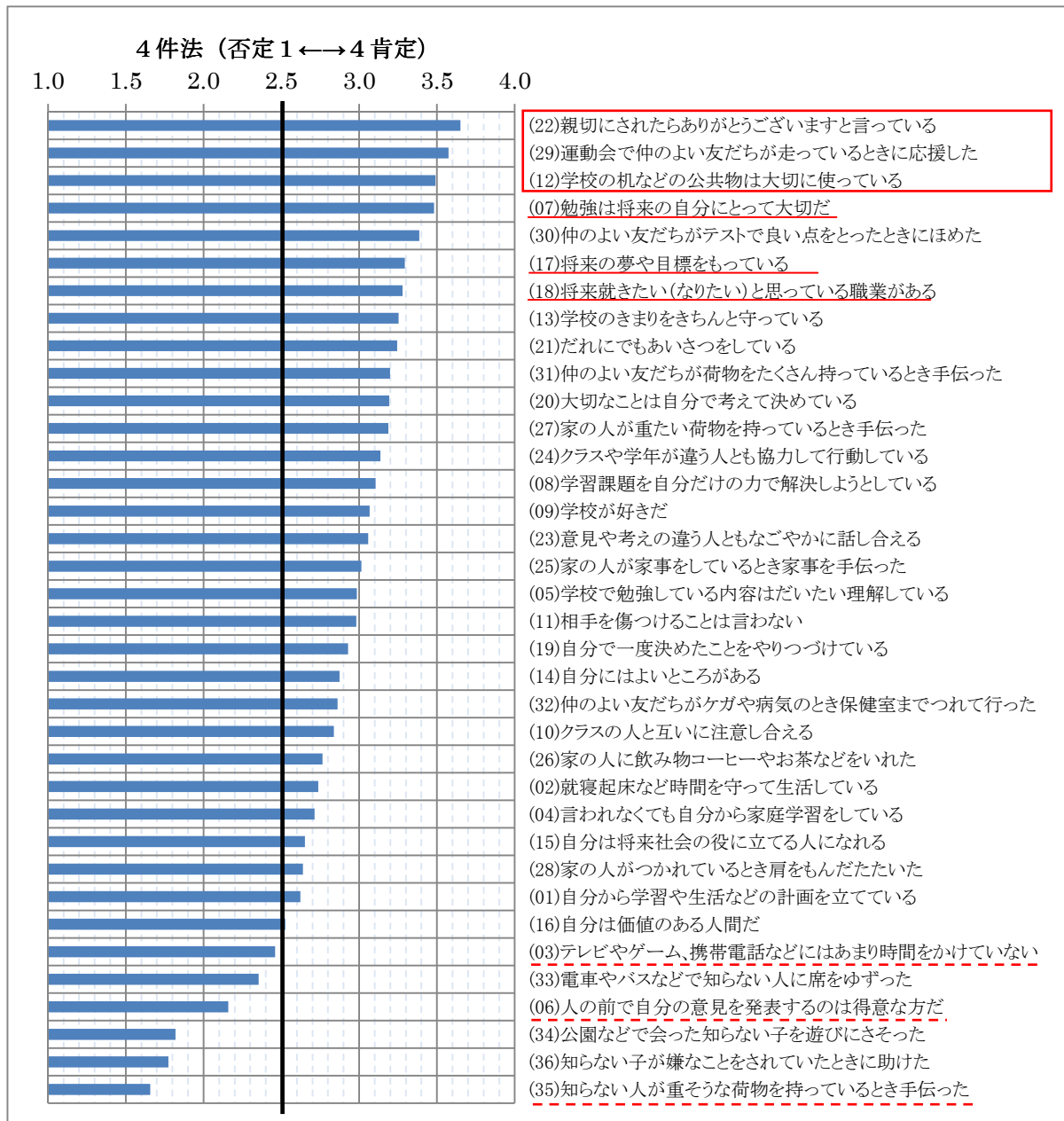


図 1.8 質問2「栃木の子どもの意識や行動」全学校段階の項目別平均点

図 1.8 より、栃木の子どもは、「(22)親切にされたらありがとうございますと言っている」「(29)運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した」「(12)学校の机などの公共物は大切に使っている」など、礼儀正しさ、仲間に対する思いやり、規範意識に関わる項目には肯定的な回答をしています。また、「(07)勉強は将来の自分にとって大切だ」「(17)将来の夢や目標をもっている」「(18)将来就きたい(なりたい)と思っている職業がある」など、学習意欲、将来展望などの質問項目も同様でした。

一方で、「(03)テレビやゲーム、携帯電話などにはあまり時間をかけていない」「(06)人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ」「(35)知らない人が重そうな荷物を持っているとき手伝った」等の項目における平均点は低いことから、テレビ視聴時間が長く、人前での発表や初めて顔を合わせる相手との積極的な交流が苦手な傾向もうかがえます。

#### (4) 自己有用感が高い子どもの意識や行動の特性

子どもの自己有用感と望ましい意識や行動との関連を調べるために、**質問1**「自己有用感」と**質問2**「望ましい意識・行動」の回答との関連を調べました。**質問1**の回答において、自己有用感が高い状況にある児童生徒25%（以降「高群」と記す）と自己有用感が低い状況にある児童生徒25%（以降「低群」と記す）が、**質問2**にどのように回答したかを比較しました。図1.9は、**質問2**の各質問項目の高群と低群の回答平均の差に注目し、差が大きい順に示したものです。この差が大きいほど、自己有用感との関連が強いと言えます。

特に自己有用感と関連の強かった質問項目は、「(14)自分にはよいところがある」「(16)自分には価値がある」など、「自尊感情や自信」に関するものでした。このことから、自己有用感の高い児童生徒は、自尊感情が高く、自信をもっている傾向があることが分かります。

次に関連が強かった質問項目は、「(10)クラスの人と互いに注意し合える」「(32)仲のよい友だちがケガや病気の時保健室へつれて行った」などの「他者への思いやりのある行動（向社会的行動）」や、「(24)クラスや学年が違う人とも協力して行動している」などの「協同」に関するものでした。また、「(01)自分から学習や生活などの計画を立てている」「(04)言われなくても自分から家庭学習をしている」などの「学習意欲、自主的・自律的な生活」に関する項目も上位でした。

この分析結果から、自己有用感の高い児童生徒は、集団の中で他者と協同しながら主体的に生活している傾向にあることが分かりました。つまり、自己有用感と望ましい意識や行動には、強い関連があることを確認できました。

#### 自己有用感が高い傾向にある児童生徒の意識や行動の特徴

- 自尊感情が高く、自信がある。
- 他者に対して思いやりのある行動ができる。
- 他者と協同できる。
- 学習への意欲が高く、自主的・自律的な生活ができている。



図 1.9 自己有用感の高低と、望ましい行動・意識の関係

なお、図 1.9 は全学校段階を平均した結果です。学校段階別の結果については、発達の段階に応じた違いや特徴が見られます。学校段階ごとの詳細な結果については、巻末「資料・データ集」を参照してください。

(5) 自己有用感が高まる環境

質問3では、子どもを取り巻く「教育的環境や関わり方」について、30問の質問項目を設定し、4件法で調査しました。自己有用感の高さと子どもの教育的環境や関わり方との関連を調べるために、自己有用感の高い生徒（高群）と低い生徒（低群）の各25%の児童生徒を抽出し、質問3の各項目にどのように回答したかを調べました。図1.10は、質問3の各項目における高群・低群の平均点の差に注目し、差が大きい順に示したグラフです。高群と低群の回答平均の差は、自己有用感との関連の強さを示しています。



図 1.10 自己有用感の高低と教育的環境との関係

自己有用感の高群と低群で特に差が大きくなった質問項目から、自己有用感を高める効果が高いと考えられる教育的環境や関わり方を以下にあげます。なお、学校段階別の分析結果については、第II章「自己有用感を高めるには」を参照してください。

### 自己有用感を高める効果が高いと考えられる教育的環境や関わり方

#### 教職員

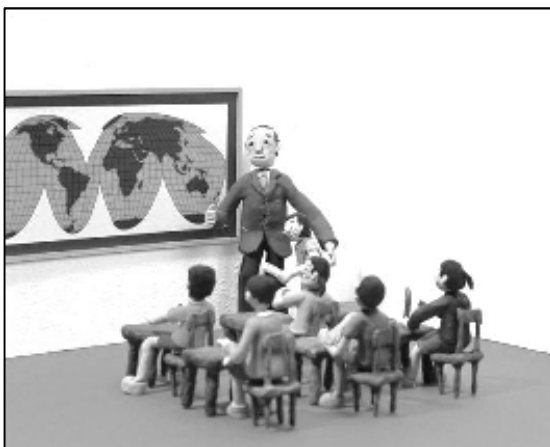
- 児童生徒をよく観察し、本人が褒めて欲しいと思っていることを褒める。
- 教師の方から積極的に、児童生徒に話し掛ける。
- 児童生徒が話を聞いてほしいと思うときに、児童生徒の話を聞く。
- 授業の中で、クラスの人同士がよいところを認め合う場を多く設定する。

#### 家族

- 子どもと将来のことについて、話をする。
- 子どもに学校でどんな勉強をしているのか聞く。

教職員や家族と児童生徒との関わりそのものによって、自己有用感が高められることが分かりました。特に、「ほめてくれる」「話し掛けてくれる」「話を聞いてくれる」といった、周囲の大人による「賞賛」や「傾聴」が重要となります。

家庭においては、家族が、子どもの学習に関心をもち話題にしたり、子どもと将来の話をしたりすることも「傾聴」や「賞賛」につながり、自己有用感の要素である「承認」に働きかけて、自己有用感を高めると考えられます。





## (6) クラスでの自己有用感を高める教育的環境や関わり方

「クラスでの自己有用感」は、**質問2**で調べた「望ましい意識・行動」との関連が強いことが分かりました。また、クラスは児童生徒が最も長い時間を過ごしており、学校生活や人間関係の基盤となることから、「クラスでの自己有用感」は、児童生徒の社会生活を考える上で大切な関係における自己有用感であると言えます。

そこで、この「クラスでの自己有用感」と**質問3**「教育的環境・関わり方」との関係を分析により調べました。関連が見られた質問項目から、クラスでの自己有用感を高める効果が高いと考えられる教育的環境や関わり方を以下にあげます。

### クラスでの自己有用感を高める効果が高いと考えられる教育的環境や関わり方

#### 児童生徒一人一人に対して

- 教師の方から積極的に、児童生徒に話し掛ける。
- 児童生徒をよく観察し、本人が褒めて欲しいと思っていることを褒める。
- 学校行事を通して、児童生徒にやり遂げさせ、成就感を味わわせるように支援する。

#### 言語活動や特別活動等の充実など

- 授業中など、児童生徒同士が主体的に話し合わせる機会を設定する。
- クラスの全員が、それぞれどこかの場面で活躍できるように配慮する。

#### クラスの雰囲気（教育的環境）

- 児童生徒が話や発表をするときは、全員がしっかり聞くことができる。
- ルールをしっかり守ることができる。

自己有用感が高まるクラスにするためには、「児童生徒一人一人に対する受容と賞賛」、「言語活動の充実」、「特別活動等の充実」、「クラス全体の規範意識の醸成」、「友達同士の受容」などが重要です。

教師は、児童生徒に対して受容的な態度で接し、一人一人が好ましい人間関係が築けるように見守ったり、働きかけたり、また、関係づくりが苦手な児童生徒には積極的に言葉かけをしたりすることが大切です。クラスなどの集団の向上を目指した指導も大切です。

なお、各学校段階で自己有用感を高めるのに有効と考えられる指導例については、第II章で詳述します。



【参 考】

「学業指導」

栃木県では学業指導（学習のねらいを達成するための基盤をつくっていくこと）において、「集団の中で学ぶ」という学校教育の特質を生かして子どもたち一人一人を成長させるという視点を重視しています。教師には、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し意欲的に学習活動に取り組めるよう、指導・援助していくことを求めています。

学業指導の具体策と、自己有用感を高める教育的環境や関わり方には、多くの共通する項目があります。

“集団の中で学ぶ”という学校教育の特質を生かして、子どもたち一人一人を成長させるという視点が大切です。学業指導とは、それぞれの学級を「学びに向かう集団」に高めながら、児童生徒一人一人が自らの力で様々な不適応を解消し意欲的に学習活動に取り組めるように指導・援助していくことにはなりません。



I 学びに向かう集団づくりのために	II 子どもが意欲的に取り組む授業づくりのために
<p>どのような集団に属しているかで、子どもの成長は大きく異なります。一人一人の向上のためには、個への指導・援助とともに、属する学級を、互いに高め合えることができる「学びに向かう集団」につくり上げていくことが重要です。</p> <p>そのため、以下の三つの視点を留意した学級づくりに取り組みましょう。</p>	<p>教師にとって大切なことは、何といても日々の授業の改善です。授業をとおして、教科のねらいの定着を図るためには、児童生徒一人一人が学習活動に自主的かつ意欲的に取り組めるように、指導・援助する必要があります。</p> <p>そのため、以下の三つの視点を留意した授業を実践していきましょう。</p>
<p><b>1 帰属意識の高い学級づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○一人一人が周縁から認められていると感じる活動場面を工夫する。</li> <li>○協力して一つのことに取り組めるように工夫する。</li> <li>○できるだけ子どもたちの発想に基づく活動を取り入れる。</li> <li>○心からの感動体験を意図的に創出する。</li> </ul>	<p><b>1 自信をもたせる授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○認める・ほめる・励ます機会を意図的に設定する。</li> <li>○最後までやり遂げた結果として成功体験が積めるように指導を工夫する。</li> <li>○時には思いどおりにならない体験をさせる。</li> <li>○自分で選択・決定する場面を発達段階に応じて設定する。</li> </ul>
<p><b>2 規範意識の高い学級づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○学校・学級で守るべきルールを明確にする。</li> <li>○集団にはルールが不可欠であることを体験をとおして学ばせる。</li> <li>○子どもたちが自らの約束を決め、協力して実行できるように工夫する。</li> </ul>	<p><b>2 コミュニケーション能力をはぐくむ授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○相手の話を聞いたり自分の言葉で伝えたりする活動を取り入れる。</li> <li>○協力し合う場面を設定する。</li> <li>○子ども同士が教え合う活動を意図的に設定する。</li> <li>○自己理解、他者理解を促すために、自己評価・他者評価を活用する。</li> </ul>
<p><b>3 互いに高め合える学級づくり</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○全員が参加して学級の目標を設定する。</li> <li>○学級のために自分は何ができるか、自ら考えるように指導を工夫する。</li> <li>○当番や係活動の活性化を図る。</li> <li>○互いに夢や目標を語り合う場や機会を設定する。</li> </ul>	<p><b>3 一人一人の実態に配慮した授業</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○毎日、授業や家庭学習を振り返る場や時間を設ける。</li> <li>○教育相談を意図的・継続的に実施する。</li> <li>○学習不適応の解消に向けた包括的な指導・援助体制を整える。</li> </ul>

互いの関連を  
回わりながら、  
指導を充実させて  
いくことが  
大切です。

各学校において、あらゆる教育活動をととして学業指導の充実に取り組みしましょう

図 1.11 「あなたは、学業指導を知っていますか」より 栃木県教育委員会

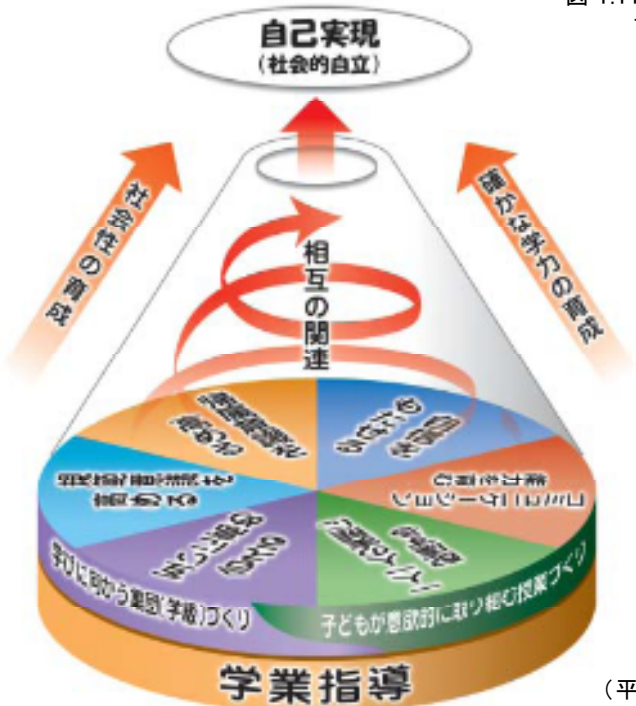


図 1.12 学業指導のイメージ図  
「学業指導の充実に向けて」  
(平成 24 年 3 月 栃木県教育委員会)



【コラム】

「自己有用感」と「自尊感情」

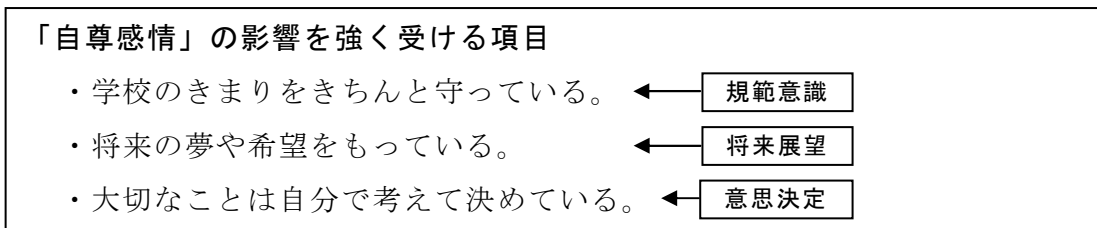
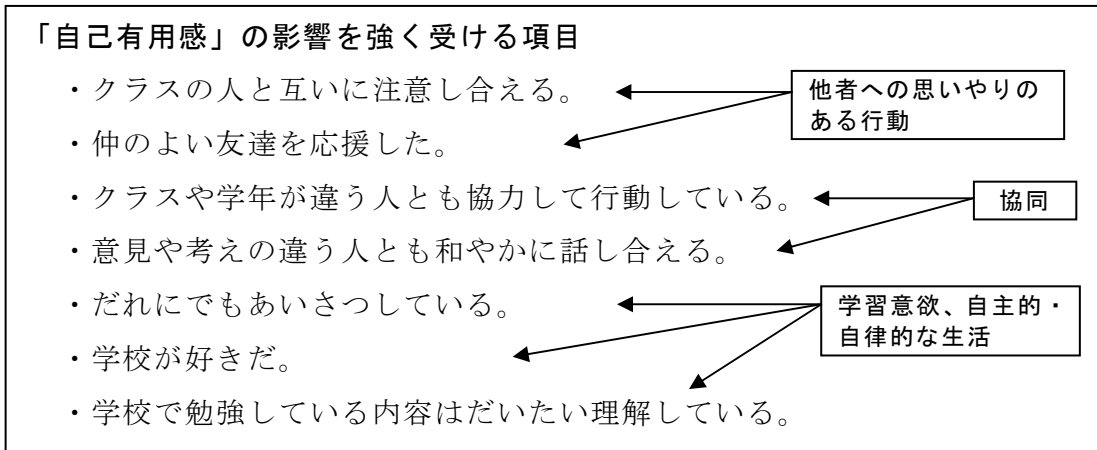
「自己有用感」と「自尊感情」は、似ている用語ですが、どのような違いがあるのでしょうか。

「自尊感情」の定義については、平成 23 年度に本センターが発行した「学級・ホームルーム担任のための教育相談第 19 集自尊感情を育むために一伸ばす・低下させない・回復させるー」において、「自分に対する肯定的感情」であり、「自分の短所や欠点も含めて、自分で自分を価値あるものとする感覚」と捉えています。

「自己有用感」と「自尊感情」は、他者からの承認や賞賛等の影響を受けるという点では共通しています。違う点としては、「自尊感情」が基本的に本人一人でも成り立つ概念であることに対して、「自己有用感」はクラスや友達、先生や家族など、他者や集団との関係の中で成り立つ概念として捉えているという点があげられます。

本調査においては、「自尊感情」の質問項目を質問紙の「質問 2」中に 3 問設定しました。「質問 2」で調べた「望ましい意識・行動」の項目に対して、「自己有用感」と「自尊感情」のどちらが強く影響しているか調べました。

なお、分析の詳細は、巻末「資料・データ集 (p62)」を参照してください。



「自己有用感」を高めることは、主に「他者への思いやりのある行動」や「協同」、「学習意欲や自主的・自律的な生活」に関する意識・行動を高める点で有効であり、「自尊感情」を高めることは、「規範意識」「将来展望」「意思決定」に関する意識・行動を高める点で有効であるということが分かりました。



# 第Ⅱ章

## 自己有用感を高めるには

自己有用感と教育的環境の分析結果から、「クラスでの自己有用感」を高めるための手だてを中心に紹介します。調査協力校の中から6校の先生方に伺った具体的な取組を参考にして、学校種別に事例を掲載しました。

### 子どもの自己有用感を高める四つのポイント

1. 子どもをよく見て、その子に応じて褒めましょう。
2. 子どもの話をじっくり聴いたり、子どもに話し掛けたりしましょう。
3. 一人一人に活躍の場を与えて、見守り、やり遂げさせ、達成感を味わわせましょう。
4. 子ども同士が認め合う場を設定するなど、人間関係づくりを支援しましょう。

質問紙調査を実施して、集団及び個人の傾向を捉えましょう。

## 1 小学生の自己有用感を高めるには

### (1) 「クラスでの自己有用感」を高める手がかり

児童にとって、クラスは学校生活の基盤であり、ここで育まれる「クラスでの自己有用感」は、「望ましい意識や行動」との関連が最も強く、重要な自己有用感です。ここでは、「クラスでの自己有用感」に注目し、高める手がかりについて述べていきます。

「質問3」で調べた「教育的環境・関わり方」(p64 参照)の結果と、「質問1」中の「クラスでの自己有用感」の結果との相関分析等により、効果が強いと考えられる「教育的環境や関わり方」を抽出し表 2.1 にまとめました。

表 2.1 小学生の「クラスでの自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

小学生	質問3の質問項目 (No)
1位	(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている
2位	(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
3位	(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる
4位	(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる
5位	(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する
6位	(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる
7位	(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある
8位	(26)家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞ってくれる
9位	(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している
10位	(07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている
11位	(24)家の人はわたしと将来のことについて話をする
12位	(21)学校では地域の人のためになる活動をする
13位	(22)学校では先生同士が協力している
14位	(10)先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている
15位	(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる
16位	(04)クラスはルールを守るクラスだ
17位	(09)先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている
18位	(06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている
19位	(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる
20位	(08)先生はみんながよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとっている
21位	(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある
22位	(25)家の人は読書をすすめる
23位	(28)家の人は話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる
24位	(23)家の人はわたしに時間を守ることが大切だと言う
25位	(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する
26位	(30)住んでいる地域には知らない子どもに注意をする大人がいる

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

小学生の「クラスでの自己有用感」を高めるには、子ども同士を互いに協力させて取り組ませたり、子どもが活躍できる場を設定したりすることで、子ども同士が認め合う雰囲気をつくり、教師も子どもが輝く姿を見逃さず、認め褒めることが大切です。

小学生は、効果が強いと認められる項目数が中学生や高校生に比べて多いことが特徴です。クラスの環境や先生や友達の関わり方以外にも、家の人の関わりや地域の環境も大きく影響していることが分かります。小学生は、クラス以外の場面でも、様々な人と関わらせたり子どもが活躍できる体験の場を増やしたりすることが、自己有用感を高めるのに有効に働くと考えられます。

**(2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例**

ここでは、小学生の「クラスでの自己有用感」を高めるのに有効であると考えられる事例を紹介します。

**事例① 時間をかけて頑張った事柄について、認め合う場面をつくる**

A小学校の6年生が総合的な学習の時間に、「ゆめ実現プロジェクト」として、個人研究を行った。就きたい職業や興味をもっていることについて調べる活動である。図書やビデオ、インターネットでの調べ学習、その分野で活躍している人へのインタビュー、社会体験の学習などを通して、分かったことや感じたことを資料としてまとめ、発表会を行った。

発表会后に相互評価の時間を設定し、生活班の友達によい点を中心としたメッセージを書くことを伝えた。すると、「すごく頑張ったから、みんなにメッセージを書きたいな。」と言って生活班以外の友達に書く児童が出てきた。この動きはクラス全体に広まり、ほとんどの児童が、全員の作品にメッセージを贈った。教師は、互いに認め合える心のすばらしさに感動したことを、子どもたちに伝え賞賛した。まとめの自己評価では、「みんなに励まされて、やる気が大きくなった。」「がんばったことと、みんなのメッセージが宝物」などの記述が見られた。

関連する質問：「(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている」

**事例② 縦割り班活動で協力して活動する場をつくる**

B小学校では、異年齢集団による活動が盛んである。月に1度、縦割り班によるふれ合い遊びを行っている。また、6月の児童会活動では、校内ウォークラリー大会を実施している。ふれ合い遊びと同じ班編成で、チェックポイントで出すクイズやゲームを考えたり、班の旗をつくったりすることにより、仲間意識が高まり主体的に活動に参加するようになる。6年児童は、リーダーとしての責任を自覚し、下級生に優しく接しながら班をまとめようとし、低学年児童は6年児童に信頼を寄せるとともに、「学年が進んだら下級生から頼られるようになりたい。」と感じている。教師は、低学年児童が班の活動に溶け込めるように支援したり、自分の役割を自覚できずに行動してしまう児童に対しては指導したりするなど、リーダーの力量に応じてサポートする。

このような活動の結果、学年を越えたつながりができ、休み時間に他学年の友達と遊んだり、朝の読書の時間に6年児童が1学年の教室で読み聞かせをしたりするなど、自ら関わろうとする意欲が見られるようになった。教師は、日常の活動につなげている子どもの活動を大いに賞賛している。

関連する質問：「(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する」

事例③ 子どもの輝く姿を逃さずに、温かい言葉で本人に伝える

C小学校では、学力向上を目指して、家庭での自主学習に取り組ませている。6学年担任のA教諭は、毎日提出される自主学習ノートに、コメントを書いている。

一般的には、学習の方法や学習内容についてのコメントをするが、この教諭は、一日の学校での様子をよく見て、子どもが頑張っていたことや、友達と協力していたこと、友達の手助けをしていたことなど、子どもが生き生きとしていた場面を捉えて、温かいコメントを書いている。例えば、友達と打ち解けて話すことが少ない子どもが、週に一度のクラスで遊ぶ昼休みに、楽しそうに遊んでいた姿を見て「昼休み楽しかったね。〇〇さん、すごく、いい笑顔だったよ。クラスみんなが仲良く過ごしているのを見ていると、うれしいなあ。」といった言葉を投げかける。

このように、個に応じた言葉かけを心掛けていると、日常の会話でも、子どもと言葉のキャッチボールがしやすくなる。子どもは、「先生は、ほめてほしいと思うことをほめてくれる」「先生の方から私に話かけてくれる」という気持ちになり、先生から大切にされている価値のある一員だと思えるようになって考えられる。

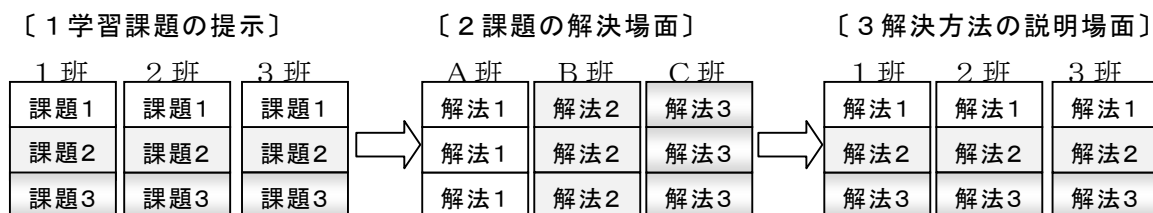
関連する質問：「(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる」  
「(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる」

事例④ 学習形態の工夫（ジグソー学習）で一人一人の学びを生かす

D小学校では、思考力、表現力を高めることを目指して、次のようにジグソー学習を取り入れている。

- |              |                              |
|--------------|------------------------------|
| 1 学習課題の提示    | 生活班(1、2、3班)内で、学習課題を分担する。     |
| 2 課題解決の場面    | ジグソー班(A、B、C班)で、課題を解決する。      |
| 3 解決方法の説明の場面 | 生活班に戻り、 <u>課題解決の方法を説明する。</u> |
| 4 共有化の場面     | 学級全体で、それぞれの解決法を関連付ける。        |

解決方法の説明の場面では、ジグソー班で学習した解決方法を、班の代表として生活班の友達に伝える。紹介する課題については、自分だけが詳しく知っているため、責任をもって伝える必要性が生じ、一人一人が欠くことのできない存在になっていく。グループ全員の働きによって課題解決を成し遂げるため、連帯感が高まり、互いの学びを認め合うことにもつながっている。



関連する質問：「(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」



## 【参 考】

## ◇先生との関係における自己有用感を高める手がかり

小学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.2 のとおりです。

表 2.2 小学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

順位	質問 3 の質問項目 (No)
1 位	(15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
2 位	(14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる
3 位	(11) 先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている
4 位	(16) 先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
5 位	(12) 先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる
6 位	(04) クラスはルールを守るクラスだ
7 位	(19) 学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する
8 位	(08) 先生はみんながよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとっている
9 位	(22) 学校では先生同士が協力している
10 位	(10) 先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている
11 位	(26) 家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる
12 位	(06) 先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている
13 位	(07) 先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている
14 位	(18) 学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある
15 位	(24) 家の人はわたしと将来のことについて話をする
16 位	(21) 学校では地域の人のためになる活動をする
17 位	(09) 先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている
18 位	(05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

教師が、褒める、話し掛ける、話を聞く、互いに認め合う場面をつくるなど、一人一人を大切にした学級経営をすることが有効です。

表 2.2 では、「先生との関係における自己有用感」との相関を示しており、当然教師の関わり方が上位に挙がっています。しかし、それだけではなく「(04) クラスはルールを守るクラスだ」「(26) 家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる」「(24) 家の人はわたしと将来のことについて話をする」などのクラスの雰囲気や家の人の関わりも、「先生との関係における自己有用感」を高めることに影響していることが分かります。



【参 考】

◇家庭での自己有用感を高める手がかり

小学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は、表 2.3 のとおりです。

表 2.3 小学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

順位	質問3の質問項目 (No)
1 位	(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる
2 位	(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる
3 位	(24)家の人わたしと将来のことについて話をする
4 位	(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる
5 位	(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う
6 位	(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
7 位	(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある
8 位	(25)家の人読書をすすめる
9 位	(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する
10 位	(21)学校では地域の人のためになる活動をする
11 位	(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある
12 位	(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる
13 位	(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している
14 位	(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを認め合う場をとる

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

「家庭での自己有用感」の高さと相関が強いのは「(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる」という質問項目であり、家族の受容的な態度が大切であることが分かります。また、「(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる」「(24)家の人わたしと将来のことについて話をする」「(5)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う」などの質問項目も相関が強いことから、子どもの学習や将来のこと、日々の生活の向上に対して家族が関心をもつこと、指導すべきことは指導することなどが重要であることが分かります。

また、「家庭での自己有用感」の高さは、「(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる」や、「(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある」「(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある」など、友達の関わりや学校、地域の環境からも、間接的に影響を受けていると考えられます。

このことから、自己有用感を高めるには、学校と家庭と地域が相互に連携して、子どもを見守り育てていくことが大切であることが分かります。



## 2 中学生の自己有用感を高めるには

### (1) クラスでの自己有用感を高める手がかり

生徒にとって、クラスは学校生活の基盤であり、ここで育まれる「クラスでの自己有用感」は、「望ましい意識や行動」との関連が最も強く、重要な自己有用感です。ここでは、「クラスの自己有用感」に注目し、高める手がかりについて述べていきます。

【質問3】で調べた「教育的環境・関わり方」(p64参照)と、【質問1】中の「クラスでの自己有用感」との相関分析等により、効果が特に強いと考えられる「教育的環境や関わり方」を表2.4にまとめました。

表 2.4 中学生の「クラスでの自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

中学生	質問3の質問項目 (No)
1位	(05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している
2位	(02) 友だちは話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる
3位	(01) 友だちの方からわたしに話しかけてくれる
4位	(04) クラスはルールを守るクラスだ
5位	(15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
6位	(14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる
7位	(18) 学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある

中学生の「クラスでの自己有用感」を高めるには、「(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」「(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる」「(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる」など、生徒に活躍の場を与えて、その活躍を教師が賞賛して認め励ますことが大切です。また、「(02)友達に話を聞いてほしいときには話を聞ってくれる」「(01)友達の方からわたしに話しかけてくれる」「(04)クラスはルールを守るクラスだ」などの質問項目も相関が強いことから、教師には、好ましい人間関係が築けるように支援すること、規範意識の高い学級づくりをすることなどが求められます。

### (2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例

ここでは、中学生の「クラスでの自己有用感」を高めると考えられる事例を紹介します。

#### 事例⑤ 生徒を生かし帰属意識を高め、自信をもたせる

E中学校では小規模校のよさを生かして、教員が「生徒に活躍の場」と「互いに認め合う場」を与えることを目標に様々な仕掛けをしている。

例えば、地域の敬老会の行事に、学校を挙げて参加し、一人一役を受けもって活動している。受付や合唱などの出し物、募金活動、バザーにおける販売補助などを地域の方々と協力して行う。生徒は事前に、お年寄りの立場に立って会場内の安全点検を行い、教師の支援を受けながら自分たちで段差を小さくする作業を行うなど、お年寄りに安心して過ごし、楽しんでもらえるために役立つことを考えて活動している。地域の活動に貢献することを通して、高齢者の方や地域の方から労いや感謝の言葉をもらうことで、生徒の自信や地域社会や学校に対する帰属意識が高まっている。

関連する質問: 「(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」



事例⑥ 生徒との信頼関係を深め、困っているときには、そばに寄り添う

F中学校では校内研修で、生徒のよさや可能性を生かす学校づくりのために、「生徒の様子をよく見て、声を掛けよう」ということを確認した。学級担任は、朝、教室で生徒を迎えるように心掛け、学級の様子を観察し、生徒に声を掛けるようにしたり、日記にコメントを書いたりして、生徒理解に努めている。

F教諭は、体育祭のダンスのリーダーから、日記の中で「みんなの気持ちがばらばらで、練習がうまく進まず悩んでいる。」と打ち明けられた。F教諭は「Aさん、みんなをまとめようと頑張ってくれて、ありがとう。Aさんの頑張りは、いつも見えていますよ。」と、励ましの言葉を贈った。そして、その日の放課後の練習では、Aさんの近くで練習の様子を見守った。教諭が見ていることもあり、他の生徒はAさんに協力して練習したため、ダンスの全体像が見えてきた。この日をきっかけに、クラスがまとまり、生徒達が積極的に意見を出し合い互いの動きのよさなどを褒めながら練習をするようになった。

ダンスのリーダーとして、みんなをまとめることができたAさんは、友達から認められた喜びと壁を乗り越えた自信により、学校生活に一層前向きに取り組んでいる。

関連する質問：「(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる」

事例⑦ 学校行事のスローガンを踏まえて個人目標を設定させる

G中学校では、学校行事に際して、全校のスローガンを作成させるとともに、個人の目標を設定させ、教室や廊下に掲示している。

スローガンは、全校生が団結して取り組むことを目的として、体育祭、合唱コンクール、文化祭について生徒会が中心に作成している。

生徒各自には、生徒会が作成したスローガンをもとにして、個人の目標を考えさせ、廊下に掲示し、意識化を図っている。

行事終了後には、振り返りも記入させる。

生徒は目標に向かって努力することで、学校全体に貢献することにつながるのので、集団の一員としての存在感を獲得している。

<p>振り返り 次の種目の準備物を、分担表を親ながらグループの友達と確かめていたので、素早く準備ができた。全力で走っていたら、先生に「見ていて気持ちがいいね。」と声をかけられた。</p>	<p>目標 準備の仕事は素早く行い、体育祭がスムーズに進行できるようにする。</p>	<p>「グラウンドに広がれパワー！ 走跳投躍！一人一人が主人公！」 二年三組(〇〇〇〇)</p>
---	--	--

関連する質問：「(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある」

## 【 参 考 】

## ◇先生との関係における自己有用感を高める手がかり

中学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.5 のとおりです。

表 2.5 中学生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

中学生	質問 3 の質問項目 (No)
1 位	(15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
2 位	(16) 先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
3 位	(14) 先生の方からわたしに話しかけてくれる
4 位	(12) 先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる
5 位	(11) 先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている
6 位	(13) 先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする
7 位	(22) 学校では先生同士が協力している
8 位	(06) 先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている
9 位	(07) 先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている
10 位	(09) 先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている
11 位	(10) 先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている

思春期を迎えた中学生に対しては、教師は生徒から適度に距離を置き、生徒が褒めて欲しいと思う事柄を褒めたり、生徒が話を聞いて欲しいと思うときに話を聞いたりすることで、「先生との関係における自己有用感」は高まると考えられます。教師は生徒と適切に関わるために、それぞれの生徒の個性や能力などを把握した上で、全ての生徒を見守り続け、生徒の状態に応じてタイミングよく声を掛けることが求められます。

## ◇家庭での自己有用感を高める手がかり

中学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.6 のとおりです。

表 2.6 中学生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

中学生	質問 3 の質問項目 (No)
1 位	(28) 家の方は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
2 位	(26) 家の方は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる
3 位	(01) 友だちの方からわたしに話しかけてくれる
4 位	(02) 友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
5 位	(27) 家の方は大切なことを守らないときにはきびしくしかってくれる
6 位	(24) 家の方はわたしと将来のことについて話をする
7 位	(04) クラスはルールを守るクラスだ
8 位	(25) 家の方は読書をすすめる

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

家族が、学習や進路について関心をもつこと、優しさと厳しさの両面を備えて接することが、「家庭での自己有用感」を高めます。

また、クラスの雰囲気や友達との関係も「家庭での自己有用感」に影響を与えることが分かります。

### 3 高校生の自己有用感を高めるには

#### (1) クラスでの自己有用感を高める手がかり

生徒にとって、クラスは学校生活の基盤であり、ここで育まれる「クラスでの自己有用感」は、「望ましい意識や行動」との関連が最も強く、重要な自己有用感です。ここでは、「クラスの自己有用感」に注目し、高める手がかりについて述べていきます。

「質問3」で調べた「教育的環境・関わり方」(p64 参照)と、「質問1」中の「クラスでの自己有用感」との相関分析等により、効果が特に強いと考えられる「教育的環境や関わり方」を表2.7にまとめました。

表 2.7 高校生の「クラスでの自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

高校生	質問3の質問項目 (No)
1位	(01) 友だちの方からわたしに話しかけてくれる
2位	(02) 友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
3位	(05) クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している
4位	(15) 先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
5位	(18) 学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある
6位	(11) 先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている
7位	(16) 先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる

中学生と同様に、活躍の場があり、それを教師が賞賛すること、友達との好ましい人間関係が形成されていることが、高校生の「クラスでの自己有用感」を高めます。思春期を経て、教師に対して素直に向き合うことができるようになってくる高校生の時期には、「(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている」「(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる」などの教師の受容的な関わり方も、自己有用感を高めるには有効です。

#### (2) クラスでの自己有用感を高める手立ての例

ここでは、高校生の「クラスでの自己有用感」を高めると考えられる事例を紹介します。

#### 事例⑧ 個人面談を活用し、信頼関係を築く

H高等学校では、年間計画に5回の個人面談が位置付けられている。教師は生徒の学習面や生活面の悩み事などを、ゆったりと聞く構えで臨んでいる。面談を学習の支援の場としても活用し、試験の結果を振り返らせて、今、どのような学習をすべきかを具体的に考えさせ、予定を立てさせるようにしている。「しっかり勉強なさい」と言うよりも、話をよく聞いて、生徒自身に考えさせることで、自覚を促すようにしている。

その結果、信頼関係が築かれ教師との距離が近くなると、日常生活の中で生徒の方から話しかけてきたり、授業後に質問に来たりするようになった。職員室には、相談や質問に来た生徒が座れるように常時、椅子が用意されているので、いつも生徒がいる。

関連する質問: 「(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる」

## 事例⑨ 一人一人の得意分野を把握し、生徒のよさを生かす

I 高等学校の I 教諭は、自校の生徒に対して、高い能力をもっているが控えめで自分から積極的に行動しない点に課題を感じていた。そこで、よいところを認め合う場面をつくるために、生徒の学習状況や生徒各自の特技などを把握しておき、様々な場面で生徒を生かそうと心掛けた。授業や行事の前に、生かしたい生徒に可能な限り声を掛けておく。「英語スピーチで困っている人がいるので、少し見てあげてね。」「体育祭に向けて、クラスの士気を盛り上げてね。」「模擬店の PR チラシは、イラストの得意なあなたにお願いしたいわ。」などである。

また、教諭自身が日々の生活の中で、あえて得意な生徒に頼る姿を見せるようにしている。すると、生徒の間でも「～については、〇〇さんに聞こう。」「～については、□□さんに頼もう。」など、互いに認め合う雰囲気がつくられてきた。また、活動の中心となる生徒を補佐する生徒も現れてきている。このように、友達やクラスに貢献する場面をつくることで、生徒は存在感や自信を獲得していく。

関連する質問：「(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している」

「(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をついている」

## 事例⑩ 総合的な学習の時間と文化祭を関連づけて達成感を味わわせる

J 高等学校の第 1 学年では、総合的な学習の時間に各クラスでテーマを決めて研究を進め、文化祭でステージ発表をしている。テーマと研究の内容を決め、クラスとしての研究計画を立てる段階では、担任が少しリードしたが、内容が決まりグループで分担して調べる段階に入ってから、担任は見守ることに徹した。

クラス内での中間発表を行い、グループごとにさらに詳しく調べること、分かりやすく伝えるために準備する資料などについて検討をした。中間発表により、クラスの研究におけるグループ相互のつながりが意識されるようになった。担任として目配りをした点は、一人一人に役目をもたせることであった。全員が何らかの形で研究発表に関わったため、文化祭の一週間前には意欲の高まりが見られた。

長い期間を掛けて取り組んだことで、生徒が自信をもって発表している様子が見られた。上級生の「オー」「すごい」などの声とともに、大きな拍手をもらい成功裏に終わった。何より、自分たちが「やり遂げることができた」という達成感が、自分を価値ある存在と思うことにつながっている。

関連する質問：「(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある」

【参 考】

◇先生との関係における自己有用感を高める手がかり

高校生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.8 のとおりです。

表 2.8 高校生の「先生との関係における自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

高校生	質問3の質問項目 (No)
1位	(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる
2位	(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる
3位	(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
4位	(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる
5位	(06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている
6位	(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている
7位	(07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている
8位	(22)学校では先生同士が協力している
9位	(08)先生はみんながよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとっている
10位	(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある

日常の生活や授業での様々な働きかけが、「先生との関係における自己有用感」を高めていることが分かります。自己有用感を高めるためには、相談したいときに相談できる受容的な教師の姿勢が有効だと考えられます。進路選択の時期にある高校生にとっては、目標や計画を立てさせ、適時に声をかけてくれる教師の下で、「先生との関係における自己有用感」が高まるものと考えられます。

◇家庭での自己有用感を高める手がかり

高校生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」は表 2.9 のとおりです。

表 2.9 高校生の「家庭での自己有用感」を高める効果が強い「教育的環境や関わり方」

高校生	質問3の質問項目 (No)
1位	(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
2位	(27)家の人大切なことを守らないときにはきびしくしかってくれる
3位	(24)家の人わたしと将来のことについて話をする
4位	(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる
5位	(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う
6位	(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる

※網掛の項目は、間接的に関係していると考えられるもの

中学生と同様に高校生においても、家族が、学習や進路について関心をもつこと、優しさと厳しさの両面を備えて接することが、「家庭での自己有用感」を高めています。また、友達との関係が、家庭での自己有用感に影響を与えることも分かります。

# 第Ⅲ章

## 「自己有用感尺度」と 分析ツール

自己有用感尺度（質問紙）と、入力や分析に便利な分析ツールを紹介します。さらに、結果の活用例及び結果の読み取りについて、タイプ別に子どもの傾向と自己有用感や関係性を高めるための関わり方の例を示します。

なお、質問紙と分析ツールのデジタルデータは、栃木県総合センター Web サイトにて公開しております。ぜひ御活用ください。

[http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/chosakenkyu/h24\\_jikoyuyokan/](http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/cyosa/chosakenkyu/h24_jikoyuyokan/)

## 1 自己有用感尺度

次ページに示すアンケート用紙は、本調査研究の成果として開発した自己有用感を測ることができる質問紙「自己有用感尺度」です。平成 23 年度と 24 年度の調査に用いた質問紙の質問 1 の質問項目を検討し、再構成したものです。

アンケート用紙の名称は、「自己有用感」という表現は用いずに、「ふだん思っていることに関するアンケート」という名称にしました。これは、調査に直接関係する文言や表現をアンケート用紙に印刷してしまったり、聞かせてしまったりすると、事前に調査の目的を対象者に知らせてしまうことになり、調査結果に影響が出てしまうことが想定されるためです。実施に当たっても、行事予定表等には「ふだん思っていることに関するアンケート」と記載するなど、配慮する必要があります。

裏面には、教師用ガイドとして、各質問項目が「それぞれどのような関係における自己有用感なのか」「どの要素に関わる設問なのか」、また、「本県児童生徒の回答結果の平均がどれくらいであるか」が分かるように示してあります。

印刷してすぐに調査に使用できる質問紙等のデジタルデータを栃木県総合教育センターWeb サイトにて公開しています。

また、本章 2 「分析ツールの使い方」で紹介する分析ツールは、調査実施後の結果を入力できるフォーマットや様々な目的に合った集計結果をクリックのみで表示できるマクロを用いて組まれた Excel ファイルとなっており、同様に本センターWeb サイトで公開していますので併せて御活用ください。



# ふだん思っていることに関するアンケート

成績などには一切関係ありませんので、安心して教えてください。

		年 組 番				
		5	4	3	2	1
(1) あなたが、普段思っていることを教えてください。 なお、「悪口を言う」や「ふざける」などの良くない行動によって「〇〇の役に立っている」などと思う場合は、「あてはまる」には含めません。		とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
No	質問項目	1つえらんで○をつけてください。				
1	わたしは、家の人の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1
2	わたしは、家の人を信頼している。	5	4	3	2	1
3	わたしは、家の人と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1
4	わたしは、家の人に支えられていると思う。	5	4	3	2	1
5	わたしは、家族の重要な一員だと思う。	5	4	3	2	1
6	わたしは、家の人から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1
7	わたしは、クラスの人の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1
8	わたしは、クラスの人を信頼している。	5	4	3	2	1
9	わたしは、クラスの人と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1
10	わたしは、クラスの人に支えられていると思う。	5	4	3	2	1
11	わたしは、クラスの重要な一員だと思う。	5	4	3	2	1
12	わたしは、クラスの人から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1
13	わたしは、先生の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1
14	わたしは、先生を信頼している。	5	4	3	2	1
15	わたしは、先生と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1
16	わたしは、先生に支えられていると思う。	5	4	3	2	1
17	わたしは、先生にとって重要な生徒だと思う。	5	4	3	2	1
18	わたしは、先生から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1

		5	4	3	2	1
(2) あなたは、ふだんの生活の中で、次の19から30の経験がどのくらいあると思いますか。		よくある	ときどきある	どちらともいえない	あまりない	まったくない
No	質問項目	1つえらんで○をつけてください。				
19	わたしは、家の手伝いをすることがある。	5	4	3	2	1
20	わたしは、家の人から納得するような意見を言うことがある。	5	4	3	2	1
21	わたしは、家の人から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1
22	わたしは、家の人からほめられることがある。	5	4	3	2	1
23	わたしは、クラスの手伝いをすることがある。	5	4	3	2	1
24	わたしは、クラスの人から納得するような意見を言うことがある。	5	4	3	2	1
25	わたしは、クラスの人から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1
26	わたしは、クラスの人からほめられることがある。	5	4	3	2	1
27	わたしは、先生の手伝いをすることがある。	5	4	3	2	1
28	わたしは、先生から納得するような意見を言うことがある。	5	4	3	2	1
29	わたしは、先生から「ありがとう」と言われることがある。	5	4	3	2	1
30	わたしは、先生からほめられることがある。	5	4	3	2	1

◎どの質問にも1つずつ○がついているかどうかを、たしかめてください。



このアンケート用紙(自己有用感尺度)は、「自己有用感」を次のように捉え、クラス、先生、家庭での関係性に着目して作成しました。

自己有用感：「他者や集団との関係の中で、自分の存在を価値あるものとして受け止める感覚」  
 自己有用感を構成する三つの要素：・「存在感」：他者や集団の中で、自分は価値のある存在であるという実感  
 ・「承認」：他者や集団から、自分の行動や存在が認められているという状況  
 ・「貢献」：他者や集団に対して、自分が役に立つ行動をしているという状況  
 ※自己有用感ではありませんが、自己有用感の基盤となる、それぞれとの「関係性」についても質問しています。

(H24年7月調査結果)

		本県児童生徒の調査結果 (5点満点 平均値)										
		(1) あなたが、普段思っていることを教えてください。 なお、「悪口を言う」や「ふざける」などの良くない行動によって「〇〇の役に立っている」などと思う場合は、「あてはまる」には含めません。										
関係	要素	No	質問項目	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
家族	存在感	1	わたしは、家の人の役に立っていると思う。	3.91	4.04	3.95	3.71	3.69	3.65	3.46	3.22	3.36
	関係性	2	わたしは、家の人を信頼している。	4.50	4.59	4.55	4.41	4.46	4.34	4.22	4.02	4.14
	関係性	3	わたしは、家の人と一緒にいると安心できる。	4.69	4.72	4.63	4.43	4.41	4.33	4.13	3.93	4.06
	関係性	4	わたしは、家の人に支えられていると思う。	4.52	4.60	4.57	4.59	4.56	4.52	4.39	4.23	4.38
	存在感	5	わたしは、家族の重要な一員だと思う。	4.24	4.39	4.30	4.20	4.27	4.16	4.08	3.87	3.93
	存在感	6	わたしは、家の人から信頼されていると思う。	4.12	4.19	4.19	3.96	4.01	3.94	3.85	3.69	3.72
クラス	存在感	7	わたしは、クラスの人の役に立っていると思う。	3.40	3.34	3.31	3.17	3.24	3.22	2.95	2.83	2.83
	関係性	8	わたしは、クラスの人を信頼している。	4.10	4.16	4.20	3.98	4.07	3.97	3.70	3.59	3.61
	関係性	9	わたしは、クラスの人と一緒にいると安心できる。	4.29	4.28	4.33	3.99	4.10	3.98	3.85	3.61	3.76
	関係性	10	わたしは、クラスの人に支えられていると思う。	3.76	3.96	3.99	3.90	3.95	3.98	3.83	3.55	3.69
	存在感	11	わたしは、クラスの重要な一員だと思う。	3.14	3.32	3.34	3.25	3.32	3.26	3.05	2.87	2.92
	存在感	12	わたしは、クラスの人から信頼されていると思う。	3.22	3.25	3.36	3.16	3.26	3.12	3.07	2.98	2.98
先生	存在感	13	わたしは、先生の役に立っていると思う。	3.23	3.21	3.25	3.12	3.10	3.06	2.74	2.53	2.70
	関係性	14	わたしは、先生を信頼している。	4.26	4.30	4.09	3.98	3.78	3.80	3.75	3.10	3.64
	関係性	15	わたしは、先生と一緒にいると安心できる。	4.10	3.94	3.60	3.51	3.35	3.30	3.09	2.60	2.99
	関係性	16	わたしは、先生に支えられていると思う。	3.87	3.89	3.79	3.85	3.73	3.79	3.61	3.15	3.60
	存在感	17	わたしは、先生にとって重要な生徒だと思う。	3.40	3.38	3.36	3.19	3.10	3.04	2.78	2.49	2.65
	存在感	18	わたしは、先生から信頼されていると思う。	3.34	3.30	3.31	3.16	3.14	3.12	2.86	2.63	2.84
		(2) あなたは、ふだんの生活の中で、次の19から30の経験がどのくらいあると思いますか。										
関係	要素	No	質問項目	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
家族	貢献	19	わたしは、家の人の手伝いをすることがある。	4.36	4.35	4.40	4.10	4.13	3.96	3.74	3.69	3.75
	貢献	20	わたしは、家の人から納得するような意見を言うことがある。	3.61	3.52	3.62	3.39	3.40	3.45	3.36	3.31	3.37
	承認	21	わたしは、家の人から「ありがとう」と言われることがある。	4.38	4.40	4.36	4.22	4.02	3.98	3.82	3.70	3.67
	承認	22	わたしは、家の人からほめられることがある。	4.31	4.36	4.30	4.09	3.99	3.91	3.69	3.54	3.52
クラス	貢献	23	わたしは、クラスの人の手伝いをすることがある。	4.12	4.03	4.13	3.96	3.92	3.99	3.71	3.49	3.56
	貢献	24	わたしは、クラスの人から納得するような意見を言うことがある。	3.38	3.13	3.31	3.19	3.15	3.15	2.93	2.81	2.81
	承認	25	わたしは、クラスの人から「ありがとう」と言われることがある。	4.23	4.11	4.22	4.03	4.10	4.06	3.92	3.79	3.83
	承認	26	わたしは、クラスの人からほめられることがある。	3.61	3.59	3.69	3.58	3.56	3.50	3.39	3.28	3.31
先生	貢献	27	わたしは、先生の手伝いをすることがある。	3.76	3.56	3.76	3.47	3.38	3.54	2.98	2.88	2.99
	貢献	28	わたしは、先生から納得するような意見を言うことがある。	3.17	2.97	3.10	2.95	2.91	2.91	2.50	2.52	2.58
	承認	29	わたしは、先生から「ありがとう」と言われることがある。	3.63	3.43	3.55	3.44	3.49	3.48	2.91	2.88	2.96
	承認	30	わたしは、先生からほめられることがある。	3.68	3.41	3.60	3.40	3.39	3.43	2.94	2.83	2.93
有効調査人数※				367	357	373	359	370	343	386	388	380

※県内各地、学校規模や学校種の偏りなく抽出しました。

## 2 分析ツールの使い方

「自己有用感アンケート」を実施した後に使用できる分析ツール（集計用 Excel ファイル）を開発しました。

本ツールは、下図中の①に示す入力用のフォーマットと、②の集計結果を印刷できる各種のメニューから構成されています。調査回答を入力してクリックするだけで、各質問項目の回答の素点や平均値が、表やレーダーチャート等で表示され、全体表や個人の表とグラフが印刷できるようになっています。

本項では、グラフや結果から分かることの例を紹介します。

【例 1】校内、学年、クラス等の集団の自己有用感の傾向を把握できる。

【例 2】クラスの全員の自己有用感の状況を一目で確認できる。

【例 3】児童生徒一人一人の自己有用感の詳しい傾向を把握できる。

本ツールによって得られたデータは、個別指導計画作成のための参考資料にしたり、指導の成果を確認するための資料にしたりするなど、様々な活用が考えられます。

### 分析ツールのメニュー画面（Excel ファイル）

## 自己有用感調査 \* MENU \*

**① 調査回答を入力。**

第2回目の調査回答を入力

第1回目の調査回答を入力

**② 印刷をする。**

調査人数票を印刷する

調査結果の平均票を印刷する

調査結果のグラフを印刷する

クラス全員分のグラフを印刷する

個人の表とグラフを印刷する（5 名ごと）

個人の表とグラフを印刷する（1 名ずつ）

要素ごとの比較のグラフを印刷する

質問ごとの回答を比較する

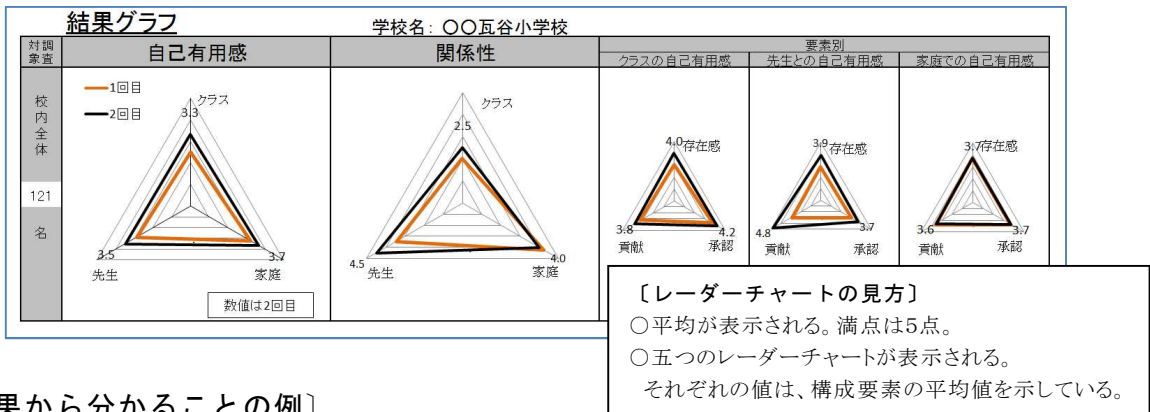
※マクロを有効にして使用してください。

セキュリティの警告 マクロが無効にされました。 オプション

オプションをクリックして『このコンテンツを有効にする』にチェックを入れて OK ボタンを押してください。

【例1】校内、学年、クラス等の集団の自己有用感の傾向を把握できる。

…「MENU」→「調査結果のグラフを印刷する」を選択

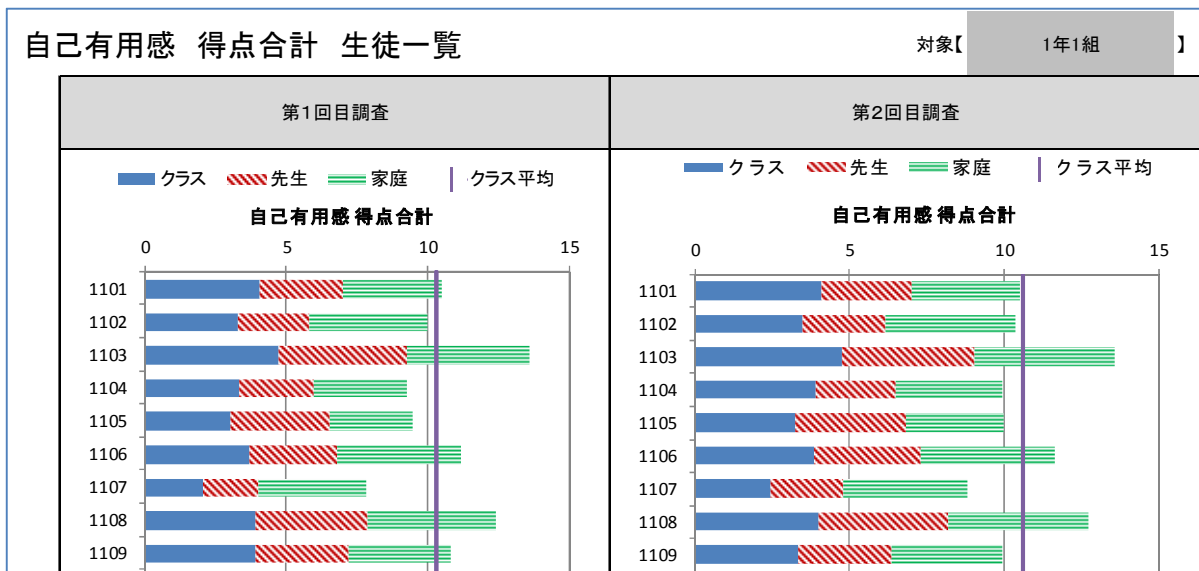


〔結果から分かることの例〕

- 校内全体の自己有用感のうち、1回目の調査と比べて、三つの関係（クラス、家庭、先生）が、全て上がっている。
- 関係性については、先生との関係性が2回目の調査では大幅に上がった。
- 要素別では、クラスや先生との関係における自己有用感の全ての要素が上がった。

【例2】クラス全員の自己有用感の状況を一目で確認できる。

…「MENU」→「クラス全員分のグラフを印刷する」を選択

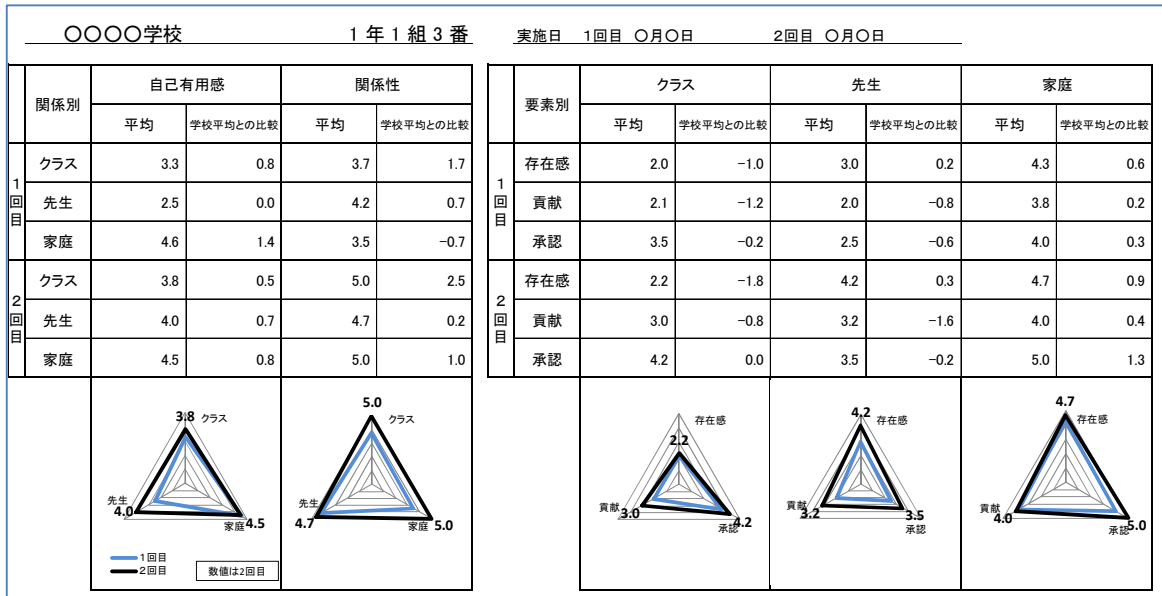


〔結果から分かることの例〕

- 出席番号 1107 番の児童生徒は、特に自己有用感が低い。
- 出席番号 1103 番の児童生徒は、特に自己有用感が高い。
- 2回目の調査では、全体的に自己有用感が高まり、平均が上がった。

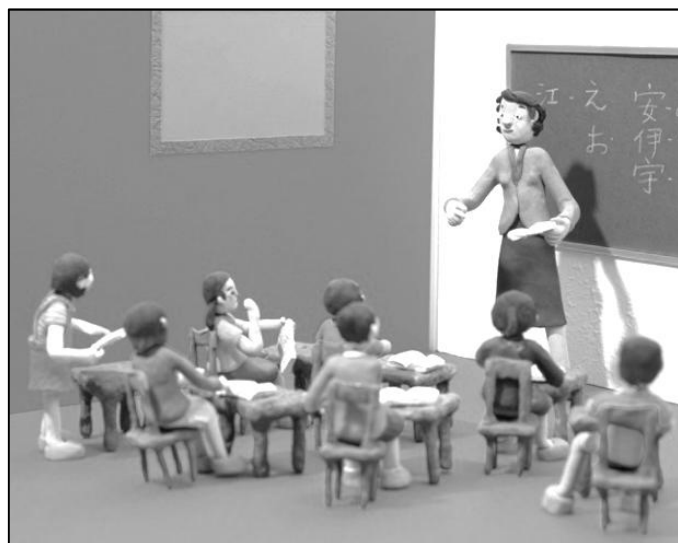
【例3】児童生徒一人一人の自己有用感の詳しい傾向を把握できる。

…「MENU」→「個人の表とグラフを印刷する（1名ずつ）」を選択



〔結果から分かることの例〕

- 自己有用感及び関係性は、1回目に比べて2回目の方が、全項目で上昇している。
- クラスでの自己有用感が、学校の平均に比べて低い。
- 家庭での自己有用感、非常に高い。



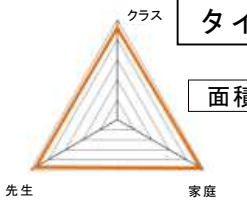
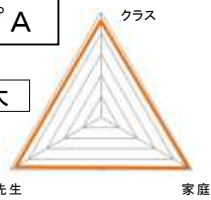


3 グラフから考えられる子どもの傾向

ここでは、個人の結果から考えられる児童生徒の自己有用感の傾向の捉え方や、自己有用感を高める関わり方等の方針の立て方について、例を示しながら説明します。なお、自己有用感を高めるための具体的な関わり方については、第Ⅱ章を参照してください。

(1) 自己有用感と関係性のバランスに注目して

はじめに、個人の表の左側「自己有用感」と「関係性」のレーダーチャートに注目し、三角形の形や面積を比較することにより、全体的な傾向を捉えます。自己有用感と関係性は相関が強いため、多くの児童生徒は自己有用感と関係性の形や面積がほぼ同じになります。例1に示すタイプA・Bの児童生徒は、自己有用感と関係性のバランスはとれていますが、どちらも低いタイプBの児童生徒に対しては、＜考えられる子どもの傾向＞を踏まえ、＜関係性や自己有用感を高める関わり方＞を参考に、関係性を改善し自己有用感を高める関わり方や指導等の方針を考えていくようにします。

例1：自己有用感と関係性が同程度の児童生徒

<p>自己有用感(高)</p> 	<p>関係性(高)</p> 	<p>＜考えられる子どもの傾向（例）＞</p> <p>他者や集団の中で、個性を発揮し、生き生きと生活している傾向があると考えられる。また、学習や課題等に対しても積極的で、自己が設定する目標は、概ね達成している傾向があると考えられる。</p>
<p>＜関係性や自己有用感を高める関わり方（例）＞</p> <p>他者や集団を認める側として活躍させることで、高い自己有用感を維持させるように配慮する。また、自分をよく見せようと回答している場合も念頭に入れ、継続して観察していくとよい。</p>		
<p>自己有用感(低)</p> 	<p>関係性(低)</p> 	<p>＜考えられる子どもの傾向（例）＞</p> <p>対人関係において、自分が思うように関係をつくれないう傾向があると考えられる。また、学習や生活面で、もっている力を十分に発揮できずにいるか、十分な力が身に付いていないなどの傾向があると考えられる。</p>
<p>＜関係性や自己有用感を高める関わり方（例）＞</p> <p>児童生徒の様子をよく観察し、まずは教師が意図的に役割を与え、見守り、やり遂げさせることで、先生との関係性及び自己有用感を高めさせるようにする。これを足がかりとして、自信をもたせ、他の関係性や自己有用感を高められるよう働きかけていくとよい。家庭の協力も得たい。</p>		

次の例2に示すタイプC・Dは、自己有用感と関係性の状況に差がある児童生徒です。全体から見ると少数ですが、特別な背景や原因等があることが考えられます。

**例2：自己有用感と関係性の差異が大きい児童生徒**

<p><b>自己有用感(低)</b></p>	<p><b>関係性(高)</b></p>	<p><b>&lt;考えられる子どもの傾向(例)&gt;</b></p> <p>控え目な性格で、あまり人前に出ることを好まず、自己評価が厳しい、まじめで素直な傾向があると考えられる。逆に、今の自分に満足していて、自らを向上させようという意欲がないなど、努力が足りない傾向があるとも考えられる。</p>
<p><b>タイプC</b></p>		
<p><b>&lt;自己有用感を高める関わり方(例)&gt;</b></p> <p>基盤となる関係性はよいので、様々な場面で意図的に「貢献」させることで、「承認」を得られるようにすることに配慮する。教室内では、「否定しない」などのルールを設け、子ども同士で「認め合う」場を増やし、自己のよさに気付かせるよう配慮することも考えられる。また、三つの関係の中から、自己有用感が低い関係を確認し、例3・4を参照に必要な手立てを講じていくとよい。</p>		
<p><b>自己有用感(高)</b></p>	<p><b>関係性(低)</b></p>	<p><b>&lt;考えられる子どもの傾向(例)&gt;</b></p> <p>ある程度、発言力や行動力があり周囲から認められているが、人間関係がうまくいっていない傾向がある。逆に、自分を過大に評価している傾向があるとも考えられる。これらの場合、今後、壁にぶつかったときなど、反動で自己有用感が急激に低下してしまうことが考えられる。</p>
<p><b>タイプD</b></p>		
<p><b>&lt;自己有用感を高める関わり方(例)&gt;</b></p> <p>不安定な傾向があると捉え、配慮する。家庭での関係性も低い場合は、特に注意深く観察していくようにする。要素の状況も考慮して、子ども同士が関わり合い認め合う機会を増やすことや、クラス等で協力して制作する活動に取り組ませるなど、達成感や所属感を感じさせていくとよい。</p>		

**【参考】**

調査した小4から高3までの本県の児童生徒を、学校段階別に、自己有用感と関係性の各学校段階の平均点を境界として四つに分けると、次のようになりました。

表 1.2 栃木県の子どもの自己有用感と関係性の状況（数値は小数第1位で四捨五入）

子どものタイプ（自己有用感・関係性）	小学生	中学生	高校生
タイプA（高・高）	47%	41%	42%
タイプB（低・低）	34%	35%	34%
タイプC（低・高）	9%	12%	12%
タイプD（高・低）	9%	12%	12%

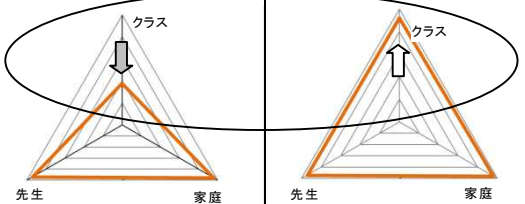
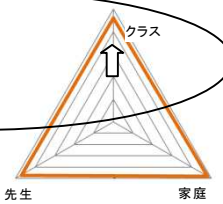
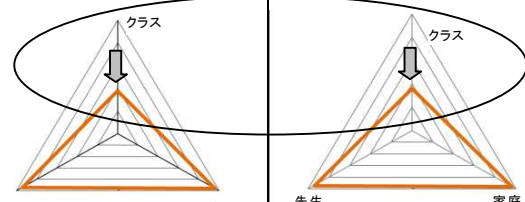
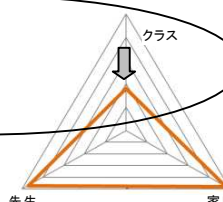


(2) 「クラスでの自己有用感」に注目して

児童生徒にとって、クラスは生活の基盤であり、そこで育まれる「クラスでの自己有用感」は、各学校段階で共通して最も重要な自己有用感であると言えます。

このため、「クラスでの自己有用感」の低い児童生徒は、特に注目する必要があります。ここでは、次の例3に示す＜考えられる子どもの傾向＞を踏まえ、＜自己有用感を高める関わり方＞に示すような指導の方針について考えます。さらに、要素別の結果にも注目し、低い要素を確認して、関わり方の詳細について検討します。

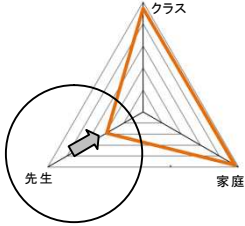
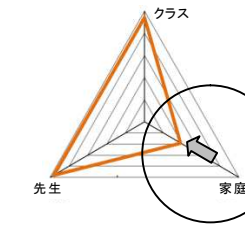
例3：クラスでの自己有用感が低い児童生徒

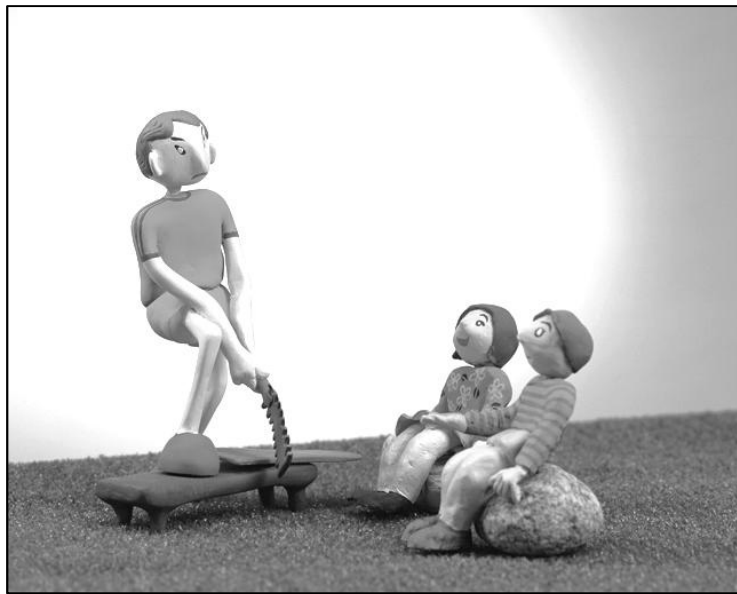
<p><b>クラスでの自己有用感（低）</b></p> 	<p><b>クラスでの関係性（高）</b></p> 	<p><b>＜考えられる子どもの傾向（例）＞</b></p> <p>性格的に控え目で人前で目立つことが苦手、自己評価が低く、自分に対する自信がないなどの傾向があると考えられる。</p>
<p><b>＜自己有用感を高める関わり方（例）＞</b></p> <p>基盤となる関係性がしっかりしているので、活躍の場を与え、自信をもたせられるように配慮する。また、達成が確認しやすい役割やスモールステップの課題等を与え、やり遂げさせる経験とそれに対して承認される経験を重ねることで、少しずつ自信をもたせていくようにするとよい。</p>		
<p><b>クラスでの自己有用感（低）</b></p> 	<p><b>クラスでの関係性（低）</b></p> 	<p><b>＜考えられる子どもの傾向（例）＞</b></p> <p>大人とはうまく関係をつくれるが、クラスでの関係はつくれずにいるため、居心地が悪いと感じている傾向があると考えられる。または、他者や集団と同じ生活や行動をすることに難しさや抵抗を感じているなどの傾向があると考えられる。</p>
<p><b>＜自己有用感や関係性を高める関わり方（例）＞</b></p> <p>多くの先生方の協力を得ながら、観察や面談を通して原因や背景について明らかにするとともに、障害する要因を取り除いたり、低くしたりするように配慮する。少なくとも「先生は、あなたのことを気にかけている。」というメッセージが常に本人に伝わるように関わっていくとよい。同時に、所属するクラス全体へも、協同することや、人権を尊重することへの指導も大切である。</p>		

(3) 「先生との関係における自己有用感・家庭での自己有用感」に注目して

先生との関係性や自己有用感は、大人や目上の人との関係性とほぼ同意と考えられます。また、家庭は他者と関わる社会生活の最も基本的な場であり、家庭での関係性や自己有用感が低い児童生徒には、何らかの背景や問題があると考えられます。

例4：先生との関係における自己有用感・家庭での自己有用感が低い児童生徒

先生との自己有用感(低)	先生との関係性(高)	先生との関係性(低)
	<p align="center"><b>&lt;考えられる子どもの傾向(例)&gt;</b></p> <p>先生を頼らずに、自立している傾向があると考えられる。高校生に多い。</p> <p>何らかの理由で、先生や学校、または大人等に否定的な感情をもっている傾向があると考えられる。</p>	
<p><b>&lt;自己有用感や関係性を高める関わり方(例)&gt;</b></p>		
<p align="center"><b>先生との自己有用感:(低)、関係性:(高)</b></p> <p>比較的容易に自己有用感を高めることが可能である。「先生方から声をかける」「児童生徒の話をじっくり聞く」など、直接関わる機会を増やしていくとよい。</p>	<p align="center"><b>先生との自己有用感:(低)、関係性:(低)</b></p> <p>左記の関わり方のほか、校外のボランティア活動への参加を促すなど、意図的に先生や大人との関わる場を設定し達成感を味わわせるとよい。また、先生方同士や家庭との連携を密にして、否定的な感情をもつ理由等を明らかにしていくとよい。</p>	
家庭での自己有用感(低)	家庭での関係性(高)	家庭での関係性(低)
	<p align="center"><b>&lt;考えられる子どもの傾向(例)&gt;</b></p> <p>親や家族に依存しているか、自律的な生活ができていない、またはさせていない場合が考えられる。中学生で多くなる。</p> <p>何らかの理由で、家庭に居場所がない、又は、注目を集めるための反社会的な行動をとる傾向がある。</p>	
<p><b>&lt;自己有用感や関係性を高める関わり方(例)&gt;</b></p>		
<p align="center"><b>自己有用感:(低)、関係性:(高)</b></p> <p>家の人が必要なものを与えたり、失敗をしないように手をかけ過ぎたりする過保護や過干渉の場合が考えられる。家の方は発達とともに「子どもに任せ、見守る姿勢」が大切であることや、「できないことを叱るより、できたことを褒める」など、子どもの実態に応じて関わり方を工夫する必要があることについて、保護者会等を通じて働きかけていくとよい。</p>	<p align="center"><b>自己有用感:(低)、関係性:(低)</b></p> <p>家族からの保護や支援を受けられていない場合や、安らぐ場所を求め家庭や学校以外に居場所を求めてしまう場合が考えられる。まず先生との関係性や自己有用感を高めることからはじめ、徐々にクラス内で「承認」が得られるようにし、家庭訪問等により家庭との連携を図っていくとよい。</p>	



# 資料・データ集

第Ⅰ章、第Ⅱ章、第Ⅲ章で述べてきたことの裏付けとなる  
主な調査データを掲載しています。

## ふだんの生活や思っていることに関するアンケート

栃木県総合教育センター

このアンケートは、栃木県の小学生・中学生・高校生のふだんの生活のようすや、「今」思っていることなどについて調べるものです。この用紙は、集めた後すぐに封をしますので、あなたが思うとおりに答えてください。

この調査は、小学生から高校生まで共通で実施する調査です。そのため、ひらがなが多く、やさしい文やふりがなを用いています。

- ・ 質問は、2ページから7ページの「質問1」、「質問2」、「質問3」まであります。
- ・ 似ている質問がありますが、すべて答えてください。
- ・ 質問の内容がわからないときには、手をあげて先生に聞いてください。

### 回答のしかた

・ 質問に対して、あなたが思ったことに一番近いものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。

※ 間違えてしまったときは、下の例のように消しゴムは使わずに線で消してください。

#### (直し方の例)

質問○	4	3	2	1		4	3	2	1
次の1から30について、あなたが思っていることに一番近いものを、1つだけ選び、数字を○でかこんでください。 「4:あてはまる」「3:ややあてはまる」「2:あまりあてはまらない」「1:あてはまらない」	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 わたしのクラスは、仲良く助け合っている。	④	<del>③</del>	2	1	または	<del>④</del>	<del>③</del>	2	1

次の1から3に答えてください。

	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
1 あなたの学年を○でかこんでください。	1	2	3	4	5	6	7	8	9

	男	女
2 あなたの性別を○でかこんでください。	1	2

	十の位	一の位
3 あなたの出席番号を書いてください。		

記入例

1番 → 

+	1
---	---

10番 → 

+	1	0
---	---	---

### 質問 1

(1) 次の1から21について、あなたが思っていることに一番近いものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。

- 「5:とてもあてはまる」「4:ややあてはまる」「3:どちらともいえない」  
「2:あまりあてはまらない」「1:まったくあてはまらない」

なお、以下の1から7は、「悪口を言う」や「ふざける」などの良くない行動によって「クラスの人の役に立っている」などと思う場合は、「あてはまる」には含めません。

	5	4	3	2	1
(1) 次の1から21について、あなたが思っていることに一番近いものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。	とてもあてはまる	ややあてはまる	どちらともいえない	あまりあてはまらない	まったくあてはまらない
「5:とてもあてはまる」「4:ややあてはまる」「3:どちらともいえない」 「2:あまりあてはまらない」「1:まったくあてはまらない」					
なお、以下の1から7は、「悪口を言う」や「ふざける」などの良くない行動によって「クラスの人の役に立っている」などと思う場合は、「あてはまる」には含めません。					
1 わたしは、クラスの人の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1
2 わたしは、クラスの人を信頼している。	5	4	3	2	1
3 わたしは、クラスの人から頼りにされていると思う。	5	4	3	2	1
4 わたしは、クラスの人と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1
5 わたしは、クラスの人に支えられていると思う。	5	4	3	2	1
6 わたしは、クラスの重要な一員だと思う。	5	4	3	2	1
7 わたしは、クラスの人から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1
8 わたしは、先生の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1
9 わたしは、先生を信頼している。	5	4	3	2	1
10 わたしは、先生から頼りにされていると思う。	5	4	3	2	1
11 わたしは、先生と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1
12 わたしは、先生に支えられていると思う。	5	4	3	2	1
13 わたしは、先生にとって重要な生徒だと思う。	5	4	3	2	1
14 わたしは、先生から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1
15 わたしは、家の人の役に立っていると思う。	5	4	3	2	1
16 わたしは、家の人を信頼している。	5	4	3	2	1
17 わたしは、家の人から頼りにされていると思う。	5	4	3	2	1
18 わたしは、家の人と一緒にいると安心できる。	5	4	3	2	1
19 わたしは、家の人に支えられていると思う。	5	4	3	2	1
20 わたしは、家族の重要な一員だと思う。	5	4	3	2	1
21 わたしは、家の人から信頼されていると思う。	5	4	3	2	1

次のページに進んでください。

平成24年度 本調査で使用した質問紙		5	4	3	2	1
(2) あなたは、 <sup>せいだん</sup> の生活の中で、 <sup>つぎ</sup> の22から33の経験がどのくらいありますか。一番近いものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。	よくある 「5:よくある」 「4:ときどきある」 「3:どちらともいえない」 「2:あまりない」 「1:まったくない」	よくある	ときどきある	どちらともいえない	あまりない	まったくない
22 わたしは、 <sup>ひと</sup> の <sup>てつだ</sup> いをする	5	4	3	2	1	
23 わたしは、 <sup>ひと</sup> の <sup>なつく</sup> ような <sup>いけん</sup> を言う	5	4	3	2	1	
24 わたしは、 <sup>ひと</sup> から「ありがとう」と言われる	5	4	3	2	1	
25 わたしは、 <sup>ひと</sup> からほめられる	5	4	3	2	1	
26 わたしは、 <sup>せんせい</sup> の <sup>てつだ</sup> いをする	5	4	3	2	1	
27 わたしは、 <sup>せんせい</sup> が <sup>なつく</sup> ような <sup>いけん</sup> を言う	5	4	3	2	1	
28 わたしは、 <sup>せんせい</sup> から「ありがとう」と言われる	5	4	3	2	1	
29 わたしは、 <sup>せんせい</sup> からほめられる	5	4	3	2	1	
30 わたしは、 <sup>いえ</sup> の <sup>ひと</sup> の <sup>てつだ</sup> いをする	5	4	3	2	1	
31 わたしは、 <sup>いえ</sup> の <sup>ひと</sup> が <sup>なつく</sup> ような <sup>いけん</sup> を言う	5	4	3	2	1	
32 わたしは、 <sup>いえ</sup> の <sup>ひと</sup> から「ありがとう」と言われる	5	4	3	2	1	
33 わたしは、 <sup>いえ</sup> の <sup>ひと</sup> からほめられる	5	4	3	2	1	

ここまで終わったら、○のつけ忘れがないか確かめてください。

○のつけ忘れがなければ、質問2に進んでください。

質問 2		4	3	2	1
(1) 次の1から24について、あなたの <sup>せいだん</sup> の生活のようすや考えに一番近いと思うものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。	「4:あてはまる」 「3:ややあてはまる」 「2:あまりあてはまらない」 「1:あてはまらない」	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 自分から <sup>がくしゅう</sup> や <sup>せいかつ</sup> 生活などの <sup>けいかく</sup> 計画を立てている。	4	3	2	1	
2 <sup>しゅうしん</sup> 就寝、 <sup>きしよう</sup> 起床など、 <sup>じかん</sup> 時間を守って <sup>せいかつ</sup> 生活している。	4	3	2	1	
3 テレビやゲーム、 <sup>けいだい</sup> 携帯電話などには、 <sup>じかん</sup> あまり時間をかけていない。	4	3	2	1	
4 言われなくても、 <sup>じぶん</sup> 自分から <sup>かてい</sup> 家庭 <sup>がくしゅう</sup> 学習をしている。	4	3	2	1	
5 <sup>がっこう</sup> 学校で <sup>べんきょう</sup> 勉強している <sup>ないよう</sup> 内容は、 <sup>りかい</sup> だいたい理解している。	4	3	2	1	
6 <sup>ひと</sup> クラスの前で、 <sup>いけん</sup> 自分の <sup>いけん</sup> 意見を <sup>はつぼう</sup> 発表するのは、 <sup>よくい</sup> 得意な <sup>ほう</sup> 方だ。	4	3	2	1	
7 <sup>べんきょう</sup> 勉強は、 <sup>しやうらい</sup> 将来の <sup>じぶん</sup> 自分にとって <sup>たいせつ</sup> 大切だと思 <sup>おも</sup> う。	4	3	2	1	
8 <sup>がくしゅう</sup> 学習などの <sup>かだい</sup> 課題をできるだけ <sup>じぶん</sup> 自分の <sup>ちから</sup> 力で <sup>かいけつ</sup> 解決しようとしている。	4	3	2	1	
9 <sup>がっこう</sup> 学校が好きだ。	4	3	2	1	
10 <sup>ひと</sup> クラスの人と、 <sup>たが</sup> 互いに <sup>ちゆうい</sup> 注意 <sup>あ</sup> 合える。	4	3	2	1	
11 <sup>あいて</sup> 相手を <sup>きず</sup> 傷つけることは <sup>い</sup> 言わない。	4	3	2	1	
12 <sup>がっこう</sup> 学校の <sup>つくえ</sup> 机などの <sup>こうきぶつ</sup> 公共物（みんなで使うもの）は、 <sup>たいせつ</sup> 大切に <sup>つか</sup> 使っている。	4	3	2	1	
13 <sup>がっこう</sup> 学校の <sup>きまり</sup> きまりを、 <sup>まも</sup> きちんと守っている。	4	3	2	1	
14 <sup>じぶん</sup> 自分には、 <sup>よい</sup> よいところがあると思 <sup>おも</sup> う。	4	3	2	1	
15 <sup>じぶん</sup> 自分は <sup>しやうらい</sup> 将来、 <sup>しやかい</sup> 社会の <sup>やく</sup> 役に <sup>た</sup> 立てる <sup>ひと</sup> 人になれると思 <sup>おも</sup> う。	4	3	2	1	
16 <sup>じぶん</sup> 自分は、 <sup>かち</sup> 価値のある <sup>にんげん</sup> 人間だと思 <sup>おも</sup> う。	4	3	2	1	
17 <sup>しやうらい</sup> 将来の <sup>ゆめ</sup> 夢や <sup>もくひょう</sup> 目標をもっている。	4	3	2	1	
18 <sup>しやうらい</sup> 将来、 <sup>つ</sup> 就きたい（なりたい）と思 <sup>おも</sup> っている <sup>しごと</sup> 職業がある。	4	3	2	1	
19 <sup>じぶん</sup> 自分で <sup>いちど</sup> 一度決めたことを、 <sup>やりつづ</sup> やりつづけている。	4	3	2	1	
20 <sup>たいせつ</sup> 大切なことは <sup>じぶん</sup> 自分で <sup>かんが</sup> 考えて <sup>ま</sup> 決めている。	4	3	2	1	
21 <sup>だれ</sup> だれにでも <sup>あ</sup> あいさつを <sup>し</sup> している。	4	3	2	1	
22 <sup>しんせつ</sup> 親切にされたら、「ありがとう（ございます）」と <sup>い</sup> 言っている。	4	3	2	1	
23 <sup>いけん</sup> 意見や <sup>かんが</sup> 考えの <sup>ちが</sup> 違う <sup>ひと</sup> 人とも、 <sup>はな</sup> なごやかに <sup>あ</sup> 話し合える。	4	3	2	1	
24 <sup>がくねん</sup> クラスや <sup>ちが</sup> 学年が <sup>ちが</sup> 違う <sup>ひと</sup> 人とも、 <sup>きょうりよく</sup> 協力して <sup>こうどう</sup> 行動している。	4	3	2	1	

つぎのページに進んでください。



平成24年度 本調査で使用した質問紙	4	3	2	1
(2) あなたは、今までで次の25から36のことをどのくらいしましたか？ 一番近いと思うものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。 「4:いつもした」「3:ときどきした」 「2:少しした」「1:したことがない」	いつもした	ときどきした	少しした	したことがない
25 家の人が家事をしているとき、家事を手伝った。	4	3	2	1
26 家の人に飲み物（コーヒーやお茶など）をいれた。	4	3	2	1
27 家の人が重たい荷物を持っているとき、手伝った。	4	3	2	1
28 家の人がつかれているとき、肩をもんだ（たたいた）。	4	3	2	1
29 運動会で仲のよい友だちが走っているときに、応援した。	4	3	2	1
30 仲のよい友だちがテストで良い点をとったときに、ほめた。	4	3	2	1
31 仲のよい友だちが荷物をたくさん持っているとき、手伝った。	4	3	2	1
32 仲のよい友だちがケガや病気のとき、保健室までつれて行った。	4	3	2	1
33 電車やバスなどで知らない人に席をゆずった。	4	3	2	1
34 公園などで会った知らない子を遊びにさそった。	4	3	2	1
35 知らない人が重そうな荷物を持っているとき、手伝った。	4	3	2	1
36 知らない子が嫌なことをされていたときに、助けた。	4	3	2	1

ここまで終わったら、○のつけ忘れがないか確かめてください。

○のつけ忘れがなければ、質問3に進んでください。

質問3	4	3	2	1
次の1から30について、あなたが一番近いと思うものを1つだけ選び、数字を○でかこんでください。 「4:あてはまる」「3:ややあてはまる」 「2:あまりあてはまらない」「1:あてはまらない」	あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
1 友だちの方から、わたしに話しかけてくれる。	4	3	2	1
2 友だちは、話を聞いてほしいときには、わたしの話を聞いてくれる。	4	3	2	1
3 友だちは、休み時間などには、わたしと校庭などで遊ぶ。	4	3	2	1
4 わたしのクラスは、ルールを守るクラスだ。	4	3	2	1
5 わたしのクラスの全員が、それぞれどこかの場面で活躍している。	4	3	2	1
6 先生は、わたしたちに目標を決めさせて、取り組ませている。	4	3	2	1
7 先生は、わたしたちに計画を立てさせて、取り組ませている。	4	3	2	1
8 先生は、みんながよりよく学校生活がおくれるように、話し合いの時間をとっている。	4	3	2	1
9 先生は、授業の中で、クラスの人同士で教え合う時間をとっている。	4	3	2	1
10 先生は、授業の中で、クラスの人同士が協力する時間をとっている。	4	3	2	1
11 先生は、授業の中で、クラスの人同士がよいところを互いに認め合う場面をつくっている。	4	3	2	1
12 先生は、授業の中で、クラスの人ややりとげるまで見守ってくれる。	4	3	2	1
13 先生は、授業の最後に、わたしたちが学習した内容を振り返ったり、まとめたりする時間をとっている。	4	3	2	1
14 先生の方から、わたしに話しかけてくれる。	4	3	2	1
15 先生は、わたしがほめてほしいと思うことをほめてくれる。	4	3	2	1
16 先生は、話を聞いてほしいときには、わたしの話を聞いてくれる。	4	3	2	1
17 先生は、大切なことを守らないときには、きびしくしかけてくれる。	4	3	2	1
18 わたしの学校では、やりとげられてうれしく思う行事がある。	4	3	2	1
19 わたしの学校では、授業や行事で、掲示物や作品などを協力してせい作することができる。	4	3	2	1
20 わたしの学校では、クラブ(部)活動以外で、違う学年の人と一緒に活動することができる。	4	3	2	1

次のページに進んでください

平成24年度 本調査で使用した質問紙		4	3	2	1
質問3のつづき		あてはまる	ややあてはまる	あまりあてはまらない	あてはまらない
21	わたしの学校では、地域の人のためになる活動をすることがある。	4	3	2	1
22	わたしの学校では、先生同士が協力している。	4	3	2	1
23	家の人は、わたしに「時間を守ることが大切だ」と言う。	4	3	2	1
24	家の人は、わたしと「将来のこと」について話をすることがある。	4	3	2	1
25	家の人は、読書をすすめる。	4	3	2	1
26	家の人は、わたしが学校でどんな勉強をしているのか、聞いてくれる。	4	3	2	1
27	家の人は、大切なことを守らないときには、きびしくしかってくれる。	4	3	2	1
28	家の人は、話を聞いてほしいときには、わたしの話を聞いてくれる。	4	3	2	1
29	わたしが住んでいる地域には、積極的に参加したい行事がある。	4	3	2	1
30	わたしが住んでいる地域には、知らない子どもに注意をする大人がいる。	4	3	2	1

ここまで終わったら、○をつけ忘れていないところがないか、もう一度ははじめから確かめてください。

以上で、アンケートは終わりです。御協力、ありがとうございました。

# H 2 4 年度本調査 単純集計結果

## 調査協力学校数

学校段階	小学校	中学校	高校	計
調査協力校数	13校	13校	10校	36校

## 調査実施児童生徒数

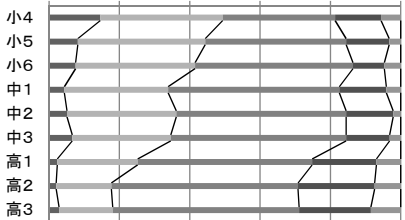
学年	小4	小5	小6	中1	中2	中3	高1	高2	高3
回答数	383	363	378	361	369	345	387	386	385
実施数	392	367	383	366	373	348	389	390	387

### ① 質問1 単純集計結果・・・栃木の子どもの「自己有用感」の状況

【質問1-1】 次の(1)から(21)について、あなたはどのように思いますか？

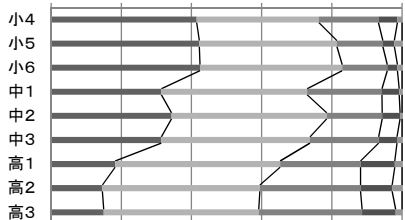
#### (1) わたしは、クラスの人役に立っていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



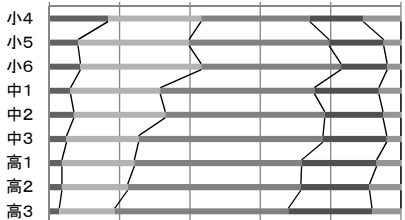
#### (2) わたしは、クラスの人を信頼している

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



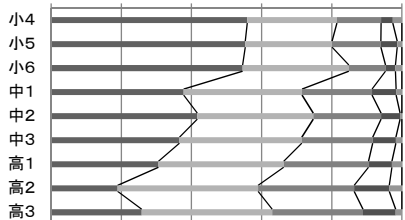
#### (3) わたしは、クラスの人から頼りにされていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



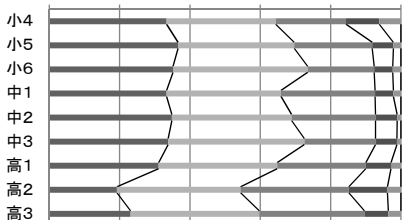
#### (4) わたしは、クラスの人と一緒にいると安心できる

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



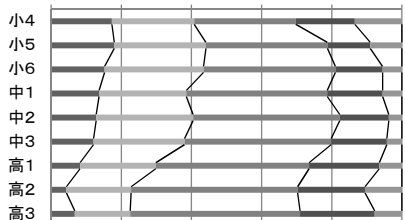
#### (5) わたしは、クラスの人に支えられていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



#### (6) わたしは、クラスの重要な一員だと思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



### 質問1 (7)から(14)のグラフ

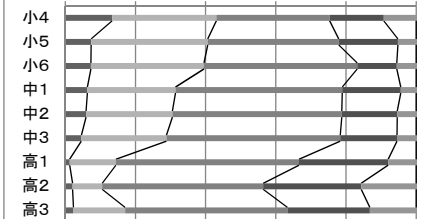
#### (7) わたしは、クラスの人から信頼されていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



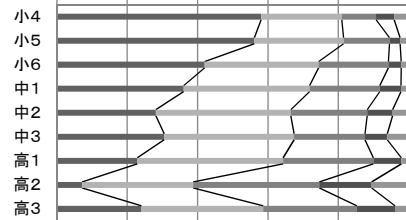
#### (8) わたしは、先生の役に立っていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



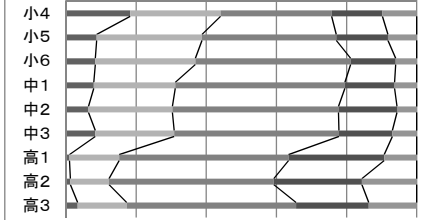
#### (9) わたしは、先生を信頼している

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



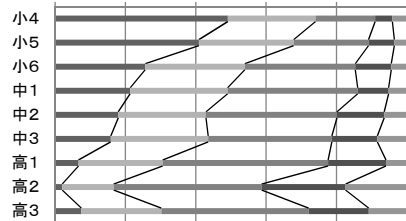
#### (10) わたしは、先生から頼りにされていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



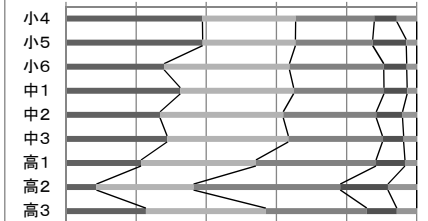
#### (11) わたしは、先生と一緒にいると安心できる

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



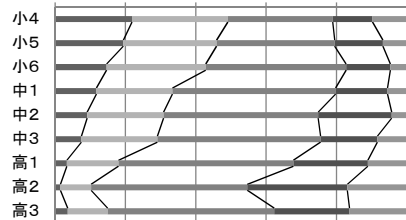
#### (12) わたしは、先生に支えられていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



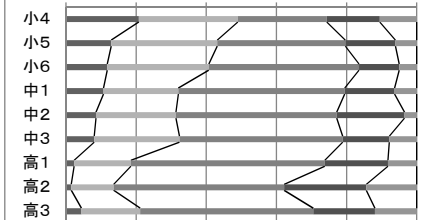
#### (13) わたしは、先生にとって重要な生徒だと思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



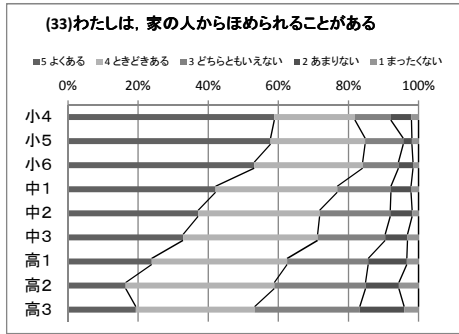
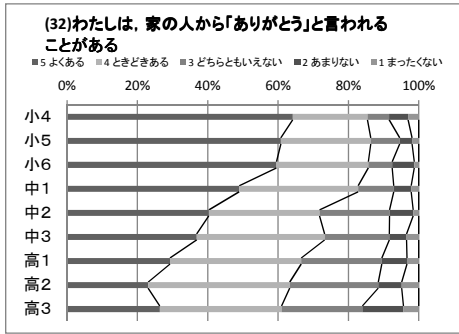
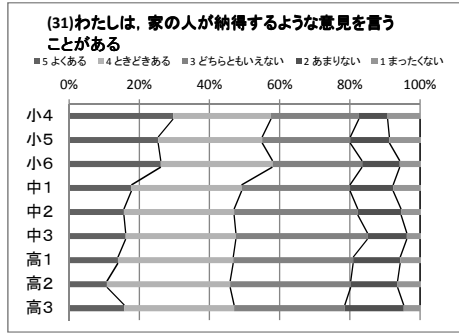
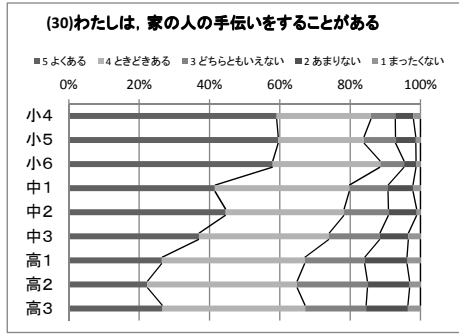
#### (14) わたしは、先生から信頼されていると思う

■5 とてもあてはまる ■4 ややあてはまる ■3 どちらともいえない  
 ■2 あまりあてはまらない ■1 まったくあてはまらない



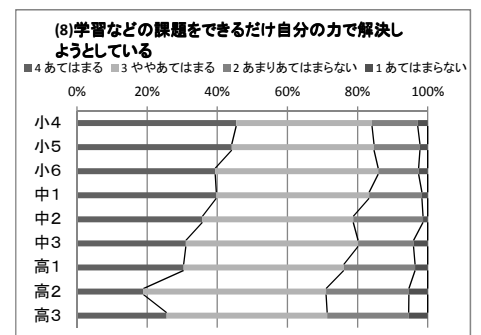
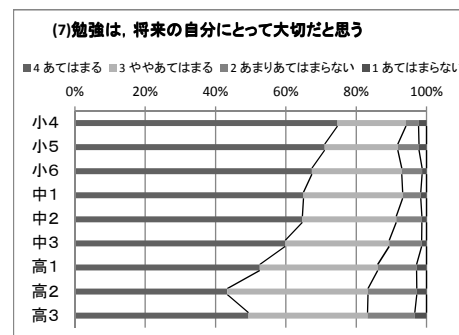
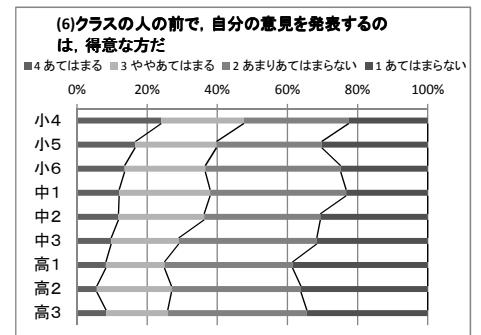
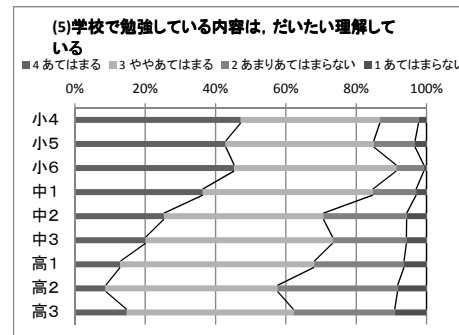
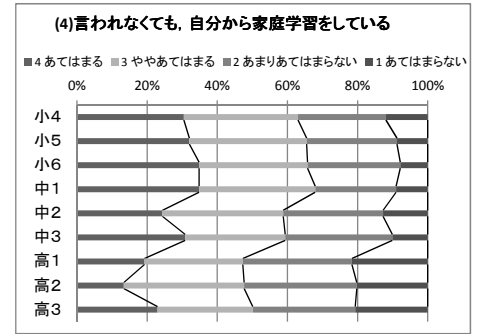
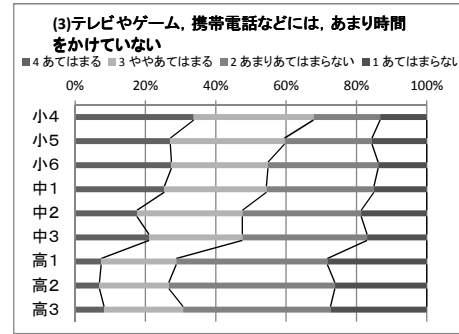
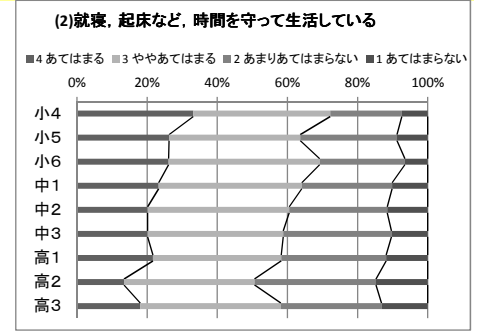
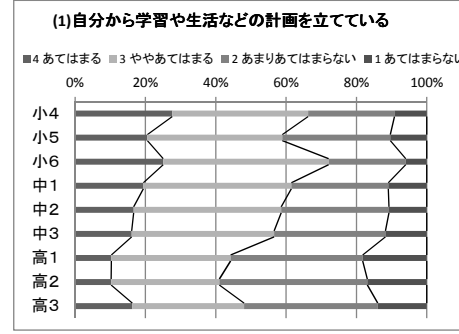


質問1 (30)から(33)のグラフ

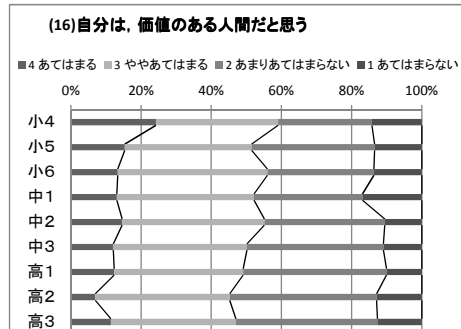
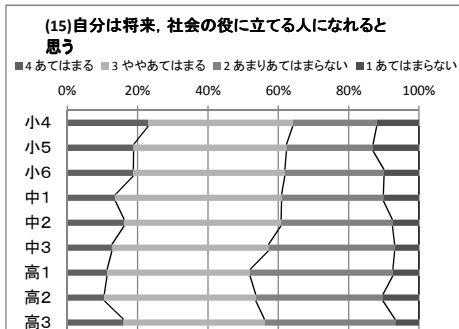
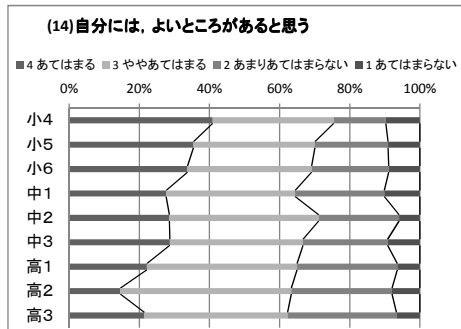
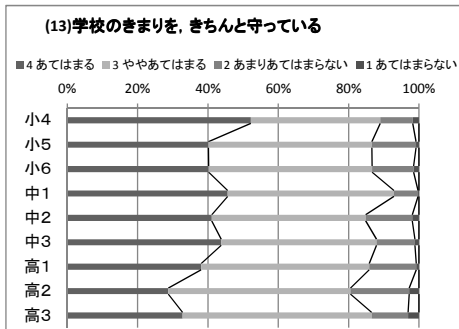
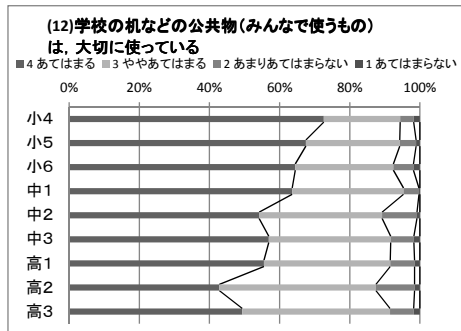
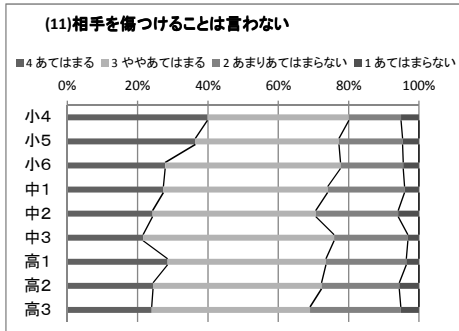
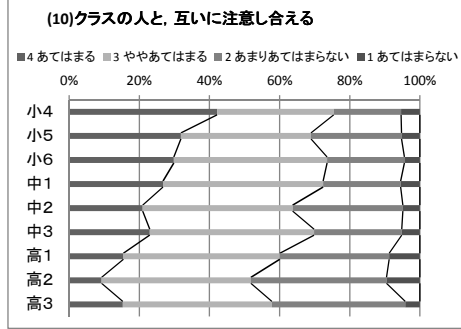
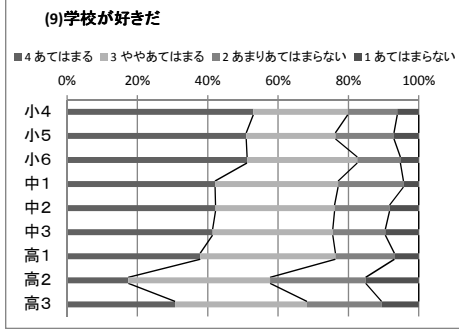


② 質問2 栃木の子どもの「望ましい意識・行動」の状況 学年別集計結果 割合(%)

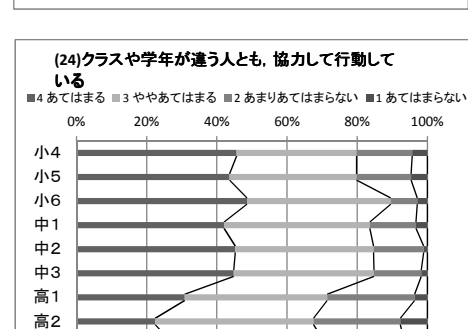
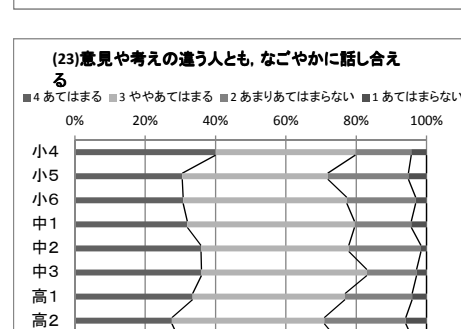
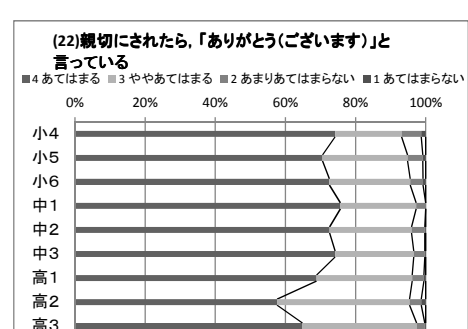
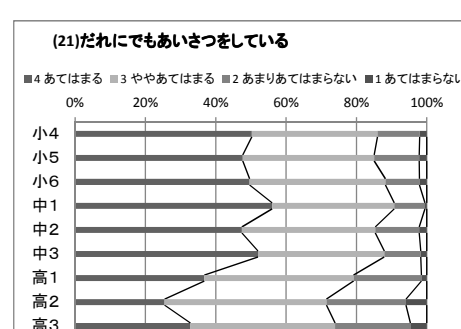
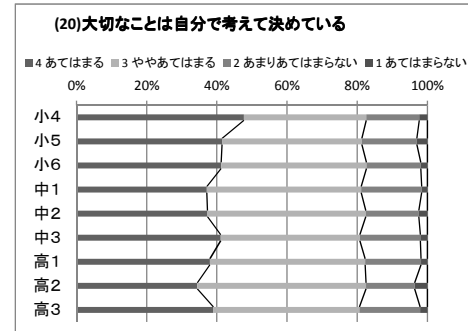
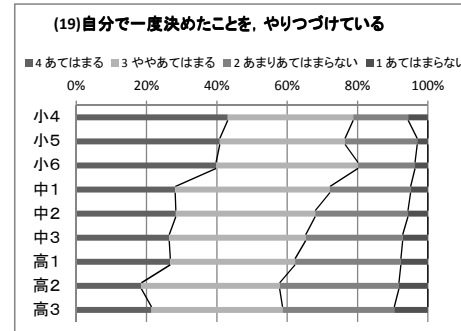
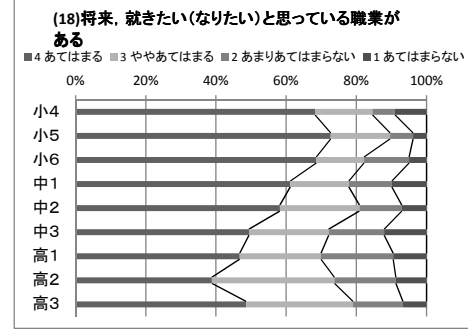
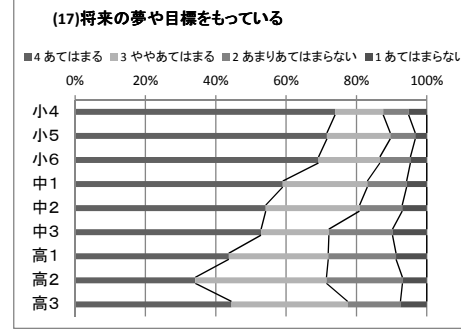
【質問2-1】 次の(1)から(24)について、あなたのふだんの生活のようすや考えに一番近いと思うものを選んでく



質問2 (9)から(16)のグラフ

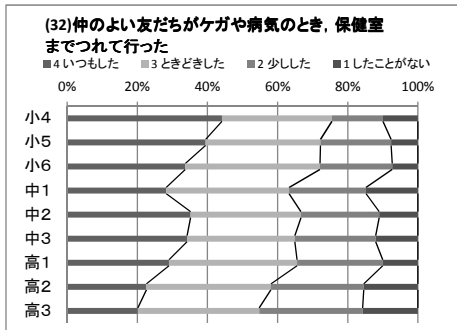
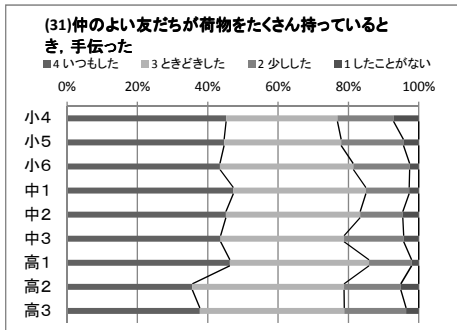
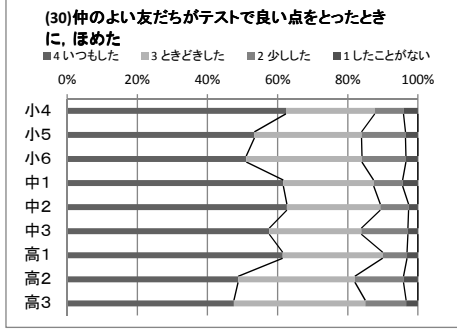
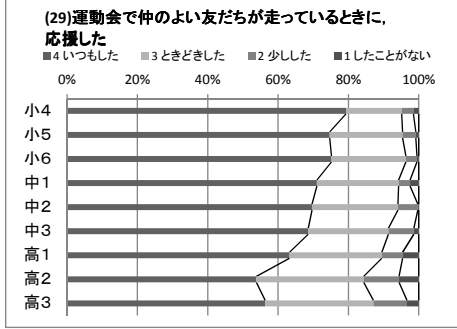
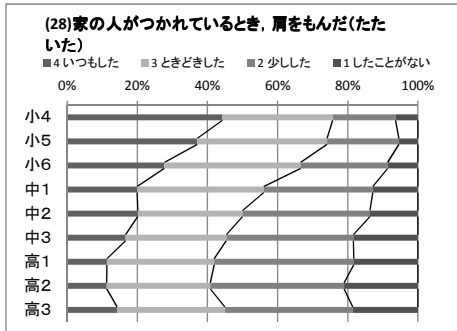
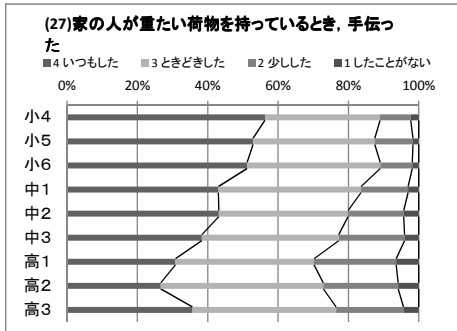
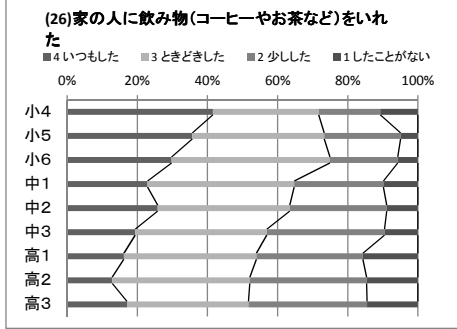
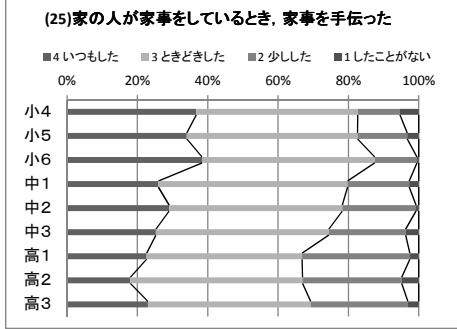


質問2 (17)から(24)のグラフ

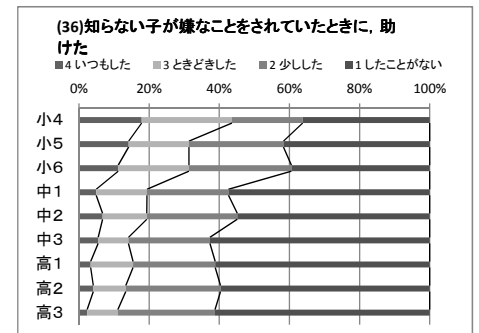
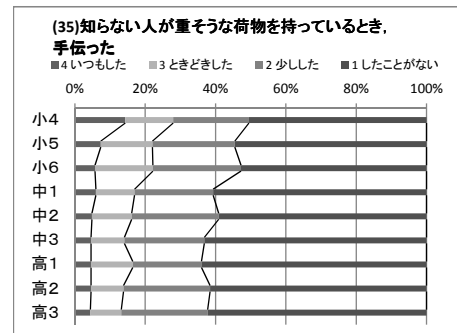
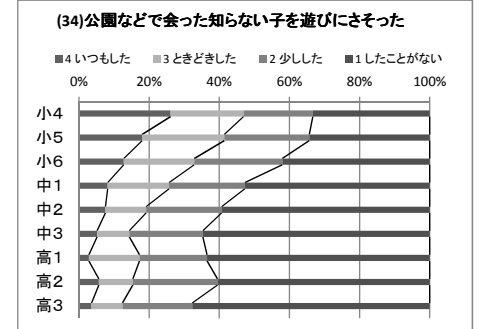
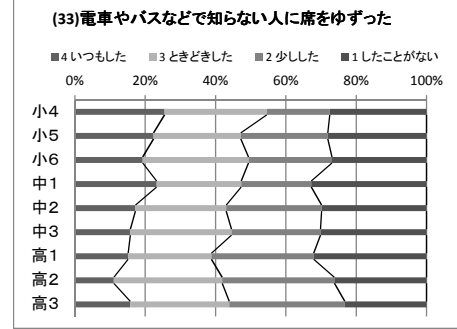




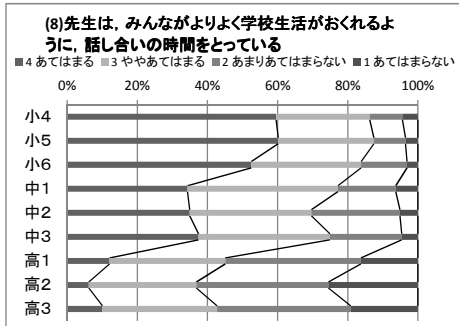
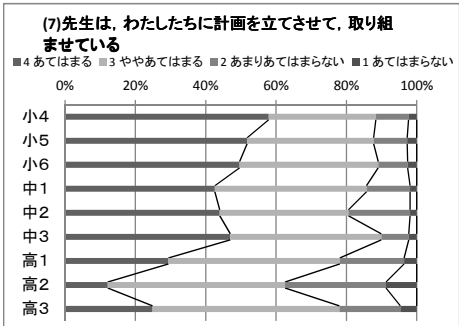
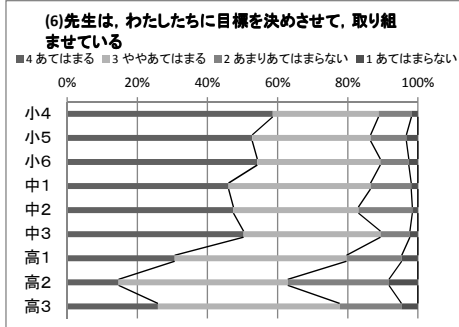
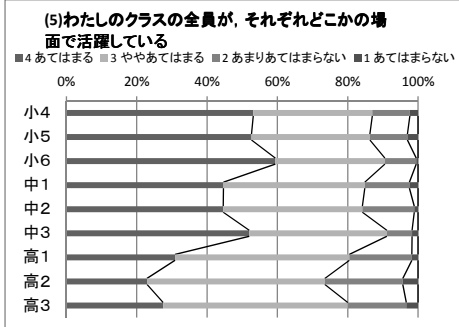
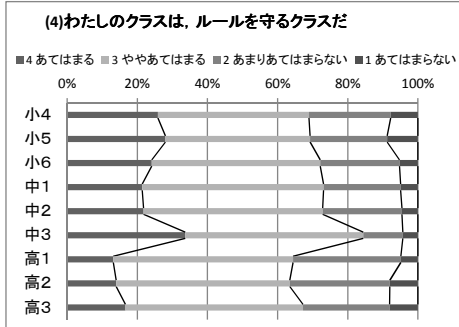
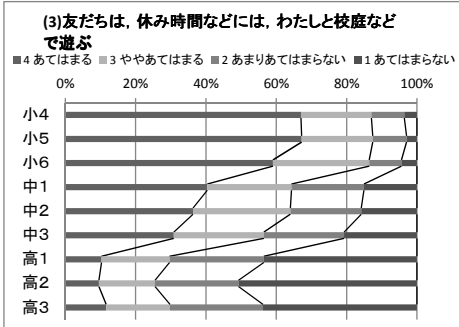
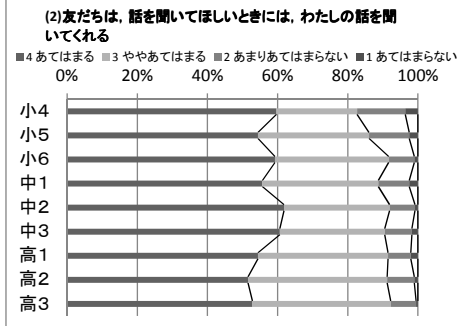
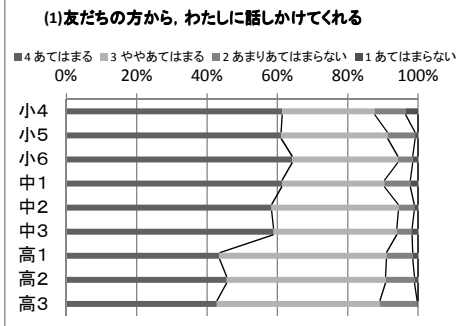
【質問2-2】 次の(25)から(36)について、あなたはどのくらいしましたか？



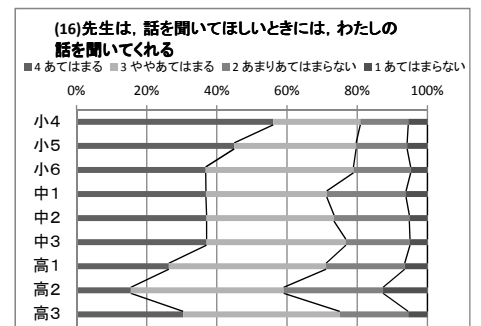
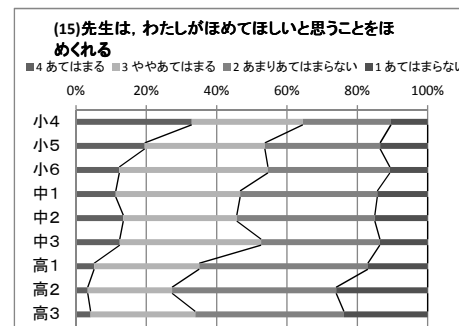
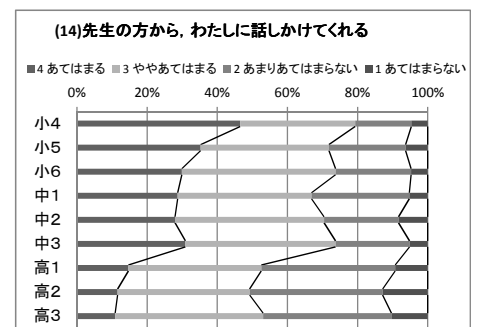
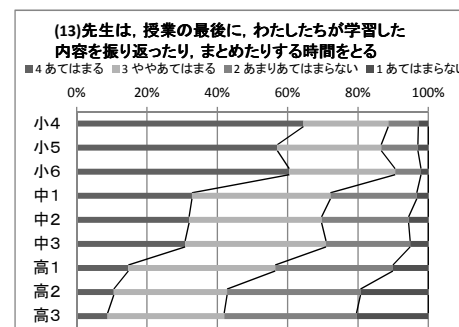
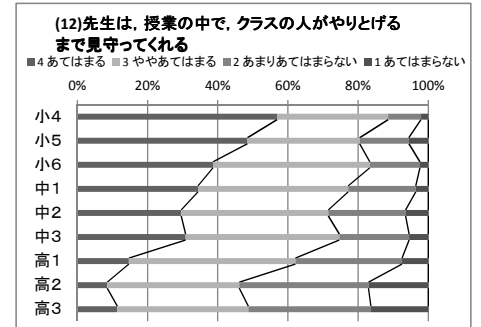
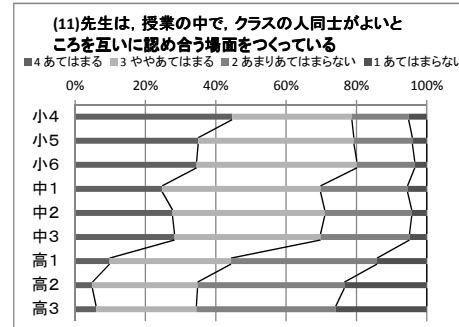
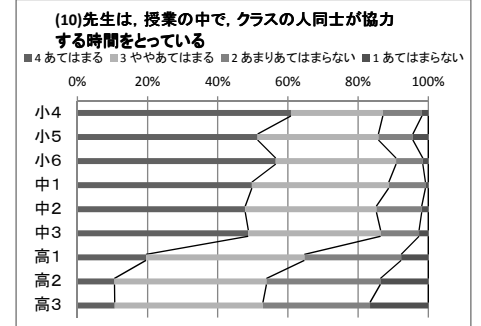
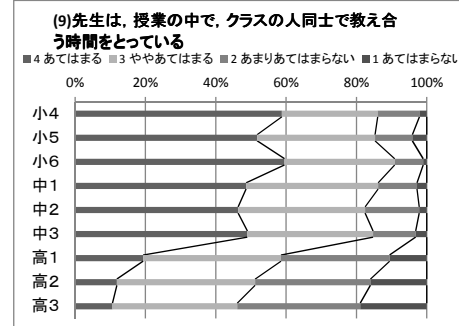
質問2 (33)から(36)までのグラフ



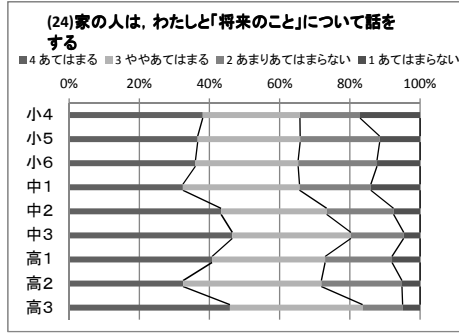
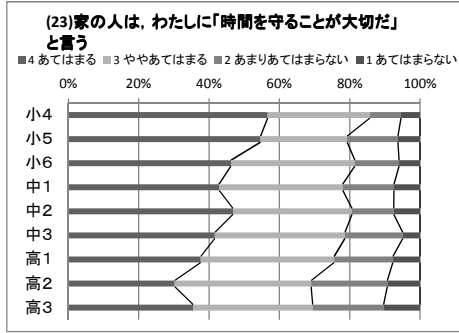
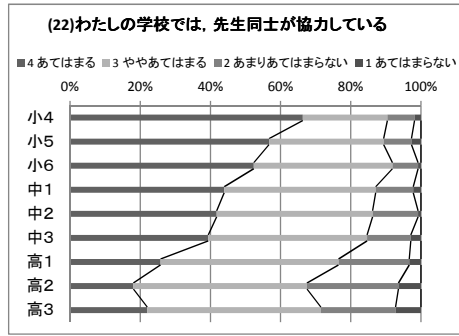
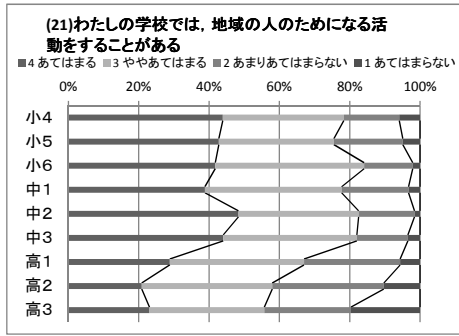
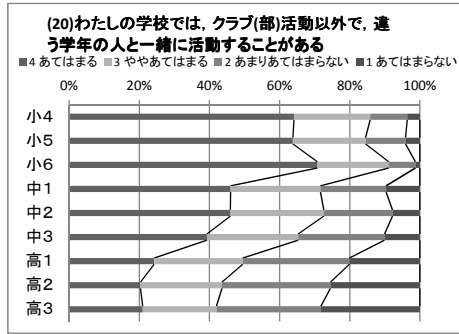
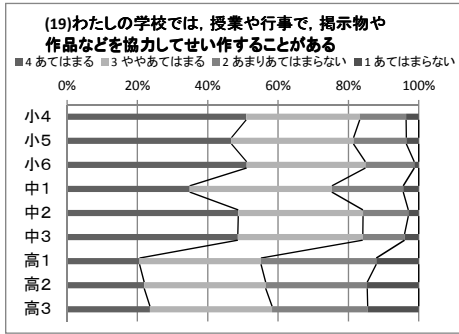
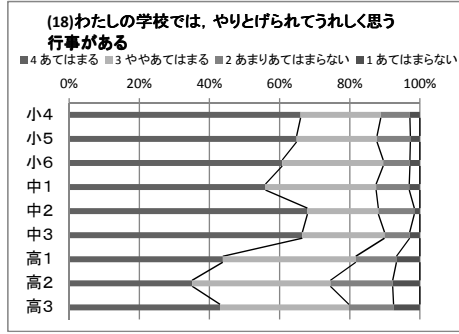
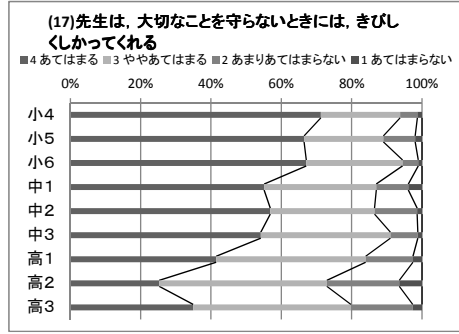
【質問3】 次の(1)から(30)について、あなたが一番近いと思うものはどれですか？



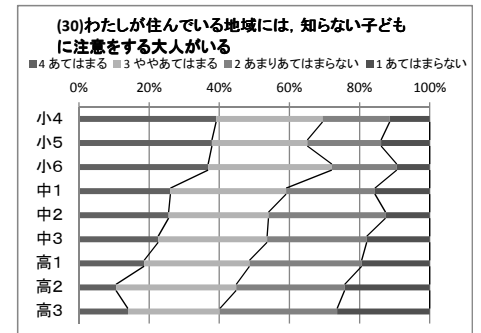
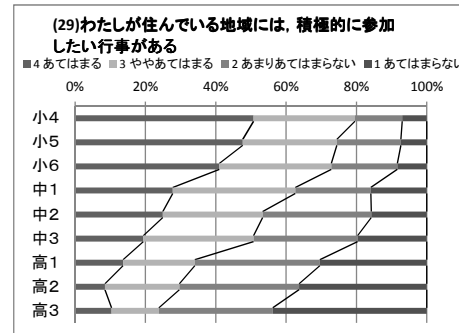
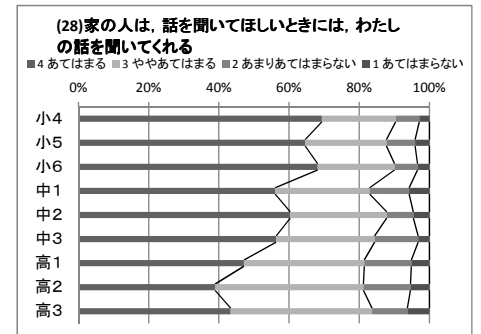
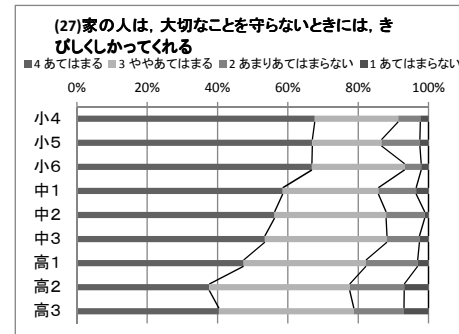
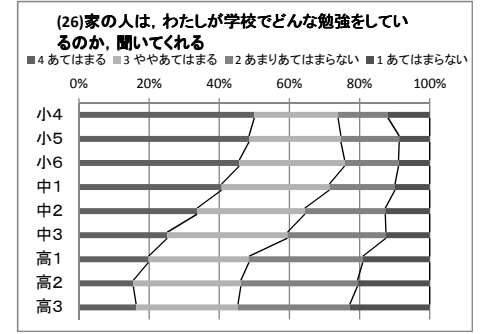
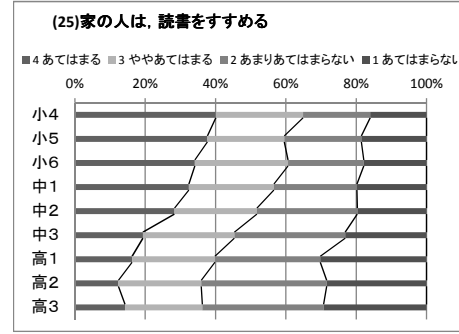
質問3 (9)から(16)のグラフ



質問3 (17)から(24)のグラフ



質問3 (25)から(30)のグラフ



質問1の分析結果

(1) 自己有用感の要素を求めると行った因子分析(三つの関係別)

①クラスの自己有用感 (全学校段階共通)

主因子法:プロマックス回転

	共通性	
	初期	因子抽出後
(01)クラスの人の役に立っている	.599	.668
(02)クラスの人を信頼している	.514	.606
(03)クラスの人から頼りにされている	.666	.736
(04)クラスの人と一緒にいると安心	.558	.722
(05)クラスの人に支えられている	.531	.612
(06)クラスの重要な一員だ	.612	.668
(07)クラスの人から信頼されている	.687	.764
(22)クラスの手伝いをする	.473	.691
(23)クラスの人が納得するような意見を言う	.463	.530
(24)クラスの人からありがとうと言われる	.537	.627
(25)クラスの人からほめられる	.571	.781

因子	説明された分散の合計			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和a
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計
1	6.004	54.579	54.579	5.684	51.672	51.672	4.963
2	1.176	10.695	65.274	.829	7.537	59.209	3.935
3	.958	8.712	73.987	.651	5.920	65.129	4.095
4	.560	5.090	79.077	.241	2.192	67.321	3.484
5	.445	4.043	83.120				
6	.383	3.485	86.605				
7	.336	3.051	89.656				
8	.325	2.959	92.615				
9	.293	2.665	95.280				
10	.288	2.623	97.902				
11	.231	2.098	100.000				

③家庭での自己有用感 (全学校段階共通)

主因子法:プロマックス回転

	共通性	
	初期	因子抽出後
(15)家の人の役に立っている	.668	.843
(16)家の人を信頼している	.639	.735
(17)家の人から頼りにされている	.730	.776
(18)家の人と一緒にいると安心	.652	.763
(19)家の人に支えられている	.540	.595
(20)家族の重要な一員だ	.665	.723
(21)家の人から信頼されている	.718	.845
(30)家の手伝いをする	.413	.468
(31)家の人から納得するような意見を言う	.404	.432
(32)家の人からありがとうと言われる	.668	.825
(33)家の人からほめられる	.664	.727

因子	説明された分散の合計			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和a
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計
1	6.541	59.466	59.466	6.268	56.982	56.982	4.893
2	1.109	10.083	69.549	.770	7.003	63.985	4.879
3	.694	6.313	75.862	.466	4.232	68.218	5.158
4	.564	5.125	80.988	.227	2.060	70.278	4.279
5	.512	4.652	85.640				
6	.385	3.498	89.138				
7	.315	2.866	92.004				
8	.251	2.278	94.282				
9	.227	2.062	96.344				
10	.219	1.994	98.338				
11	.183	1.682	100.000				

	パター行列a			
	因子			
	1	2	3	4
(03)クラスの人から頼りにされている	.843	.010	-.005	.009
(07)クラスの人から信頼されている	.836	.087	.030	-.063
(01)クラスの人役に立っている	.794	-.049	-.065	.150
(06)クラスの重要な一員だ	.752	.136	.045	-.095
(04)クラスの人と一緒にいると安心	-.058	.861	.024	.021
(02)クラスの人を信頼している	.084	.721	-.091	.099
(05)クラスの人に支えられている	.113	.694	.077	-.063
(25)クラスの人からほめられる	-.104	-.064	.887	-.060
(24)クラスの人からありがとうと言われる	-.108	.126	.663	.167
(22)クラスの手伝いをする	-.028	.110	.064	.742
(23)クラスの人が納得するような意見を言う	.348	-.158	.170	.408

因子	因子相関行列			
	1	2	3	4
1	1.000	.618	.676	.605
2	.618	1.000	.541	.495
3	.676	.541	1.000	.712
4	.605	.495	.712	1.000

※ 因子の命名に当たっては、大学教授1名、指導主事6名、大学院生2名の協議により決定した。(以下、同じ)

	パター行列a			
	因子			
	1	2	3	4
(18)家の人と一緒にいると安心	.861	.064	-.056	.019
(16)家の人を信頼している	.839	-.033	-.006	.079
(19)家の人に支えられている	.685	.019	.153	-.079
(32)家の人からありがとうと言われる	.041	.910	-.006	-.037
(33)家の人からほめられる	.041	.739	.130	-.011
(31)家の人から納得するような意見を言う	-.066	.417	.192	-.175
(21)家の人から信頼されている	.034	.035	.872	-.003
(20)家族の重要な一員だ	.287	-.020	.642	-.014
(17)家の人から頼りにされている	.011	.059	.492	.406
(15)家の人の役に立っている	.011	.027	.136	.792
(30)家の手伝いをする	.026	.430	-.208	.455

因子	因子相関行列			
	1	2	3	4
1	1.000	.650	.732	.536
2	.650	1.000	.669	.679
3	.732	.669	1.000	.700
4	.536	.679	.700	1.000

②先生との関係における自己有用感 (全学校段階共通)

主因子法:プロマックス回転

	共通性	
	初期	因子抽出後
(08)先生の役に立っている	.657	.694
(09)先生を信頼している	.597	.734
(10)先生から頼りにされている	.731	.800
(11)先生と一緒にいると安心	.637	.731
(12)先生に支えられている	.531	.600
(13)先生にとって重要な生徒だ	.675	.714
(14)先生から信頼されている	.718	.788
(26)先生の手伝いをする	.547	.602
(27)先生が納得するような意見を言う	.526	.578
(28)先生からありがとうと言われる	.647	.750
(29)先生からほめられる	.650	.707

因子	説明された分散の合計			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和a
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	合計
1	6.525	59.322	59.322	6.233	56.660	56.660	5.028
2	1.206	10.965	70.288	.888	8.069	64.728	5.457
3	.852	7.741	78.029	.579	5.263	69.992	4.471
4	.436	3.967	81.996				
5	.394	3.577	85.573				
6	.349	3.177	88.750				
7	.317	2.880	91.630				
8	.265	2.411	94.040				
9	.236	2.144	96.184				
10	.229	2.081	98.265				
11	.191	1.735	100.000				

	パター行列a		
	因子		
	1	2	3
(28)先生からありがとうと言われる	.905	-.073	.021
(29)先生からほめられる	.782	.063	.021
(26)先生の手伝いをする	.733	.001	.070
(27)先生が納得するような意見を言う	.677	.169	-.078
(14)先生から信頼されている	-.058	.885	.062
(10)先生から頼りにされている	.054	.865	-.014
(13)先生にとって重要な生徒だ	.017	.758	.103
(08)先生の役に立っている	.160	.738	-.040
(09)先生を信頼している	-.020	-.041	.895
(11)先生と一緒にいると安心	.043	.069	.780
(12)先生に支えられている	.019	.069	.714

因子	因子相関行列		
	1	2	3
1	1.000	.719	.580
2	.719	1.000	.681
3	.580	.681	1.000

(2) 関係語との自己有用感と質問2「望ましい意識・行動」の合計変数との関係の強さを調べた相関分析

	Pearson の相関係数	相関係数		
		望ましい意識と行動	クラスでの自己有用感	先生との関係性における自己有用感
望ましい意識と行動 (36問合計変数)	1	.676	.653	.660
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000
	N	3303	3288	3292
クラスでの自己有用感 (7問合計変数)	.676	1	.809	.612
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000
	N	3288	3374	3364
先生との関係性における自己有用感 (7問合計変数)	.653	.809	1	.574
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000
	N	3292	3364	3379
家庭での自己有用感 (7問合計変数)	.660	.612	.574	1
	有意確率 (両側)	.000	.000	.000
	N	3293	3366	3370

相関係数は、全て 1% 水準で有意 (両側)

(3) 自己有用感の要素間の関連を調べるために行った偏相関分析

自己有用感を構成する3つの要素である「存在感」「承認」「貢献」と「関係性」において、この4つ要素のうちの2つの要素を制御変数として、影響を取り除くことにより、残る2つの要素のみの相関係数を求めた。この①の分析により得られた相関係数により、要素間に働く影響の様子を②に示す模式図(本文中は、図1.3)を作成した。

① 偏相関分析結果

相関 (Pearson) 係数

制御変数	調べる要素	クラスの承認	クラスの存在感
クラスの関係性 & クラスの貢献	クラスの承認	相関 (Pearson)	1.000
		有意確率 (両側)	.000
		df (自由度)	0
	クラスの存在感	相関 (Pearson)	.223
	有意確率 (両側)	.000	1.000
	df (自由度)	3358	0

相関 (Pearson) 係数

制御変数	調べる要素	クラスの存在感	クラスの貢献
クラスの関係性 & クラスの承認	クラスの存在感	相関 (Pearson)	1.000
		有意確率 (両側)	.000
		df (自由度)	0
	クラスの貢献	相関 (Pearson)	.312
	有意確率 (両側)	.000	1.000
	df (自由度)	3358	0

相関 (Pearson) 係数

制御変数	調べる要素	クラスの存在感	クラスの関係性
クラスの承認 & クラスの貢献	クラスの存在感	相関 (Pearson)	1.000
		有意確率 (両側)	.000
		df (自由度)	0
	クラスの関係性	相関 (Pearson)	.400
	有意確率 (両側)	.000	1.000
	df (自由度)	3358	0

相関 (Pearson) 係数

制御変数	調べる要素	クラスの関係性	クラスの承認
クラスの貢献 & クラスの存在感	クラスの関係性	相関 (Pearson)	1.000
		有意確率 (両側)	.000
		df (自由度)	0
	クラスの承認	相関 (Pearson)	.175
	有意確率 (両側)	.000	1.000
	df (自由度)	3358	0

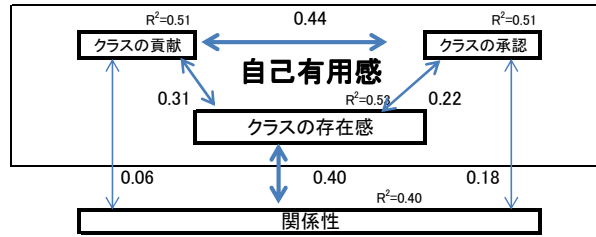
相関 (Pearson) 係数

制御変数	調べる要素	クラスの関係性	クラスの貢献
クラスの存在感 & クラスの承認	クラスの関係性	相関 (Pearson)	1.000
		有意確率 (両側)	.001
		df (自由度)	0
	クラスの貢献	相関 (Pearson)	.058
	有意確率 (両側)	.001	1.000
	df (自由度)	3358	0

相関 (Pearson) 係数

制御変数	調べる要素	クラスの貢献	クラスの承認
クラスの存在感 & クラスの関係性	クラスの貢献	相関 (Pearson)	1.000
		有意確率 (両側)	.000
		df (自由度)	0
	クラスの承認	相関 (Pearson)	.441
	有意確率 (両側)	.000	1.000
	df (自由度)	3358	0

② 自己有用感の三つの要素と「関係性」の関連(模式図)



※数値は標準偏帰係数、全て0.1%水準で有意であった。

	R <sup>2</sup>
存在感	0.53
貢献	0.51
承認	0.51
関係性	0.40

(4) 自己有用感尺度の信頼性分析

- ① 質問1(33問)より、03、10、17(〇〇から頼りにされている)を除いた30問  
「関係性:9問」を含む平成25年3月公開尺度(本紙p36)全体(:自己有用感+関係性)

信頼性統計量

	Cronbach のアルファ※	標準化された項目に基づいた Cronbach のアルファ※	項目の数
全体	.954	.954	30
小学校	.953	.953	30
中学校	.947	.948	30
高校	.947	.948	30

※ 一般に、0.7以上で尺度としての信頼性が認められており、0.8以上では十分に、0.9以上では十分に高い信頼性があるとされている。

- ② ①の30問より、「関係性:02、09、16(〇〇を信頼している)、04、11、18(〇〇と一緒にいると安心)、05、12、19(〇〇から支えられている)」の9問を除いた21問 (:自己有用感のみ)

信頼性統計量

	Cronbach のアルファ	標準化された項目に基づいた Cronbach のアルファ	項目の数
全体	.946	.946	21
小学校	.945	.945	21
中学校	.939	.940	21
高校	.937	.938	21

- ③ ②で除いた「関係性:02、09、16(〇〇を信頼している)、04、11、18(〇〇と一緒にいると安心)、05、12、19(〇〇から支えられている)」の9問 (:関係性のみ)

信頼性統計量

	Cronbach のアルファ	標準化された項目に基づいた Cronbach のアルファ	項目の数
全体	.875	.875	9
小学校	.865	.866	9
中学校	.857	.857	9
高校	.870	.870	9

質問2「望ましい意識・行動」に関する分析結果

(1) 質問項目別の状況(単純集計結果)

得点順の集計結果(全学年・学校種別)※全学年の平均値によりソートした結果

記述統計量	全学年		小学校		中学校		高校	
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差
質問2「望ましい意識・行動」質問項目								
(22) 親切にされたらありがとうございますと言っている	3.65	.580	3.66	.612	3.71	.533	3.59	.585
(29) 運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した	3.57	.707	3.71	.576	3.62	.653	3.40	.827
(12) 学校の机などの公共物は大切に使っている	3.49	.683	3.60	.655	3.49	.668	3.38	.706
(07) 勉強は将来の自分にとって大切だ	3.48	.740	3.62	.673	3.53	.694	3.30	.803
(30) 仲のよい友だちがテストで良い点をとったときにほめた	3.39	.812	3.37	.823	3.44	.801	3.35	.809
(17) 将来の夢や目標をもっている	3.29	.931	3.55	.816	3.27	.959	3.07	.948
(18) 将来就きたいなりたいと思っている職業がある	3.28	.970	3.49	.884	3.24	1.012	3.11	.972
(13) 学校のきまりをきちんと守っている	3.25	.720	3.30	.720	3.31	.698	3.15	.730
(21) だれにでもあいさつをしている	3.24	.793	3.34	.761	3.38	.732	3.02	.830
(31) 仲のよい友だちが荷物をたくさん持っているとき手伝った	3.20	.841	3.18	.875	3.24	.830	3.17	.816
(20) 大切なことは自分で考えて決めている	3.19	.782	3.23	.794	3.18	.774	3.16	.776
(27) 家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	3.19	.832	3.40	.740	3.18	.833	2.99	.864
(24) クラスや学年が違う人とも協力して行動している	3.14	.837	3.25	.827	3.26	.768	2.91	.860
(08) 学習課題を自分だけの力で解決しようとしている	3.11	.798	3.25	.771	3.14	.774	2.93	.813
(09) 学校が好きだ	3.07	.951	3.25	.918	3.11	.931	2.85	.958
(23) 意見や考えの違う人ともなごやかに話し合える	3.06	.822	3.06	.835	3.12	.788	3.00	.835
(25) 家の人が家事をしているとき家事を手伝った	3.02	.779	3.18	.764	3.02	.751	2.85	.787
(05) 学校で勉強している内容はだいたい理解している	2.99	.822	3.31	.737	2.99	.810	2.67	.789
(11) 相手を傷つけることは言わない	2.98	.823	3.08	.837	2.93	.799	2.92	.824
(19) 自分で一度決めたことをやりつづけている	2.93	.893	3.16	.853	2.90	.872	2.73	.901
(14) 自分にはよいところがある	2.87	.915	2.99	.964	2.87	.920	2.76	.844
(32) 仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	2.86	.993	3.04	.952	2.85	1.016	2.70	.983
(10) クラスの人と互いに注意し合える	2.84	.855	3.02	.878	2.87	.830	2.62	.807
(26) 家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	2.77	.940	3.02	.917	2.75	.912	2.53	.925
(02) 就寝起床など時間を守って生活している	2.74	.924	2.89	.904	2.72	.918	2.60	.927
(04) 言われなくても自分から家庭学習をしている	2.71	1.009	2.88	.974	2.81	.982	2.46	1.018
(15) 自分は将来社会の役に立てる人になれる	2.65	.854	2.71	.919	2.66	.822	2.58	.812
(28) 家の人がつかれているとき肩をもんだたいた	2.64	.977	3.02	.921	2.55	.963	2.36	.928
(01) 自分から学習や生活などの計画を立てている	2.62	.915	2.82	.900	2.65	.894	2.40	.902
(16) 自分は価値のある人間だ	2.53	.883	2.60	.933	2.53	.879	2.45	.831
(03) テレビやゲーム携帯にはあまり時間をかけていない	2.46	1.013	2.76	1.028	2.54	1.007	2.09	.883
(33) 電車やバスなどで知らない人に席をゆずった	2.35	1.080	2.45	1.117	2.33	1.103	2.28	1.014
(06) 人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	2.16	.992	2.34	1.050	2.17	.968	1.97	.919
(34) 公園などで会った知らない子を遊びにさそった	1.82	1.025	2.23	1.136	1.68	.946	1.55	.842
(36) 知らない子が嫌なことをされていたときに助けた	1.77	.965	2.11	1.081	1.65	.900	1.56	.802
(35) 知らない人が重そうな荷物を持っているとき手伝った	1.66	.917	1.81	1.003	1.60	.873	1.56	.847
有効なケースの数 (リストごと)	3281		1077		1056		1148	
全項目の平均	2.888		3.047		2.897		2.723	

・栃木の子どもの質問2「望ましい意識・行動」の全項目平均値は、2.5を超えており、概ね肯定的である。  
 ・学校種が上がるほど、自己有用感の下がっていく。

(2) 質問1「自己有用感」と質問2「望ましい意識・行動」の関係を調べた分析

自己有用感の高群(上位25%)・低群(下位25%)の比較による分析(ソート結果)

記述統計量	高群		低群		平均の差 高群-低群
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
質問2「望ましい意識・行動」質問項目					
(14) 自分にはよいところがある	3.52	.623	2.16	.881	1.353
(16) 自分は価値のある人間だ	3.18	.697	1.86	.756	1.325
(15) 自分は将来社会の役に立てる人になれる	3.27	.633	2.00	.781	1.274
(10) クラスの人と互いに注意し合える	3.42	.663	2.24	.800	1.181
(09) 学校が好きだ	3.57	.680	2.49	1.008	1.085
(06) 人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	2.72	.950	1.65	.836	1.069
(24) クラスや学年が違う人とも協力して行動している	3.61	.604	2.61	.877	1.003
(01) 自分から学習や生活などの計画を立てている	3.08	.811	2.08	.887	1.002
(23) 意見や考えの違う人ともなごやかに話し合える	3.54	.594	2.57	.856	.967
(19) 自分で一度決めたことをやりつづけている	3.40	.684	2.45	.919	.958
(32) 仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	3.28	.844	2.37	1.002	.910
(04) 言われなくても自分から家庭学習をしている	3.11	.931	2.21	.989	.895
(31) 仲のよい友だちが荷物をたくさん持っているとき手伝った	3.61	.613	2.72	.934	.890
(26) 家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	3.20	.854	2.31	.944	.886
(02) 就寝起床など時間を守って生活している	3.18	.799	2.30	.941	.881
(33) 電車やバスなどで知らない人に席をゆずった	2.78	1.039	1.92	1.019	.866
(25) 家の人が家事をしているとき家事を手伝った	3.41	.649	2.58	.806	.831
(21) だれにでもあいさつをしている	3.62	.557	2.80	.888	.825
(20) 大切なことは自分で考えて決めている	3.59	.586	2.78	.863	.814
(27) 家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	3.56	.645	2.75	.911	.803
(05) 学校で勉強している内容はだいたい理解している	3.35	.704	2.58	.855	.770
(28) 家の人がつかれているとき肩をもんだたいた	2.99	.903	2.25	.974	.742
(17) 将来の夢や目標をもっている	3.64	.680	2.90	1.093	.735
(30) 仲のよい友だちがテストで良い点をとったときにほめた	3.73	.556	3.00	.964	.730
(13) 学校のきまりをきちんと守っている	3.60	.562	2.87	.795	.729
(11) 相手を傷つけることは言わない	3.33	.685	2.60	.907	.728
(08) 学習課題を自分だけの力で解決しようとしている	3.46	.655	2.75	.893	.718
(03) テレビやゲーム携帯にはあまり時間をかけていない	2.79	1.005	2.11	1.002	.678
(29) 運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した	3.86	.395	3.19	.896	.674
(07) 勉強は将来の自分にとって大切だ	3.77	.511	3.10	.898	.669
(12) 学校の机などの公共物は大切に使っている	3.79	.456	3.13	.820	.652
(36) 知らない子が嫌なことをされていたときに助けた	2.11	1.064	1.47	.774	.642
(18) 将来就きたいなりたいと思っている職業がある	3.58	.769	2.95	1.121	.625
(35) 知らない人が重そうな荷物を持っているとき手伝った	1.97	1.043	1.39	.723	.588
(22) 親切にされたらありがとうございますと言っている	3.92	.296	3.35	.728	.570
(34) 公園などで会った知らない子を遊びにさそった	2.12	1.133	1.57	.893	.546
有効なケースの数 (リストごと)	885		805		
全項目の平均	3.296		2.446		.850

質問2「望ましい意識・行動」の全ての項目で、自己有用感の高い子どもは、低い子どもよりも、肯定的に回答している。自己有用感の高い子どもは、望ましい意識をもち、行動できていると考えられる。



② 自己有用感の高群・低群の分類と質問2各質問項目各回答との相関分析結果(学校段階別)

自己有用感の高さと関連意識や行動について調べるために、自己有用感(21問合計)平均で、上位から25%(高群)、下位25%(低群)を全体から抽出した結果(高群=2、低群=1とする)と質問2の各質問項目の回答との相関を調べた。

相関係数 学校段階別	小学校(N=560)			中学校(N=590)			高校(N=601)		
	自己有用感(高群・低群)			自己有用感(高群・低群)			自己有用感(高群・低群)		
質問2「望ましい意識・行動」質問項目	Pearsonの相関係数	有意確率(両側)	順位	Pearsonの相関係数	有意確率(両側)	順位	Pearsonの相関係数	有意確率(両側)	順位
自己有用感が高群or低群であるかの分類結果	1.00			1.00			1.00		
(01)自分から学習や生活などの計画を立てている	0.59	0.00	9位	0.53	0.00	5位	0.43	0.00	16位
(02)就寝起床など時間を守って生活している	0.55	0.00	14位	0.42	0.00	23位	0.40	0.00	22位
(03)テレビやゲーム携帯にはあまり時間をかけていない	0.42	0.00	31位	0.31	0.00	31位	0.27	0.00	35位
(04)言われなくても自分から家庭学習をしている	0.54	0.00	17位	0.44	0.00	21位	0.32	0.00	31位
(05)学校で勉強している内容はだいたい理解している	0.56	0.00	12位	0.45	0.00	14位	0.39	0.00	23位
(06)人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	0.62	0.00	7位	0.50	0.00	9位	0.42	0.00	17位
(07)勉強は将来の自分にとって大切な	0.47	0.00	25位	0.40	0.00	27位	0.40	0.00	21位
(08)学習課題を自分だけの力で解決しようとしている	0.50	0.00	22位	0.45	0.00	15位	0.33	0.00	30位
(09)学校が好きだ	0.57	0.00	10位	0.50	0.00	10位	0.57	0.00	5位
(10)クラスの人と互いに注意し合える	0.73	0.00	1位	0.58	0.00	4位	0.59	0.00	4位
(11)相手を傷つけることは言わない	0.45	0.00	29位	0.44	0.00	19位	0.36	0.00	29位
(12)学校の机などの公共物は大切に使っている	0.49	0.00	24位	0.45	0.00	16位	0.41	0.00	19位
(13)学校のきまりをきちんと守っている	0.56	0.00	11位	0.45	0.00	18位	0.41	0.00	18位
(14)自分にはよいところがある	0.73	0.00	2位	0.65	0.00	3位	0.62	0.00	2位
(15)自分は将来社会の役に立てる人になれる	0.71	0.00	3位	0.66	0.00	2位	0.64	0.00	1位
(16)自分は価値のある人間だ	0.71	0.00	4位	0.70	0.00	1位	0.62	0.00	3位
(17)将来の夢や目標をもっている	0.39	0.00	33位	0.39	0.00	28位	0.37	0.00	27位
(18)将来就きたいなりたいたいと思っている職業がある	0.37	0.00	34位	0.27	0.00	35位	0.30	0.00	32位
(19)自分で一度決めたことをやりつづけている	0.55	0.00	15位	0.49	0.00	11位	0.52	0.00	8位
(20)大切なことは自分で考えて決めている	0.62	0.00	8位	0.45	0.00	17位	0.38	0.00	24位
(21)だれにでもあいさつをしている	0.53	0.00	20位	0.42	0.00	24位	0.54	0.00	7位
(22)親切にされたらありがたうございますと言っている	0.51	0.00	21位	0.42	0.00	22位	0.45	0.00	14位
(23)意見や考えの違う人ともなごやかに話し合える	0.64	0.00	5位	0.51	0.00	6位	0.51	0.00	9位
(24)クラスや学年が違う人とも協力して行動している	0.63	0.00	6位	0.50	0.00	8位	0.56	0.00	6位
(25)家の人が家事をしているとき家事を手伝った	0.54	0.00	18位	0.51	0.00	7位	0.46	0.00	13位
(26)家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	0.45	0.00	28位	0.44	0.00	20位	0.46	0.00	12位
(27)家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	0.49	0.00	23位	0.42	0.00	25位	0.48	0.00	10位
(28)家の人がつかれているとき肩をもんだたたいた	0.44	0.00	30位	0.30	0.00	32位	0.41	0.00	20位
(29)運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した	0.46	0.00	26位	0.45	0.00	13位	0.45	0.00	15位
(30)仲のよい友だちがテストで良い点をとったときにほめた	0.53	0.00	19位	0.37	0.00	29位	0.38	0.00	26位
(31)仲のよい友だちが荷物をたくさん持っているとき手伝った	0.54	0.00	16位	0.46	0.00	12位	0.48	0.00	11位
(32)仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	0.56	0.00	13位	0.41	0.00	26位	0.38	0.00	25位
(33)電車やバスなどで知らない人に席をゆずった	0.45	0.00	27位	0.35	0.00	30位	0.36	0.00	28位
(34)公園などで会った知らない子を遊びにさそった	0.35	0.00	36位	0.24	0.00	36位	0.21	0.00	36位
(35)知らない人が重そうな荷物を持っているとき手伝った	0.37	0.00	35位	0.28	0.00	34位	0.28	0.00	34位
(36)知らない子が嫌なことをさせていたときに助けた	0.42	0.00	32位	0.28	0.00	33位	0.30	0.00	33位
全項目の平均	0.54			0.46			0.44		

・全ての質問項目で、有意な相関があった。特に、自尊感情に関する項目との相関が強い。  
 ・多くの質問項目で、相関係数が、学校段階の上昇に連れて下がっていくが、中学で一度下がったものの高校で再び上昇する質問項目もいくつかある。

③ 自己有用感と質問2各項目の重回帰分析結果

従属変数:自己有用感(21問合計)

※ 有意確率0.05未満の項目のみ抽出した。

学校段階	有意な関連があった質問2の項目	係数a		t 値	有意確率
		B	標準誤差		
小学校	(定数)	.639	.087	7.357	.000
	(14)自分にはよいところがある	.124	.016	7.654	.000
	(10)クラスの人と互いに注意し合える	.126	.018	6.949	.000
	(25)家の人が家事をしているとき家事を手伝った	.098	.019	5.199	.000
	(06)人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	.066	.013	5.079	.000
	(15)自分は将来社会の役に立てる人になれる	.074	.018	4.101	.000
	(16)自分は価値のある人間だ	.067	.017	3.876	.000
	(09)学校が好きだ	.060	.015	3.986	.000
	(26)家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	.055	.015	3.639	.000
	(05)学校で勉強している内容はだいたい理解している	.055	.019	2.931	.003
	(24)クラスや学年が違う人とも協力して行動している	.048	.017	2.778	.006
	(11)相手を傷つけることは言わない	.045	.015	2.907	.004
	(28)家の人がつかれているとき肩をもんだたたいた	.039	.014	2.677	.008
	(20)大切なことは自分で考えて決めている	.044	.018	2.417	.016
	(32)仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	.037	.015	2.498	.013
	(22)親切にされたらありがたうございますと言っている	.058	.023	2.525	.012
(02)就寝起床など時間を守って生活している	.037	.016	2.330	.020	
(01)自分から学習や生活などの計画を立てている	.036	.016	2.184	.029	
(36)知らない子が嫌なことをさせていたときに助けた	-.027	.012	-2.242	.025	
中学校	(定数)	.619	.089	6.975	.000
	(16)自分は価値のある人間だ	.163	.020	8.352	.000
	(25)家の人が家事をしているとき家事を手伝った	.112	.019	5.923	.000
	(14)自分にはよいところがある	.090	.017	5.175	.000
	(10)クラスの人と互いに注意し合える	.100	.018	5.601	.000
	(01)自分から学習や生活などの計画を立てている	.073	.015	4.890	.000
	(24)クラスや学年が違う人とも協力して行動している	.069	.017	3.956	.000
	(15)自分は将来社会の役に立てる人になれる	.061	.022	2.829	.005
	(26)家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	.047	.016	2.954	.003
	(06)人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	.043	.014	3.163	.002
	(12)学校の机などの公共物は大切に使っている	.062	.019	3.197	.001
	(27)家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	.049	.016	2.974	.003
	(32)仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	.036	.012	2.956	.003
	(09)学校が好きだ	.039	.015	2.663	.008
	(07)勉強は将来の自分にとって大切な	.049	.018	2.675	.008
	(21)だれにでもあいさつをしている	.038	.018	2.091	.037
高校	(定数)	.309	.082	3.760	.000
	(16)自分は価値のある人間だ	.155	.020	7.684	.000
	(09)学校が好きだ	.098	.015	6.667	.000
	(14)自分にはよいところがある	.103	.020	5.133	.000
	(25)家の人が家事をしているとき家事を手伝った	.092	.019	4.940	.000
	(10)クラスの人と互いに注意し合える	.078	.018	4.344	.000
	(27)家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	.071	.016	4.328	.000
	(24)クラスや学年が違う人とも協力して行動している	.060	.016	3.699	.000
	(21)だれにでもあいさつをしている	.059	.017	3.591	.000
	(19)自分で一度決めたことをやりつづけている	.054	.016	3.302	.001
	(15)自分は将来社会の役に立てる人になれる	.056	.021	2.623	.009
	(26)家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	.041	.016	2.577	.010
	(29)運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した	.046	.017	2.698	.007
	(05)学校で勉強している内容はだいたい理解している	.043	.016	2.725	.007
	(07)勉強は将来の自分にとって大切な	.037	.016	2.302	.021
	(32)仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	.029	.013	2.156	.031
	(11)相手を傷つけることは言わない	.035	.016	2.215	.027
(02)就寝起床など時間を守って生活している	.028	.014	2.051	.040	
(17)将来の夢や目標をもっている	-.028	.014	-2.015	.044	

③ 自己有用感と自尊感情の影響の違いを調べた偏相関分析

質問2で調べた「望ましい意識・行動」について、自己有用感と自尊感情のどちらの影響が強いのか、それぞれの影響を取り除いた相関分析(=偏相関分析)を行い、比較した。

自尊感情の影響を取り除いた相関分析結果 (自己有用感と関連の強さ)

制御変数: 自尊感情に関する項目(3項目)の合計点	相関係数	有意確率 (両側)
クラスでの自己有用感(7項目)合計点	1.000	.
(10) クラスの人と互いに注意し合える	.449	.000
(24) クラスや学年が違う人とも協力して行動している	.372	.000
(09) 学校が好きだ	.342	.000
(23) 意見や考えの違う人ともなごやかに話し合える	.313	.000
(29) 運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した	.312	.000
(21) だれにでもあいさつをしている	.311	.000
(06) 人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	.299	.000
(31) 仲のよい友だちが荷物をたくさん持っているとき手伝った	.295	.000
(32) 仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	.281	.000
(05) 学校で勉強している内容はだいたい理解している	.278	.000
(01) 自分から学習や生活などの計画を立てている	.274	.000
(22) 親切にされたらありがとうございますと言っている	.261	.000
(30) 仲のよい友だちがテストで良い点をとったときにほめた	.250	.000
(27) 家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	.246	.000
(25) 家の人が家事をしているとき家事を手伝った	.240	.000
(26) 家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	.236	.000
(19) 自分で一度決めたことをやりつづけている	.230	.000
(08) 学習課題を自分だけの力で解決しようとしている	.228	.000
(12) 学校の机などの公共物は大切に使っている	.206	.000
(04) 言われなくても自分から家庭学習をしている	.205	.000
(07) 勉強は将来の自分にとって大切だ	.202	.000
(36) 知らない子が嫌なことをされていたときに助けた	.199	.000
(34) 公園などで会った知らない子を遊びにさそった	.188	.000
(02) 就寝起床など時間を守って生活している	.181	.000
(33) 電車やバスなどで知らない人に席をゆずった	.177	.000
(11) 相手を傷つけることは言わない	.175	.000
(35) 知らない人が重そうな荷物を持っているとき手伝った	.174	.000
(03) テレビやゲーム携帯にはあまり時間をかけていない	.174	.000
(20) 大切なことは自分で考えて決めている	.173	.000
(28) 家の人がつかれているとき肩をもんだたいた	.171	.000
(13) 学校のきまりをきちんと守っている	.163	.000
(17) 将来の夢や目標をもっている	.133	.000
(18) 将来就きたいなりたいたいと思っている職業がある	.113	.000
df (自由度)		3263

参考: 分析に用いた「自尊感情」に関する質問3項目

(14) 自分にはよいところがある (15) 自分は将来社会の役に立てる人になれる (16) 自分は価値のある人間だ

参考: 分析に用いた「クラスでの自己有用感」の質問7項目

(01) クラスの人の役に立っている (06) クラスの重要な一員だ (07) クラスの人から信頼されている  
(22) クラスの人の手伝いをする (23) クラスの人が納得するような意見を言う (24) クラスの人からありがとうと言われる (25) クラスの人からほめられる

自己有用感の影響を取り除いた相関分析結果 (自尊感情との関連の強さ)

制御変数: クラスでの自己有用感(7項目)の合計点	相関係数	有意確率 (両側)
自尊感情に関する項目(3項目)の合計点	1.000	.
(20) 大切なことは自分で考えて決めている	.228	.000
(13) 学校のきまりをきちんと守っている	.203	.000
(17) 将来の夢や目標をもっている	.201	.000
(19) 自分で一度決めたことをやりつづけている	.193	.000
(06) 人の前で自分の意見を発表するのは得意な方だ	.183	.000
(02) 就寝起床など時間を守って生活している	.176	.000
(23) 意見や考えの違う人ともなごやかに話し合える	.145	.000
(18) 将来就きたいなりたいたいと思っている職業がある	.145	.000
(10) クラスの人と互いに注意し合える	.145	.000
(09) 学校が好きだ	.139	.000
(07) 勉強は将来の自分にとって大切だ	.137	.000
(01) 自分から学習や生活などの計画を立てている	.135	.000
(08) 学習課題を自分だけの力で解決しようとしている	.134	.000
(05) 学校で勉強している内容はだいたい理解している	.133	.000
(04) 言われなくても自分から家庭学習をしている	.131	.000
(11) 相手を傷つけることは言わない	.130	.000
(12) 学校の机などの公共物は大切に使っている	.127	.000
(03) テレビやゲーム携帯にはあまり時間をかけていない	.096	.000
(21) だれにでもあいさつをしている	.095	.000
(22) 親切にされたらありがとうございますと言っている	.087	.000
(24) クラスや学年が違う人とも協力して行動している	.082	.000
(28) 家の人がつかれているとき肩をもんだたいた	.078	.000
(33) 電車やバスなどで知らない人に席をゆずった	.060	.001
(25) 家の人が家事をしているとき家事を手伝った	.053	.003
(30) 仲のよい友だちがテストで良い点をとったときにほめた	.050	.004
(27) 家の人が重たい荷物を持っているとき手伝った	.049	.005
(36) 知らない子が嫌なことをされていたときに助けた	.045	.010
(31) 仲のよい友だちが荷物をたくさん持っているとき手伝った	.045	.011
(29) 運動会で仲のよい友だちが走っているときに応援した	.040	.024
(26) 家の人に飲み物コーヒーやお茶などをいれた	.031	.077
(32) 仲のよい友だちがケガや病気のとき保健室までつれて行った	.026	.143
(35) 知らない人が重そうな荷物を持っているとき手伝った	.015	.380
(34) 公園などで会った知らない子を遊びにさそった	.013	.456
df (自由度)		3263

### 質問3「教育的環境・関わり方」に関する分析結果

(1) 質問1の自己有用感の高群(25%)と低群(25%)の比較 (単純集計)

記述統計量	高群		低群		平均の差
	平均値	標準偏差	平均値	標準偏差	
質問3「教育的環境・関わり方」質問項目					
(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	2.97	.847	1.87	.785	1.09
(24)家の方はわたしと将来のことについて話をする	3.46	.753	2.49	1.034	0.98
(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	3.32	.788	2.35	.887	0.96
(26)家の方は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	3.23	.921	2.28	1.035	0.96
(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	3.48	.718	2.52	.924	0.96
(11)先生は授業の中でクラスの人同士がよいところを認め合う場をとる	3.19	.859	2.28	.878	0.90
(28)家の方は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	3.72	.575	2.84	1.003	0.88
(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	3.01	1.014	2.14	1.067	0.86
(25)家の方は読書をすすめる	2.93	1.039	2.08	1.050	0.85
(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる	3.34	.788	2.50	.920	0.85
(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	3.73	.566	2.90	1.015	0.83
(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	3.30	.861	2.49	1.000	0.81
(23)家の方はわたしに時間を守ることが大切だと言う	3.52	.707	2.71	1.032	0.80
(04)クラスはルールを守るクラスだ	3.25	.720	2.46	.836	0.80
(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	3.43	.784	2.64	.955	0.80
(30)住んでいる地域には知らない子どもに注意をする大人がいる	3.01	.998	2.21	1.007	0.80
(06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている	3.58	.623	2.80	.900	0.79
(07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている	3.55	.644	2.76	.872	0.79
(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	3.61	.578	2.85	.837	0.76
(27)家の方は大切なことを守らないときにはきびしくしかってくれる	3.70	.564	2.97	.950	0.73
(10)先生は授業の中でクラスの人同士が協力する時間をとっている	3.45	.797	2.72	.915	0.73
(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	3.31	.961	2.58	1.109	0.73
(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	3.78	.481	3.06	.842	0.72
(22)学校では先生同士が協力している	3.54	.668	2.83	.859	0.71
(09)先生は授業の中でクラスの人同士で教え合う時間をとっている	3.39	.823	2.69	.958	0.70
(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	3.26	.865	2.57	.964	0.69
(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	3.75	.490	3.08	.808	0.67
(21)学校では地域の人のためになる活動をする	3.35	.849	2.68	.960	0.67
(17)先生は大切なことを守らないときにはきびしくしかってくれる	3.65	.600	3.03	.891	0.62
(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	3.01	1.139	2.41	1.187	0.60
全項目の平均	3.39		2.59		0.80
有効なケースの数 (リストごと)	885		815		

※ ここでの自己有用感は、クラス、先生、家庭の三つの関係合計とした。

先生や家族など、ほめるや話しかけるなど、子どもへの日常的な関わりが上位にランクされている。

(2) 自己有用感を高める手立てを求める分析 (多変量分散分析)

①クラスの自己有用感を高める手立てを求めて (効果量=effective size)

学校段階		N	
小学校	クラスの自己有用感	低群	262
		高群	247
中学校	クラスの自己有用感	低群	229
		高群	227
高校	クラスの自己有用感	低群	280
		高群	286

・クラスでの自己有用感の高群が低群かという結果を固定因子とし、質問3の各項目を従属変数にして、多変量分散分析を行ない、各項目の効果量を求めた。

※「効果量」は、分析においては「effect size」または「偏イータ2乗」と呼ばれる。ここでは、質問3(1)から(30)の各項目の回答の分布の(自己有用感の高群と低群との間での)差や違いを示しており、自己有用感を高める効果の程度を表している。

多変量検定

学校段階	効果	値	F 値	仮説自由度	誤差自由度	有意確率	効果量			
小学校	切片	Pillai のトレース	.990	1560.896	30.000	478.000	.000	.990		
		Wilks のラムダ	.010	1560.896	30.000	478.000	.000	.990		
		Hotelling のトレース	97.964	1560.896	30.000	478.000	.000	.990		
		Roy の最大根	97.964	1560.896	30.000	478.000	.000	.990		
		クラスの自己有用感(高群・低群)	Pillai のトレース	.581	22.098	30.000	478.000	.000	.581	
			Wilks のラムダ	.419	22.098	30.000	478.000	.000	.581	
	Hotelling のトレース		1.387	22.098	30.000	478.000	.000	.581		
	Roy の最大根		1.387	22.098	30.000	478.000	.000	.581		
	中学校		切片	Pillai のトレース	.988	1193.926	30.000	425.000	.000	.988
				Wilks のラムダ	.012	1193.926	30.000	425.000	.000	.988
		Hotelling のトレース		84.277	1193.926	30.000	425.000	.000	.988	
		Roy の最大根		84.277	1193.926	30.000	425.000	.000	.988	
クラスの自己有用感(高群・低群)		Pillai のトレース		.528	15.872	30.000	425.000	.000	.528	
		Wilks のラムダ		.472	15.872	30.000	425.000	.000	.528	
	Hotelling のトレース	1.120	15.872	30.000	425.000	.000	.528			
	Roy の最大根	1.120	15.872	30.000	425.000	.000	.528			
	高校	切片	Pillai のトレース	.985	1140.784	30.000	535.000	.000	.985	
			Wilks のラムダ	.015	1140.784	30.000	535.000	.000	.985	
Hotelling のトレース			63.969	1140.784	30.000	535.000	.000	.985		
Roy の最大根			63.969	1140.784	30.000	535.000	.000	.985		
クラスの自己有用感(高群・低群)			Pillai のトレース	.510	18.585	30.000	535.000	.000	.510	
			Wilks のラムダ	.490	18.585	30.000	535.000	.000	.510	
		Hotelling のトレース	1.042	18.585	30.000	535.000	.000	.510		
		Roy の最大根	1.042	18.585	30.000	535.000	.000	.510		

被験者間効果の検定

学校段階	ソース	従属変数(質問3 各項目)	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	効果量	順位
小学校	修正モデル	(11)先生は授業の中でクラスの人間士がよいところを認め合う場をとる	129.373	1	129.373	232.171	.000	.314	1位
		(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	159.573	1	159.573	221.687	.000	.304	2位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	126.245	1	126.245	189.131	.000	.272	3位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	91.925	1	91.925	167.935	.000	.249	4位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	93.934	1	93.934	160.730	.000	.241	5位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	76.801	1	76.801	160.412	.000	.240	6位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	84.770	1	84.770	154.171	.000	.233	7位
		(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	139.501	1	139.501	151.704	.000	.230	8位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	68.618	1	68.618	149.866	.000	.228	9位
		(07)先生はわたしに計画を立てさせて取り組ませている	74.441	1	74.441	146.069	.000	.224	10位
		(24)家の人わたしと将来のことについて話を	133.794	1	133.794	144.716	.000	.222	11位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	91.322	1	91.322	142.250	.000	.219	12位
		(22)学校では先生同士が協力している	59.805	1	59.805	135.713	.000	.211	13位
		(10)先生は授業の中でクラスの人間士が協力する時間をとっている	73.142	1	73.142	135.310	.000	.211	14位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	96.632	1	96.632	135.301	.000	.211	15位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	93.344	1	93.344	135.034	.000	.210	16位
		(09)先生は授業の中でクラスの人間士と教え合う時間をとっている	65.142	1	65.142	125.530	.000	.198	17位
		(06)先生はわたしに目標を決めさせて取り組ませている	69.159	1	69.159	125.495	.000	.198	18位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるときは協力してくれる	75.409	1	75.409	121.996	.000	.194	19位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	70.270	1	70.270	121.941	.000	.194	20位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	96.502	1	96.502	117.559	.000	.188	21位
		(25)家の人読書をすすめる	127.147	1	127.147	116.854	.000	.187	22位
		(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	68.641	1	68.641	109.570	.000	.178	23位
		(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う	81.954	1	81.954	108.050	.000	.176	24位
		(20)学校ではクラブ活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	63.782	1	63.782	105.296	.000	.172	25位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもにも注意をする大人がいる	101.715	1	101.715	103.188	.000	.169	26位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返りまとめたりする	51.257	1	51.257	95.012	.000	.158	27位
		(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	57.923	1	57.923	90.746	.000	.152	28位
		(17)先生は大切なことを守らないときはききひしくかってくる	37.712	1	37.712	84.105	.000	.142	29位
		(27)家の人大切なことを守らないときはききひしくかってくる	40.202	1	40.202	78.845	.000	.135	30位

※ 効果量の大きさを並べ替えている。

学校段階	ソース	従属変数	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	効果量	順位
中学校	修正モデル	(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	93.587	1	93.587	200.226	.000	.306	1位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	73.351	1	73.351	172.396	.000	.275	2位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	61.906	1	61.906	159.621	.000	.260	3位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	91.241	1	91.241	155.331	.000	.255	4位
		(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	114.987	1	114.987	154.918	.000	.254	5位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	92.126	1	92.126	136.374	.000	.231	6位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	70.163	1	70.163	125.478	.000	.217	7位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	69.628	1	69.628	96.817	.000	.176	8位
		(10)先生は授業の中でクラスの人間士が協力する時間をとっている	48.475	1	48.475	89.639	.000	.165	9位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるときは協力してくれる	60.469	1	60.469	85.466	.000	.158	10位
		(09)先生は授業の中でクラスの人間士と教え合う時間をとっている	51.717	1	51.717	84.828	.000	.157	11位
		(11)先生は授業の中でクラスの人間士がよいところを認め合う場をとる	60.291	1	60.291	83.588	.000	.155	12位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	48.960	1	48.960	78.753	.000	.148	13位
		(20)学校ではクラブ活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	73.411	1	73.411	74.491	.000	.141	14位
		(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	77.120	1	77.120	68.211	.000	.131	15位
		(24)家の人わたしと将来のことについて話を	56.265	1	56.265	67.181	.000	.129	16位
		(06)先生はわたしに目標を決めさせて取り組ませている	36.261	1	36.261	63.230	.000	.122	17位
		(22)学校では先生同士が協力している	36.760	1	36.760	62.946	.000	.122	18位
		(07)先生はわたしに計画を立てさせて取り組ませている	36.227	1	36.227	61.324	.000	.119	19位
		(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	41.581	1	41.581	59.368	.000	.116	20位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返りまとめたりする	42.315	1	42.315	56.550	.000	.111	21位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	57.062	1	57.062	56.295	.000	.110	22位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	39.574	1	39.574	55.494	.000	.109	23位
		(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	51.909	1	51.909	55.379	.000	.109	24位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもにも注意をする大人がいる	46.980	1	46.980	49.612	.000	.099	25位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	38.247	1	38.247	47.792	.000	.095	26位
		(17)先生は大切なことを守らないときはききひしくかってくる	25.026	1	25.026	45.182	.000	.091	27位
(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う	37.257	1	37.257	45.058	.000	.090	28位		
(25)家の人読書をすすめる	50.050	1	50.050	43.581	.000	.088	29位		
(27)家の人大切なことを守らないときはききひしくかってくる	25.022	1	25.022	41.901	.000	.084	30位		
高校	修正モデル	(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	79.484	1	79.484	187.356	.000	.249	1位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	76.078	1	76.078	179.143	.000	.241	2位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	85.505	1	85.505	151.419	.000	.212	3位
		(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	91.935	1	91.935	145.526	.000	.205	4位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	105.596	1	105.596	130.374	.000	.188	5位
		(11)先生は授業の中でクラスの人間士がよいところを認め合う場をとる	89.153	1	89.153	124.774	.000	.181	6位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	91.184	1	91.184	123.792	.000	.180	7位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	69.684	1	69.684	112.621	.000	.166	8位
		(12)先生は授業の中でクラスの人間士がやりとげるときは協力してくれる	76.384	1	76.384	109.620	.000	.163	9位
		(06)先生はわたしに目標を決めさせて取り組ませている	68.952	1	68.952	108.189	.000	.161	10位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	84.760	1	84.760	106.598	.000	.159	11位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	76.198	1	76.198	105.983	.000	.158	12位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	90.081	1	90.081	98.230	.000	.148	13位
		(07)先生はわたしに計画を立てさせて取り組ませている	64.273	1	64.273	97.562	.000	.147	14位
		(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	61.680	1	61.680	87.639	.000	.134	15位
		(10)先生は授業の中でクラスの人間士が協力する時間をとっている	64.808	1	64.808	84.815	.000	.131	16位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	76.675	1	76.675	83.266	.000	.129	17位
		(24)家の人わたしと将来のことについて話を	59.438	1	59.438	77.416	.000	.121	18位
		(22)学校では先生同士が協力している	51.474	1	51.474	76.542	.000	.119	19位
		(09)先生は授業の中でクラスの人間士と教え合う時間をとっている	59.906	1	59.906	74.529	.000	.117	20位
		(27)家の人大切なことを守らないときはききひしくかってくる	56.114	1	56.114	72.100	.000	.113	21位
		(17)先生は大切なことを守らないときはききひしくかってくる	44.971	1	44.971	68.997	.000	.109	22位
		(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う	60.648	1	60.648	68.790	.000	.109	23位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返りまとめたりする	55.723	1	55.723	67.962	.000	.108	24位
		(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	50.714	1	50.714	51.996	.000	.084	25位
(20)学校ではクラブ活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	58.275	1	58.275	51.077	.000	.083	26位		
(30)住んでいる地域には知らない子どもにも注意をする大人がいる	39.828	1	39.828	39.727	.000	.066	27位		
(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	37.428	1	37.428	35.599	.000	.059	28位		
(21)学校では地域の人のためになる活動をする	28.832	1	28.832	30.702	.000	.052	29位		
(25)家の人読書をすすめる	29.329	1	29.329	28.753	.000	.049	30位		

※ 効果量の大きさを並べ替えている。

※ 「効果量」は、概ね0.2以上で効果がある。0.1以上で「やや効果がある」とされている。II章では、「0.180」以上の項目を抽出して示した。

②先生との関係性における自己有用感を高める手立てを求めて（多変量分散分析）

被験者関因子			N
小学校	先生との関係性における自己有用感	低群	280
		高群	248
中学校	先生との関係性における自己有用感	低群	238
		高群	297
高校	先生との関係性における自己有用感	低群	280
		高群	285

・先生との関係性における自己有用感の高群が低群かという結果を固定因子とし、質問3(1)から(30)の各項目の回答の分布の自己有用感の高群と低群との差や違いを示しており、自己有用感を高める効果の程度を表している。

※「効果量」は、分析においては「effect size」または「偏イータ2乗」と呼ばれる。ここでは、質問3(1)から(30)の各項目の回答の分布の自己有用感の高群と低群との差や違いを示しており、自己有用感を高める効果の程度を表している。

多変量検定

学校段階	効果		値	F 値	仮説自由度	誤差自由度	有意確率	効果量		
小学校	切片	Pillai のトレース	.989	1480.235	30.000	497.000	.000	.989		
		Wilks のラムダ	.011	1480.235	30.000	497.000	.000	.989		
		Hotelling のトレース	89.350	1480.235	30.000	497.000	.000	.989		
		Roy の最大根	89.350	1480.235	30.000	497.000	.000	.989		
		Pillai のトレース	.590	23.864	30.000	497.000	.000	.590		
	先生との関係性における自己有用感(高群・低群)	Wilks のラムダ	.410	23.864	30.000	497.000	.000	.590		
		Hotelling のトレース	1.441	23.864	30.000	497.000	.000	.590		
		Roy の最大根	1.441	23.864	30.000	497.000	.000	.590		
		中学校	切片	Pillai のトレース	.988	1369.531	30.000	504.000	.000	.988
				Wilks のラムダ	.012	1369.531	30.000	504.000	.000	.988
Hotelling のトレース	81.520			1369.531	30.000	504.000	.000	.988		
Roy の最大根	81.520			1369.531	30.000	504.000	.000	.988		
Pillai のトレース	.505			17.138	30.000	504.000	.000	.505		
先生との関係性における自己有用感(高群・低群)	Wilks のラムダ		.495	17.138	30.000	504.000	.000	.505		
	Hotelling のトレース		1.020	17.138	30.000	504.000	.000	.505		
	Roy の最大根		1.020	17.138	30.000	504.000	.000	.505		
	高校		切片	Pillai のトレース	.984	1120.659	30.000	534.000	.000	.984
				Wilks のラムダ	.016	1120.659	30.000	534.000	.000	.984
Hotelling のトレース		62.958		1120.659	30.000	534.000	.000	.984		
Roy の最大根		62.958		1120.659	30.000	534.000	.000	.984		
Pillai のトレース		.527		19.824	30.000	534.000	.000	.527		
先生との関係性における自己有用感(高群・低群)		Wilks のラムダ	.473	19.824	30.000	534.000	.000	.527		
		Hotelling のトレース	1.114	19.824	30.000	534.000	.000	.527		
		Roy の最大根	1.114	19.824	30.000	534.000	.000	.527		

被験者間効果の検定

学校段階	ソース	従属変数	タイプ III 平方	自由度	平均平方	F 値	有意確率	効果量	順位
小学校	修正モデル	(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	260.620	1	260.620	416.618	.000	.442	1位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	176.517	1	176.517	282.033	.000	.349	2位
		(11)先生は授業の中でクラスの人間士がよいところを認め合う場をとる	133.981	1	133.981	224.558	.000	.299	3位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	146.687	1	146.687	221.402	.000	.296	4位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるとまで見守ってくれる	101.488	1	101.488	175.596	.000	.250	5位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	107.238	1	107.238	163.787	.000	.237	6位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	88.789	1	88.789	152.026	.000	.224	7位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	86.488	1	86.488	145.594	.000	.217	8位
		(22)学校では先生同士が協力している	69.018	1	69.018	145.277	.000	.216	9位
		(10)先生は授業の中でクラスの人間士が協力する時間をとっている	73.727	1	73.727	138.616	.000	.209	10位
		(26)家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	128.862	1	128.862	135.273	.000	.205	11位
		(06)先生はわたしに目標を決めさせて取り組ませている	72.507	1	72.507	134.082	.000	.203	12位
		(07)先生はわたしに計画を立てさせて取り組ませている	69.634	1	69.634	130.149	.000	.198	13位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	73.955	1	73.955	128.615	.000	.196	14位
		(24)家の人はわたしと将来のことについて話を	125.939	1	125.939	127.608	.000	.195	15位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	83.420	1	83.420	124.693	.000	.192	16位
		(09)先生は授業の中でクラスの人間士で教え合う時間をとっている	64.782	1	64.782	123.786	.000	.191	17位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場所で活躍している	57.492	1	57.492	120.203	.000	.186	18位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	55.388	1	55.388	109.295	.000	.172	19位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	57.332	1	57.332	105.835	.000	.168	20位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	57.974	1	57.974	102.624	.000	.163	21位
		(25)家の人は読書をすすめる	118.031	1	118.031	100.225	.000	.160	22位
		(27)家の人は大切なことを守らないときにはきびしくしてくれる	49.962	1	49.962	99.535	.000	.159	23位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	78.663	1	78.663	93.139	.000	.150	24位
		(28)家の人は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	52.746	1	52.746	92.740	.000	.150	25位
		(17)先生は大切なことを守らないときにはきびしくしてくれる	38.297	1	38.297	88.445	.000	.144	26位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもにも注意をする大人がいる	88.515	1	88.515	82.969	.000	.136	27位
		(23)家の人はわたしに時間を守ることが大切だと言う	59.432	1	59.432	80.976	.000	.133	28位
		(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	39.984	1	39.984	63.437	.000	.108	29位
		(03)友だちは休み時間などにわたしと校庭などで遊ぶ	33.579	1	33.579	51.077	.000	.089	30位

※ 効果量の大きさと並べ替えてある。

学校段階	ソース	従属変数	タイプ III 平方	自由度	平均平方	F 値	有意確率	効果量	順位
中学校	修正モデル	(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	189.732	1	189.732	290.753	.000	.353	1位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	157.691	1	157.691	254.321	.000	.325	2位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	149.987	1	149.987	233.993	.000	.305	3位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるとまで見守ってくれる	123.792	1	123.792	192.814	.000	.266	4位
		(11)先生は授業の中でクラスの人間士がよいところを認め合う場をとる	112.414	1	112.414	191.348	.000	.264	5位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	83.445	1	83.445	133.740	.000	.201	6位
		(22)学校では先生同士が協力している	68.393	1	68.393	132.632	.000	.199	7位
		(06)先生はわたしに目標を決めさせて取り組ませている	62.319	1	62.319	128.683	.000	.194	8位
		(07)先生はわたしに計画を立てさせて取り組ませている	63.226	1	63.226	125.143	.000	.190	9位
		(09)先生は授業の中でクラスの人間士で教え合う時間をとっている	72.451	1	72.451	121.205	.000	.185	10位
		(10)先生は授業の中でクラスの人間士が協力する時間をとっている	62.779	1	62.779	120.948	.000	.185	11位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	61.760	1	61.760	115.105	.000	.178	12位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	79.793	1	79.793	111.588	.000	.173	13位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場所で活躍している	52.796	1	52.796	99.446	.000	.157	14位
		(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	82.060	1	82.060	92.709	.000	.148	15位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	56.921	1	56.921	91.242	.000	.146	16位
		(17)先生は大切なことを守らないときにはきびしくしてくれる	48.148	1	48.148	89.814	.000	.144	17位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	36.735	1	36.735	83.314	.000	.135	18位
		(26)家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	76.154	1	76.154	79.105	.000	.129	19位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	40.708	1	40.708	69.762	.000	.116	20位
		(24)家の人はわたしと将来のことについて話を	61.032	1	61.032	69.585	.000	.115	21位
		(28)家の人は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	49.885	1	49.885	68.724	.000	.114	22位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	24.314	1	24.314	59.469	.000	.100	23位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもにも注意をする大人がいる	57.635	1	57.635	57.569	.000	.097	24位
		(27)家の人は大切なことを守らないときにはきびしくしてくれる	31.092	1	31.092	56.123	.000	.095	25位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	30.736	1	30.736	48.887	.000	.084	26位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	45.834	1	45.834	43.178	.000	.075	27位
		(25)家の人は読書をすすめる	49.823	1	49.823	42.560	.000	.074	28位
		(23)家の人はわたしに時間を守ることが大切だと言う	34.930	1	34.930	42.270	.000	.073	29位
		(03)友だちは休み時間などにわたしと校庭などで遊ぶ	32.716	1	32.716	26.372	.000	.047	30位
高校	修正モデル	(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	154.381	1	154.381	286.478	.000	.337	1位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	137.075	1	137.075	214.901	.000	.276	2位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	137.931	1	137.931	196.021	.000	.258	3位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるとまで見守ってくれる	123.895	1	123.895	180.122	.000	.242	4位
		(06)先生はわたしに目標を決めさせて取り組ませている	97.273	1	97.273	153.554	.000	.214	5位
		(11)先生は授業の中でクラスの人間士がよいところを認め合う場をとる	106.947	1	106.947	149.112	.000	.209	6位
		(07)先生はわたしに計画を立てさせて取り組ませている	88.407	1	88.407	141.708	.000	.201	7位
		(22)学校では先生同士が協力している	87.096	1	87.096	141.476	.000	.201	8位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	109.254	1	109.254	139.820	.000	.199	9位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	97.435	1	97.435	117.140	.000	.172	10位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	44.148	1	44.148	100.654	.000	.152	11位
		(10)先生は授業の中でクラスの人間士が協力する時間をとっている	76.697	1	76.697	100.436	.000	.151	12位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	84.790	1	84.790	93.271	.000	.142	13位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	38.466	1	38.466	85.997	.000	.133	14位
		(17)先生は大切なことを守らないときにはきびしくしてくれる	57.057	1	57.057	83.619	.000	.129	15位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作する	73.381	1	73.381	83.295	.000	.129	16位
		(09)先生は授業の中でクラスの人間士で教え合う時間をとっている	67.741	1	67.741	82.704	.000	.128	17位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場所で活躍している	44.098	1	44.098	76.787	.000	.120	18位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	58.006	1	58.006	71.152	.000	.112	19位
		(24)家の人はわたしと将来のことについて話を	56.373	1	56.373	70.210	.000	.111	20位
		(27)家の人は大切なことを守らないときにはきびしくしてくれる	56.384	1	56.384	69.851	.000	.110	21位
		(26)家の人は学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	67.410	1	67.410	69.473	.000	.110	22位
		(23)家の人はわたしに時間を守ることが大切だと言う	61.248	1	61.248	68.863	.000	.109	23位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	39.479	1	39.479	60.790	.000	.097	24位
		(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	66.618	1	66.618	58.513	.000	.094	25位
		(28)家の人は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	41.565	1	41.565	52.078	.000	.085	26位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	48.568	1	48.568	51.768	.000	.084	27位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもにも注意をする大人がいる	46.220	1	46.220	47.831	.000	.078	28位
		(25)家の人は読書をすすめる	46.453	1	46.453	43.448	.000	.072	29位
		(03)友だちは休み時間などにわたしと校庭などで遊ぶ	39.078	1	39.078	38.925	.000	.065	30位

※ 効果量の大きさと並べ替えてある。

※ 「効果量」は、概ね0.2以上で「効果がある」、0.1以上で「やや効果がある」とされている。II 章では、「0.180」以上の項目を抽出して示した。

③家庭での自己有用感を高める手立てを求めて（多変量分散分析）

被験者間因子			
学校段階	N		
小学校	家庭での自己有用感	低群	237
		高群	292
中学校	家庭での自己有用感	低群	236
		高群	228
高校	家庭での自己有用感	低群	278
		高群	295

・家庭での自己有用感の高群が低群かという結果を固定因子とし、質問3の各項目を従属変数にして、多変量分散分析を行い、各項目の効果量を求めた。

※「効果量」は、分析においては「effect size」または「偏イータ2乗」と呼ばれる。ここでは、質問3(1)から(30)の各項目の回答の分布の（自己有用感の高群と低群との間での）差や違いを示しており、自己有用感を高める効果の程度を表している。

多変量検定

学校段階	効果	値	F 値	仮説自由度	誤差自由度	有意確率	効果量		
小学校	切片	Pillai のトレース	.990	1575.902	30.000	498.000	.000	.990	
		Wilks のラムダ	.010	1575.902	30.000	498.000	.000	.990	
		Hotelling のトレース	94.934	1575.902	30.000	498.000	.000	.990	
		Roy の最大根	94.934	1575.902	30.000	498.000	.000	.990	
		先生との関係性における自己有用感（高群・低群）	Pillai のトレース	.598	24.714	30.000	498.000	.000	.598
	中学校	切片	Pillai のトレース	.989	1267.554	30.000	433.000	.000	.989
			Wilks のラムダ	.011	1267.554	30.000	433.000	.000	.989
			Hotelling のトレース	87.821	1267.554	30.000	433.000	.000	.989
			Roy の最大根	87.821	1267.554	30.000	433.000	.000	.989
			先生との関係性における自己有用感（高群・低群）	Pillai のトレース	.569	19.064	30.000	433.000	.000
高校		切片	Pillai のトレース	.984	1146.156	30.000	542.000	.000	.984
			Wilks のラムダ	.016	1146.156	30.000	542.000	.000	.984
			Hotelling のトレース	63.440	1146.156	30.000	542.000	.000	.984
			Roy の最大根	63.440	1146.156	30.000	542.000	.000	.984
			先生との関係性における自己有用感（高群・低群）	Pillai のトレース	.534	20.716	30.000	542.000	.000

被験者間効果量の検定

学校段階	ソース	従属変数	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	効果量	順位
小学校	修正モデル	(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	144.789	1	144.789	300.251	.000	.363	1位
		(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	188.977	1	188.977	229.030	.000	.303	2位
		(24)家の人わたしと将来のことについて話をする	195.998	1	195.998	209.299	.000	.285	3位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	88.047	1	88.047	181.556	.000	.256	4位
		(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う	105.375	1	105.375	157.615	.000	.230	5位
		(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	119.511	1	119.511	154.665	.000	.227	6位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	82.303	1	82.303	154.229	.000	.226	7位
		(25)家の人読書をすすめる	155.542	1	155.542	148.247	.000	.220	8位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作る	84.936	1	84.936	144.966	.000	.216	9位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	87.585	1	87.585	136.329	.000	.206	10位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	107.901	1	107.901	135.528	.000	.205	11位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	65.043	1	65.043	135.465	.000	.204	12位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	57.501	1	57.501	131.062	.000	.199	13位
		(11)先生は授業の中でクラスの同士がよいところを認め合う場をとる	77.203	1	77.203	120.163	.000	.186	14位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	79.343	1	79.343	111.251	.000	.174	15位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもに注意をする大人がいる	103.655	1	103.655	108.959	.000	.171	16位
		(09)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守っている	55.015	1	55.015	108.394	.000	.171	17位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	62.363	1	62.363	101.044	.000	.161	18位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	70.356	1	70.356	98.349	.000	.157	19位
		(22)学校では先生同士が協力している	46.140	1	46.140	98.057	.000	.157	20位
		(27)家の人大切なことを守らないときにはききひしきかってくる	43.823	1	43.823	95.916	.000	.154	21位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	66.820	1	66.820	94.452	.000	.152	22位
		(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	49.251	1	49.251	90.923	.000	.147	23位
		(10)先生は授業の中でクラスの同士が協力する時間をとっている	46.102	1	46.102	90.801	.000	.147	24位
		(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	52.048	1	52.048	87.308	.000	.142	25位
		(06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている	40.704	1	40.704	79.890	.000	.132	26位
		(17)先生は大切なことを守らないときにはききひしきかってくる	32.420	1	32.420	79.464	.000	.131	27位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる	41.962	1	41.962	72.478	.000	.121	28位
		(07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている	37.135	1	37.135	71.305	.000	.119	29位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	32.675	1	32.675	62.489	.000	.106	30位

※ 効果量の大きさと並べ替えてある。

学校段階	ソース	従属変数	タイプ III 平方和	自由度	平均平方	F 値	有意確率	効果量	順位
中学校	修正モデル	(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	162.972	1	162.972	274.283	.000	.373	1位
		(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	141.855	1	141.855	160.549	.000	.258	2位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	52.371	1	52.371	131.862	.000	.222	3位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	52.871	1	52.871	114.147	.000	.198	4位
		(27)家の人大切なことを守らないときにはききひしきかってくる	60.198	1	60.198	111.257	.000	.194	5位
		(24)家の人わたしと将来のことについて話をする	96.214	1	96.214	111.044	.000	.194	6位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	62.848	1	62.848	109.293	.000	.191	7位
		(25)家の人読書をすすめる	104.701	1	104.701	97.869	.000	.175	8位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	43.059	1	43.059	78.735	.000	.146	9位
		(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う	58.361	1	58.361	74.572	.000	.139	10位
		(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	58.019	1	58.019	71.392	.000	.134	11位
		(10)先生は授業の中でクラスの同士が協力する時間をとっている	36.269	1	36.269	71.120	.000	.133	12位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	68.915	1	68.915	68.837	.000	.130	13位
		(11)先生は授業の中でクラスの同士がよいところを認め合う場をとる	42.986	1	42.986	64.383	.000	.122	14位
		(09)先生は授業の中でクラスの同士で教え合う時間をとっている	35.435	1	35.435	59.911	.000	.115	15位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	36.598	1	36.598	57.554	.000	.111	16位
		(07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている	30.035	1	30.035	51.785	.000	.101	17位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守ってくれる	39.611	1	39.611	50.986	.000	.099	18位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	41.312	1	41.312	50.581	.000	.099	19位
		(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	47.463	1	47.463	49.444	.000	.097	20位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	40.412	1	40.412	48.806	.000	.096	21位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもに注意をする大人がいる	45.942	1	45.942	45.838	.000	.090	22位
		(06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている	25.735	1	25.735	43.990	.000	.087	23位
		(22)学校では先生同士が協力している	25.557	1	25.557	43.434	.000	.086	24位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作る	25.955	1	25.955	36.064	.000	.072	25位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	24.515	1	24.515	35.501	.000	.071	26位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	26.192	1	26.192	32.842	.000	.066	27位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	25.971	1	25.971	30.330	.000	.062	28位
		(17)先生は大切なことを守らないときにはききひしきかってくる	17.103	1	17.103	29.416	.000	.060	29位
		(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	26.934	1	26.934	21.410	.000	.044	30位
高校	修正モデル	(28)家の人話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	222.561	1	222.561	360.897	.000	.387	1位
		(27)家の人大切なことを守らないときにはききひしきかってくる	141.596	1	141.596	205.698	.000	.265	2位
		(24)家の人わたしと将来のことについて話をする	146.000	1	146.000	201.159	.000	.261	3位
		(02)友だちは話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	60.964	1	60.964	144.545	.000	.202	4位
		(23)家の人わたしに時間を守ることが大切だと言う	119.613	1	119.613	142.152	.000	.199	5位
		(26)家の人学校でどんな勉強をしているのか聞いてくれる	124.466	1	124.466	139.715	.000	.197	6位
		(07)先生はわたしたちに計画を立てさせて取り組ませている	74.880	1	74.880	115.617	.000	.168	7位
		(06)先生はわたしたちに目標を決めさせて取り組ませている	74.666	1	74.666	112.711	.000	.165	8位
		(18)学校ではやりとげられてうれしく思う行事がある	85.843	1	85.843	108.075	.000	.159	9位
		(01)友だちの方からわたしに話しかけてくれる	42.275	1	42.275	94.190	.000	.142	10位
		(05)クラスの全員がそれぞれどこかの場面で活躍している	49.556	1	49.556	85.537	.000	.130	11位
		(22)学校では先生同士が協力している	50.680	1	50.680	75.206	.000	.116	12位
		(17)先生は大切なことを守らないときにはききひしきかってくる	45.184	1	45.184	70.393	.000	.110	13位
		(04)クラスはルールを守るクラスだ	43.756	1	43.756	69.008	.000	.108	14位
		(29)住んでいる地域には積極的に参加したい行事がある	66.981	1	66.981	68.670	.000	.107	15位
		(25)家の人読書をすすめる	63.547	1	63.547	63.733	.000	.100	16位
		(15)先生はほめてほしいと思うことをほめてくれる	42.176	1	42.176	63.324	.000	.100	17位
		(14)先生の方からわたしに話しかけてくれる	45.066	1	45.066	59.475	.000	.094	18位
		(16)先生は話を聞いてほしいときには話を聞いてくれる	44.384	1	44.384	57.186	.000	.091	19位
		(30)住んでいる地域には知らない子どもに注意をする大人がいる	53.916	1	53.916	54.281	.000	.087	20位
		(12)先生は授業の中でクラスの人がやりとげるまで見守っている	40.162	1	40.162	54.208	.000	.087	21位
		(19)学校では授業や行事で掲示物や作品などを協力してせい作る	44.990	1	44.990	48.082	.000	.078	22位
		(11)先生は授業の中でクラスの同士がよいところを認め合う場をとる	34.841	1	34.841	46.265	.000	.075	23位
		(08)先生はよりよく学校生活がおくれるように話し合いの時間をとる	32.311	1	32.311	38.884	.000	.064	24位
		(20)学校ではクラブ部活動以外で違う学年の人と一緒に活動する	37.025	1	37.025	31.482	.000	.052	25位
		(21)学校では地域の人のためになる活動をする	28.900	1	28.900	29.226	.000	.049	26位
		(10)先生は授業の中でクラスの同士が協力する時間をとっている	22.422	1	22.422	27.476	.000	.046	27位
		(13)先生は授業の最後に学習した内容を振り返ったりまとめたりする	22.218	1	22.218	26.942	.000	.045	28位
		(09)先生は授業の中でクラスの同士で教え合う時間をとっている	15.876	1	15.876	18.155	.000	.031	29位
		(03)友だちは休み時間などにはわたしと校庭などで遊ぶ	5.019	1	5.019	4.492	.034	.008	30位

※ 効果量の大きさと並べ替えてある。

※ 「効果量」は、概ね0.2以上で「効果がある」、0.1以上で「やや効果がある」とされている。II章では、「0.180」以上の項目を抽出して示した。



## ◇参考文献・参考資料

### 1 参考文献等

- ・「暴力行為のない学校づくりについて（報告書）」 文部科学省 平成 23 年
- ・「中学校キャリア教育の手引き」 文部科学省 平成 23 年
- ・「生徒指導提要」 文部科学省 平成 22 年
- ・「問題事象の未然防止に向けた生徒指導の取り組み方」 国立教育政策研究所生徒指導研究センター 平成 22 年
- ・「『自己有用感』獲得によるいじめの未然防止－『日本のピア・サポート・プログラム』に基づく人間関係づくり」生徒指導研究 第 7 号 滝 充(国立教育政策研究所総括研究官) 平成 20 年
- ・「『異学年交流』『地域交流』こそ育成の要諦 ー徹したい教師の『学習支援』ー」C S 研レポート Vol. 58 滝 充 平成 18 年

### 2 参考資料

#### <総合教育センター作成資料>

- ・「自尊感情を育むためにー伸ばす・低下させない・回復させるー」平成 24 年
- ・「栃木の子どもの学ぶ意欲の向上（小・中）ー学ぶ意欲を育てるための指導の在り方ー」平成 23 年
- ・「栃木の子どもの生活状況調査（小・中・高）報告書」平成 22 年

#### <栃木県教育委員会作成資料>

- ・「学業指導の充実に向けて」平成 24 年
- ・「とちぎ教育振興ビジョン（三期計画）」平成 23 年
- ・「学業指導を知っていますか！」平成 21 年

#### <他都道府県教育センター等作成資料>

- ・東京都教職員研修センター「自尊感情や自己肯定感に関する研究（第 3 年次）」平成 23 年
- ・高知県教育センター「子どもの自尊感情をはぐくむ学校についての一考察」平成 17 年

# 高めよう! 自己有用感

～栃木の子どもの現状と指導の在り方～

発行 平成 25 年 3 月  
栃木県総合教育センター  
〒320-0002 栃木県宇都宮市瓦谷町 1070  
TEL 028-665-7204 FAX 028-665-7303  
URL <http://www.tochigi-edu.ed.jp/center/>

がんばろう日本!  
元氣をとちぎから。



栃木県総合教育センター  
とちぎ県総合教育センター

